

武井蔵『別歌百首』

― 解題・翻刻・校異 ―

武井和人*・西野 強**

【解題】

『別歌百首』に関しては、かつて論じたことがある。即ち、

武井「『別歌百首』の成立とその背景」

（初出…『埼玉大学紀要「人文科学篇」』31Ⅱ82・10

再録…武井「一条兼良の書誌的研究」〔校楓社、87・4〕

当該論文で、管見に入つた諸本を二系統に分類しつつ、以下のやうに示した（ただし④は再録時に追加。書誌事項を若干追補。（8）は武井が入手するを得たので名称を変へてある。後述）。

〔第一類Ⅱ非省略本〕

①井上宗雄蔵本

『国書総目録』未載。26・5×20・2cm。『高藤物語』と合写。奥書・識語ともになし。江戸初期写。

②肥前嶋原松平文庫蔵「列歌百首」（二四一・三三）

27・6×20・1cm。序が巻末に置かれてゐる。江戸初期（寛文）元禄頃）写。

③神宮文庫蔵本（第三門・二七六）

25・4×18・2cm。村井古巖奉納本。江戸初中期写。

④仁和寺蔵本（道・百十五）

『国書総目録』未載。原本未調。以下は田村柳壺より借覧した写真版及び田村のメモによる。袋綴装1冊。26×19・9cm。表紙左に題簽が貼られ、「別歌百首抄」と墨書される。内題は「別歌百首」。

〔第二類Ⅱ省略本〕

(5) 東京大学総合図書館蔵本（E三一・一三七七）

23・3×16・9cm。旧南葵文庫蔵本。奥書に「寛永二年六月十一日終」とあるが、本奥書と思はれる。実際の書写は江戸中期頃か。

(6) 宮内庁書陵部蔵本（鷹・二五四）

鷹司本。23・6×16・8cm。奥書が「于時享保二丁酉年八月八日写之」とあり、この時の書写と見做してよからう。表紙見返しに付箋が貼られ、以下のやうにある（本文と別筆）。

蚊田蒼生子書入拵本古今和哥集袖書云

一条関白兼良公博聞強記倭漢之才人故無師而欲讀古今集

雖讀義不通慨然咲曰一闕之市必立之平一卷之書必立之

師況歌道之奥平竟噬臍就冷泉持為卿学三代集之

秘説乃賜千書曰自今可為当家之羽翼其千書曰至今

*たけい・かずと、埼玉大学教養学部教授、日本古典籍学

**にし・つよし、専修大学大学院文学研究科助手、日本中世文学

存冷泉家也

兼良公

永享四撰政文安三太政大臣同四閑白仁元還補文明五
出家法名寛惠同十一四廿薨年八十号後成恩寺又号一条
禅閣桃花老人氏云

兼良公抄云或人貫之真筆集持参覧之云當流ハ天福本證本仍不止
被返之此遍ノ「アリ仍不為多用尤ノ」也

三代歌詞尺

いささくらわれも散なん

一盛迄なり□□させるふかき心もなし是をいとさかりと
ハ文字を書たかへたる本につきて最と尺する説ハ不可用物かき
うつすとてあらぬ僻文字共書ける物のことやうの本なる草
子を貫之自筆といひて人すかしける物をもてなして
いひ出たる徒事也その本貫之手にあらず

(7)天理大学附属天理図書館蔵「別家百首」〔九二・二・九一五〕

23・9×17・3 cm。江戸中末期写。

(8)武井蔵「別歌百首注」

久曾神昇旧蔵。『国書総目録』未載。三谷栄一「新資料より観たる竹
取物語」(『國學院雑誌』昭14・2)日本文学研究資料刊行会編『平安
朝物語』(『有精堂出版』昭45・11)に紹介あり。

近代に作成されたと覚しき包紙(焦げ茶無地)中央に、

別歌百首注 二條綱伯

狭衣徒然草祕傳

◎資慶口傳

※◎ハ朱

と墨書される。袋綴装1冊。27×19・6 cm。布目押文様薄茶色の表紙。
表紙左に題簽が貼られ、「和歌之書通経書」と墨書される。合写される
作品・丁数は以下の通り。

(四〇)

別歌百首(端作題)……………第1表、20丁裏

(遊紙)……………第21丁

狭衣三ヶ口決(端作題)……………第22丁表

徒然一舛口決(端作題)……………第22丁裏

九章(端作題)……………第22丁裏

一首哥懷紙書やう(端作題)……………第23丁表、25丁裏

資慶口傳(端作題)……………第26丁表、第27丁表(裏表紙寫)

巻末に蔵書印(「久曾神ノ藏書」〔方朱印、陽刻〕)一類あり。江戸末
期写。本書はながらく久曾神昇蔵であつたが、二〇〇六年春、武井が
古書肆より購入するを得たものである。

武井「一条兼良の書誌的研究」において、前掲拙稿を補訂の上再録し、
①(5)を対照させつつ翻刻を掲出した。

その後、『一条兼良の書誌的研究 増訂版』(おうふう、00・11)にて、
以後の研究史を整理した時にも、「本書刊行後、該書の目立つた活用は残
念ながら見られない。また、新出伝本も存しない」と述べたところであつ
た。

ところが、二〇〇四年十一月の東京古典会大入礼会に、室町末期写と思
しき一本が出品され、幸ひにも武井が入手するを得た。

該本(以下「⑨武井本」)の書誌は以下の通り。

系統は「第一類Ⅱ非省略本」。袋綴装1冊。改装。ただし、原装も袋
綴であつたと推される。25×18・5 cm。おもて表紙のみ原表紙(うら
表紙は後補)、焦げ茶無地の楮紙。外題が打付書で中央に「別歌百首」
と墨書される。ただし、磨滅してゐて判読が難しい。特に「百」字は

残画からの推定とすべきものである。表紙見返し左下隅及びうら表紙
見返し(「墨付最終丁表」)左下隅に、

さの村

大永寺竜暫

と同筆で墨書される。本文とは別筆。旧蔵者か。「さの村」「大永寺」
「竜暫」、及び墨印の印文(後掲写真版参看)、いづれも未勘。教示
を冀ふ。

(表紙見返し)



(裏表紙見返し)



墨付31丁。遊紙は存しない。和歌一首一行書、半面十四行書。本文料
紙は楮紙。虫損がやや甚だしいが、裏打ち修補されてゐる。室町末期
写。

小論では、大入礼会目録等の記載に従ひ、「室町末期写」としたが、安
土桃山写、ないし、元和寛永写、と見るべき余地を残す。ただ、いづれに
しても、現存諸本の中での最古写本であることにはかばりない。

なほ、武井本には錯簡に基づくとされる歌順の異同が存する。即ち、

諸本(井上本)		武井本
六〇 おきもせず	三六 おきもせず	
六一 しなのなる	三七 信濃なる	
六二 武蔵野ハ	三八 武蔵野ハ	
六三 おもひあらは	三九 思ひあらは	
六四 むさしあふミ	四〇 武蔵鑑	
六五 とゑはいふ	六六 とゑはいふ	
六六 年をへて	四一 年を経て	
六七 野とならは	六七 野とならは	
六八 思ふ事	六八 思ふこと	
六九 つるに行	六九 つるに行	

※諸本の歌番号は前掲書の翻刻(井上宗雄蔵本)、武井本は後掲の翻
刻に付した番号によつた。

武井本に傍線を付したやうに諸本との相違がある。また武井本の「年を
経て」(四一)は、諸本の「とゑはいふ」(六五)と「野とならは」(六七)
の間になくはならならず、武井本の空白はそのことを示唆する所為と思
はれる。したがつて、武井本の親本は錯簡(量から推すに2丁分)が生じ
た伝本であり、それ訂することなく書写したものと考へられる。

(四一)

また、諸本と比較すると後鳥羽院歌群（一一―一四）に欠脱してゐる箇所が二首ある。

まづ、すべての諸本には、一二番歌「みるまゝに……」と二三番歌「人心……」との間に、

ミつかきや我世のはしめ契りをきしその言葉を神やうけゝん（一二）

けんの字を見の字にかへし山王祇園春日住吉此四所にてハ神垣とかへへし只の神にハいかきと云也ミつかきハ伊勢と加茂ハかり此君幼少の時より俊成を御使として加茂の神にきせいし給ひしに今そのかいもなく天下もおほしめすまゝならねは御恨有て我よの初とハ我幼少よりミつかきに契りをきし事を神やうけ見給けるやと詠しける

※本文は井上本にて歌番号は前掲書による。

とあり、武井本にはない。誤写によるものと考へられるが、武井本が最古写本であることから、元々はなく後に追加されたのかもしれない。

いま一首は系統の性格によるもので、一四番歌「なき人の……」と一五番歌「詠つる……」との間に、「第二類」省略本」のすべての諸本には、

とはるゝもうれしくもなし此海をわたらぬ人のなけのなさは

なけの不審とりくにあれとも此哥にてしるへき也なけと情とハたゝきり斗にて真実の情のなきをいふ也都の人の文はかりにてとひ申ければ真実のなさけのあらハ此海を渡るへきに文はかりにてとへハまことの情なけれハこそと覺し候とハるゝも嬉しくもなしとあそはしける

※本文は南葵文庫本による。

とある。しかし、武井本を含む「第一類」非省略本」には左記の箇所はないので問題はなく、この「とはるゝも……」の有無によつても系統分けの基準にならう。

第五冊、『狭衣三ヶ口決』全38丁

他に以下の作品を所収する。

『徒然一艸口決』『九章』『五句の和名口ヶの大事』『五事』『親句疎句正』『五蒙三昧之事』『五義事』『五鉢四品』『四品』『てにをはの大概』『百人一首五首の秘決』『二條家和歌指南』『伊勢物語七ヶ大事 裏説清濁』『伊勢物語七ヶ口決』『いせ物語裏説』『伊勢物語相傳之事』。

第六冊、『讀歌秘傳集』全38丁

第七冊、『資慶口傳』全24丁、他に『聞書少々』を所収する。

第八冊、『詞会作法條々』全24丁

書写年代については、『和歌深秘抄』に「又明和二年乙酉文月上旬迄書写之こと也」、「古今切紙次第」に「明和乙酉七月に写之字々無覺第もあれと本のまゝにうつし早」、「讀歌秘傳集」に「明和二年亦これをうつす五月上旬」、「資慶口傳」に「于時 明和二年 酉 初秋」、「詞会作法條々」に「明和三年丙戌是度に御与也厚志の人にをくる（以下略）」と書写奥書にあることから、明和二年（一七六五年）五月から明和三年（一七六六年）にかけて書写されたことがわかる。書写者は『和歌深秘抄』に「尾陽山廿七世仙阿書」、「古今切紙次第」に「尾陽山仙阿誹草」、「詞会作法條々」に「尾陽山主廿七世謹而書之」とある。「尾陽山」とは、『新修尾道市史 第六卷』（77・2）によると、現在の尾道市西久保町にある尾陽山願王院常称寺のことをさす。因みに『紙本白描遊行上人絵』（重文）を所蔵している。常称寺は時宗二世真教により正和二年（一一三三年）に開かれた。その廿七世となる「仙阿」（一遍の兄で宝蔵寺を開いた仙阿とは別人）によつて書写され、尾道を出ることなく、現在まで残つたものとなる。

さらにいま一本、省略本系統の一本として、

(10) 尾道市立中央図書館蔵本

を新出伝本として加へるを得た（該本は西野強が見出したものである）。書誌は以下の通り（西野強の調査・整理結果に基づく）。

系統は「第二類」省略本」。『国書総目録』未載。森田武文編『橋本家寄贈古書目録』（尾道市立図書館、一九九〇年）に掲載、整理番号は「一〇三九」。尾道の商家である橋本家旧蔵。写本。袋綴装一冊。原装。24・2×17・3cm。表紙は無地鈍青色、楮紙。外題はなく、内題は「別歌百首」。全43丁のうち墨付41丁。遊紙は初末に2丁有するが第1丁は見返しに剥がれたもの。和歌一首一行書、半面十行書。本文料紙は薄様（斐紙）。背に緑と黄で装飾された角裂れが天にのみあり。書入（本文と同筆）が墨で19箇所、朱点が1箇所あり。即ち、

墨 9ウ・12ウ（2箇所）・13オ・13ウ・14ウ・15オ・19オ・19ウ・23オ・23ウ・25ウ（2箇所）・27ウ・29オ・36オ（2箇所）・38オ・39ウ

朱 43オ（42ウにもあるが、43オの朱点が写つたもの）

尾道本は『歌学叢書（仮称）』（八三八）（書名は目録の記載による）8冊の内の1冊。書誌については丁数と角裂れの有無以外は同じ。所収されている作品・丁数は以下の通り。なお順番は前掲目録に従つた。

第一冊、『和歌深秘抄』全25丁
第二冊、『別歌百首』
第三冊、『古今切紙次第』全37丁
第四冊、『和詞灌頂秘密抄』全21丁

【補記】

本論の執筆分担は以下の通りである。

原本調査……武井・西野
原本撮影……武井（武井蔵二本）・西野（尾道市立中央図書館蔵本）
解題……武井・西野（武井が全体をリライト）
補記……武井
校異凡例……西野（武井補訂）
底本翻字……武井（西野点検）
校合……西野（武井一部点検）

本論がなるに際しては、所蔵諸機関に多大なる便宜を頂いた。特に仁和寺には格別の取り計らひを頂いた。心よりお礼申し上げる。

故田村柳壺に仁和寺本の写真版の一見を許されしより四半世紀、その折の学恩に、このやうな貧しい形ではあるものの、なんとか、報いることが出来た。この間の怠慢を衷心より詫びたい。

【校異凡例】

一、底本と校合に用いた諸本とその略号は次の通りとした。

《底本》

⑨武井蔵〔室町末期写〕本

《校合本》

〔第一類Ⅱ非省略本〕

井 ①井上宗雄蔵本

松 ②肥前嶋原松平文庫蔵本〔一四一・三三〕

神 ③神宮文庫蔵本〔第三門・二七六〕

仁 ④総本山仁和寺蔵本〔道・百十五〕

〔第二類Ⅱ省略本〕※略号に傍線を付し、〔第一類〕と区別をした。

刺 ⑤東京大学総合図書館南藝文庫蔵本〔E三二・一三七七〕

宮 ⑥宮内庁書陵部蔵・鷹司本〔鷹・二五四〕

天 ⑦天理大学附属天理図書館蔵本〔九一一・二・九一五〕

久 ⑧武井蔵〔久曾神昇氏〔志香須賀文庫〕旧蔵、江戸末期写〕本

尾 ⑩尾道市立中央図書館蔵本〔一〇三九〕

一、校異を掲載するにあたり、該当する歌番号と初句を掲げ、翻刻本文に付した番号、底本文を掲げ、―を隔てて異文を記して、括弧内に右記の諸本略号を示した。即ち、

【歌番号】初句

Ⅰ底本―異同本文（略号）

とした。また、校異を掲げるにあたり説明を要する場合は「※」を付して示した。

一、異同本文を掲載するにあたり、略号の一番最初に掲げた伝本の本文を以て異同本文とした。

【翻刻】

別哥百□（外題）

さの村

大永寺竜誓（表紙見返し右下）

別哥百首（端作題）

Ⅰ此集ハ永享二年²二条之太閤と一条之太閤と³メ

Ⅱ撰出之⁴家之⁵之⁶□傳秘之⁷、

うら山し永日かけの春にあひていせほの海士も袖やほすらん（一）

海士こそ多けれ何とていせほのあま²をはあそはしける

Ⅲといへはいせほのあま⁴とハ⁵天照大神の御事也⁶日に⁷七十五

度海に入⁸給ふ内宮⁹夫神¹⁰外宮¹¹女神也¹²夫士¹³書ていせほ

のあまとよむ也此袖もなかり日¹³にハほしこそ¹⁴すらん

Ⅳうらやまし我¹⁶ミヤこそ¹⁷恋しく思ふにハ袖のかハく¹⁸間も

なき¹⁹と也

里人のすそ野の雪をふミ分て¹只我爲とわかな摘ころ（二）

Ⅱ此哥後鳥羽院た¹我ためと³の給ふハ人毎に君の⁴た⁵□

と⁵ころへぬへし⁶不可然是ハ正月六日に⁷嶋にてなみた¹Ⅰオ

をなかし今此嶋⁸にてハ我ため⁹にてはなくて¹⁰里人¹¹雪

を踏分てをのれ¹²Ⅱカ我爲にこそ若菜¹³をはつ□

Ⅳあはれ都にあらは我ためにこそつむへき¹⁵にとてかく¹⁶あそハしける也

けふとてや¹大宮人ハかへつらん昔かたりの夏衣かな（三）

卯月朔日にあそハしけるけふハ幾日²そと³とひ給へは

卯月朔日⁴とこたふ扱ハ⁵人く⁶都⁶にてハ衣かへして⁷あそ

ふらめ⁸我ハ⁹春のまゝの衣にてあれば¹⁰昔かたりの衣に

て¹¹ありけるよ¹²とあそハしける¹³大宮人と¹⁴大内の事也

一、底本にはない異同箇所や、底本の和歌や注釈ごと異同がある場合、和歌は（歌）、注釈は（歌注）、作者は（作者）、歌題は（歌題）と略号を用いた。

一、底本に対する本文が、校合本文にない場合は、「ナシ」と示した。

一、外題・内題・奥書は、解題に略述したので、校異に含めなかった。

一、校異は底本に対して文意が異なる本文に限り掲げた。但し、以下の処置を施している。

イ、ミセケチや訂正がある場合、訂正された本文で比較した。

ロ、有意と思われる漢字と仮名遣いの異同は掲げた。

ハ、本文異同に関係ない書入は省略した。

ニ、②肥前嶋原松平文庫蔵本は、「別」を全て「列」と表記しているが、これは異同に含めなかった。

一、校合に用いた諸本の本文は以下の処置を施している。

イ、⑦天理大学附属天理図書館蔵本は、一四番歌「なき人の…」と二三番歌「人心…」と錯簡が生じているが、これを訂して異同を示した。

ロ、ミセケチを表記するにあたり、該当する箇所を「海藻をとしすに」として示した。

ハ、校合本の衍字は、そのまま翻刻し、（ママ）と傍記した。

ニ、虫損による判読が不可能な場合は、予想される文字数分「□」で示した。

遠山路いくえもかすめさらすとてをちかた人の問もなければ（四）

Ⅱおちかた人のこと此哥にて³しるへき也みな人の⁴なま心へにて

Ⅴをちかた人とハ遠人⁶など⁷心へはひかこと⁸也⁹抑¹⁰遠人ならば

此哥の五文字に¹¹遠山路と¹²云て又遠かた人といふへきか

Ⅲ打問人と¹⁴かきたり¹⁵此哥嶋にてハ¹⁶打問人もとひ¹⁷こすかす

まはかすめとて¹⁸かくそあそはし¹⁹ける¹Ⅰウ

我こそハ¹新嶋守よ沖の海のあらし波風心してふけ（五）

Ⅱ我こそはを³かんようにきくへき哥也都より後鳥

羽院をなくさめに⁴嶋へ渡りける時十日はかりと⁵め⁵て

帰らんとしける⁶時舟⁷はたまて出給へは波風あらく⁸た

ては此哥をあそハしける⁹我こそハ¹⁰新嶋守¹¹よな波風

もしつまりて都人¹²を帰せかしとて此哥をあそハし

ける時¹³俄¹⁴波風¹⁵静にて¹⁶都へ¹⁷帰りけり

とにかくに人の心もみえはてぬきや野守の鏡なるらん（六）

Ⅱ憂きや野守の鏡を¹肝に²きくへき也みな人ハ野守

の鏡³を見てこそ⁴人の心もしるに⁵我ハ⁶いなかの人の心

ミヤこにも⁷にす⁸とにかくに心も⁹みえず¹⁰して¹¹憂時

いよく¹²都人等閑なかりし¹³ことか¹⁴ミのことくしらるゝと¹⁴也

かそふれハ¹今年の暮ハしらるれハ雪かく程の営もなし（七）

Ⅱ雪の営とハ雪をふかくもてあそふ事也抑後鳥羽²オ

院都にてハ百官に²花の雪をか³せてあそひ給ひしか

今此嶋にてハ百官もなし³花の木もなければ⁴日数⁵□

かそふれハ⁵歳暮とハ⁶しらるれと雪をか⁷する営も

Ⅶなきことよと⁸也

かきりあればかやか軒はの月もミつしらぬハ人の行末の空（八）

是ハはしめハ命あればと一五文字をあそハしける²家隆卿³申されけるハ⁴さすがに此君ハ哥の達者にてましますか此嶋の⁵うさに⁶くれて命あればとをかれたるか⁷そのいはれハ命あれハ⁸とハ⁹人によるか¹⁰此君のかやか軒はの月¹¹を¹²御覧あるへき人にて¹³ましまさねは¹⁴にやわす¹⁵と申されければ¹⁶御落涙ありてかきりあれば¹⁷にそなをされける¹⁸抑此哥ハかきりあれば¹⁹王位としてかやか軒はの月もみる²⁰事に如何なる²¹罪のむくるそや²²とはや²³是にて因果を²⁴つくしつ²⁵是のちにハ²⁶しらぬは²⁷2ウ人の行末の空なればよきこと²⁸にもあはんすらんとて内心²⁹祝言を³⁰ふく³¹ミ³²かくそ

¹とはるゝを嬉しくもなし此²海を渡らぬ人のなけのなさけハ(九)

なけの不審とりく³にあれとも此哥にて⁴しるへしなけのなさけとハ⁵唯義理はかりにて真実の⁶なさけのなさけのなきを云也⁷都の人の文はかりにてとひ⁸申されたりければ真実のなさけあらは此海を渡るへきに⁹文にてとふは真実の¹⁰なさけなければ¹¹と思召とハるゝもうれしくもなしと¹²也

桜咲遠山鳥のしたり尾のなかくしひもあかぬ色哉(一〇)

是ハ俊成卿に九十の賀を和哥所にて給りし¹とき屏風の²繪にどを山に花咲たる所を³あそハしたる御製也此賀の事仁和の御時僧正遍照に七十の⁴賀を給りける例と⁵いふ⁶人丸の哥に⁷あし引の山とり⁸3オの尾の⁹したりをのなかくし夜をひとりかもねんといへる¹⁰を本哥とせられ¹¹たり桜咲¹²遠山とをかれ¹³たるハ

此³御製ハ秋のならひ⁴かり⁵に⁶袖の侍は⁷心あるさるへし⁸4オ

物のあはれしれる袖⁷には露を置ける⁸にやされは秋ならぬときたにも心つからの露也⁹殊に折節¹⁰物のあはれをそへてハ袖の上かハく間もあるへからす感情¹¹至極せりみるまゝに山風あらくし¹²くるめり都も今や夜寒成らん(一二)

²此哥³熊野御幸⁴に云⁵覧⁶不可然此⁷自讀の時分ハ

⁸御代のふくら也⁹此哥の御作は天下¹⁰も¹¹豊饒¹²なれ¹³か¹⁴しとみ給へハ結句¹⁵次第¹⁶にすたれもて行山風

あらく¹⁴吹ハ¹⁵花や¹⁶紅葉も散すやうに¹⁷武士ともあらく成て¹⁸人をも¹⁹世をも²⁰なやますみるまゝに山風あらくし²¹くるめりとあそはしける都も今や夜寒成らんとハ

²²昔堯舜のとき²³ハ²⁴五節の雨十日の風時にかなへるか

²⁵今はときならず荒く吹はよ所ハいふにおよはす

²⁶君すむ都さへ夜寒なるらんと²⁷也

人心うしともいし昔より車をくたく¹道にたとへて(一二)⁴ウ

車をくたく道²とハ人の心のなさけなきに可引也此車をくたく道とハ³日本の義にあらず⁴又唐土にもあらず天竺に⁵大廣路と云⁶道ノあり此⁷道を車とをれば⁸上より大盤石落て車を⁹くたけは¹⁰更に¹¹車の通ることなし¹²此ことを思召¹³出して¹⁴車をたにくたく道のあれば人の心のなさけなくて¹⁵我を¹⁶此嶋になかす事¹⁷さのミに¹⁸うらミしとて¹⁹かくなんと也

なき人の形見の雲やしくるらん夕の雨に色ハみえねと(一四)

²大國³巫山の⁴神女⁵楚王の御狩の⁶時あふて我を恋しとおほしめさは朝にハ雲夕にハ雨となりてま⁷ミえん

¹¹あたりうち¹²かすめたるていを¹³隨て¹⁴遠望の興ひるひなく¹⁵そみえ¹⁶給ふしかるを花ハ¹⁷近き¹⁸よりほとある¹⁹を面白²⁰余所のやうにあそハされけると申人²¹侍とも此こと如何にそや²²遠近をたくらへたる御哥²³にあらす遠景を題とせられたれ²⁴はにこそ侍れ其題に當りて其物を²⁵賞するハ常のこと²⁶にや²⁷なかくしひもあかぬ色哉千秋万歳²⁸にと²⁹多³⁰ひりよの趣悉事

にや此賀のとき上たる人にハ銀の³¹杖下たる人にハ竹の杖を³²くたさるゝ也³³是ハ千年の坂をついてのほれと也此うた人丸の³⁴哥をとる本哥をは如此可取季の哥³⁵を³⁶恋にとり恋の哥³⁷を³⁸季にとりて也本哥とるへし恋の哥をとりて³⁹恋をよむハ哥をぬすむ也古今⁴⁰3ウあかてこそ⁴¹おもハん中ハはなれなめそはたに後の忘れた見にとあるを新古今に⁴²散花の忘れた⁴³ミの嶺の雲

そはたにのこせ春の山風⁴⁴如此こそとるへけれ⁴⁵扱⁴⁶霞を書たるに⁴⁷霞のこるハ桜咲遠山とある⁴⁸うちに⁴⁹霞ハ心にある也⁵⁰此哥ハ俊成卿御師範にまいられたれば君の⁵¹多いりよに九十に⁵²なれともあかす思召⁵³也是をなか

くしひもあかぬ色かな⁵⁴と也又近きより遠桜を⁵⁵賞する無下也古今通⁵⁶多いりよに背て南都に下しに昔大内に⁵⁷ちかつく⁵⁸女房たつねきたりし⁵⁹ときかくなん九重の雲井にみえし桜花折て⁶⁰ハ増る色香也けり⁶¹近きをほむる也⁶²又桜⁶³咲の⁶⁴遠山のとを⁶⁵是九十の字を⁶⁶ふくむと一説あり

露ハ袖に物思ふ¹比ハさをなくか²な³らす秋の⁴ならひならね⁵(一一)

と契りし⁷ことをひきて後鳥羽院の后すてに

かくれ⁸給ハんとし⁹給ひける時君我¹⁰を¹¹後にも¹²おほしめし出されは¹³雲となり雨となりて¹⁴みえんと云て

むなししく成¹⁵給ふ其後此君彼形見に¹⁶雲雨をみ¹⁷5オ給へ¹⁸とも¹⁹しくれて²⁰いつれか形見の雲とハ²¹しかとなけれともをしなへて雲を形見²²と御覧して²³かく也

1 式子内親王

詠つる²けふハ昔に成ぬ共軒はの³梅ハ我を忘な(一五)

寄花無常といへる⁴心とあり⁵此内親王常に

⁶紅梅を⁷もてあそはれける⁸有時の⁹夕に俄散ければ¹⁰今朝までハ散ンともおもハさりしにあらさため¹¹な

の世中や我もけふハあれともあすハさためなしとへ我ハむなしくなりて人こそ¹²忘め¹³軒はの梅ハ年毎に咲て¹⁴身つから手向¹⁵にもなれかしとて¹⁶かく也

忘てハうちなけかるゝ夕哉我のミしりて過る月日を(一六)

忍恋の¹心あらてたに²夕暮ハ物哀なるに恋慕の

心あ³らん人さを侍らん人めをも⁴打忘てむなし⁵ウ過行月日のほとなけかれんことあハれ⁶かくそおほゆる桐の葉も踏分かつく成にけりかならず人を⁷待となけれと(一七)

何とて²別て桐の葉を踏分かつく³とあそはしけると

⁴いふに⁵内親王と⁶定家卿⁷契り給ひし時定家⁸の給ふ⁹やう¹⁰大唐にハかならず桐をしきて忍ふことを¹¹なせりあはれ御身と¹²みつからか中にも桐をしかはやと申されしに¹³いくほとなくて御門¹⁴きこしめし勅諫を¹⁵かうふり¹⁶式子内親王にハ桐の¹⁷齋院と申所に¹⁸籠居し

定家¹⁹とかれく成ておハします時²⁰彼内親王²¹をハします斎院の²²御庭に足をと一つ二つしければあやし
く思召²³物の²⁴すぎよりのそき給へハ桐也若²⁵桐をふまハ
君より人を²⁷待とて²⁸かさねて²⁹勅諫もや³⁰かうふりをや
せんあら³¹ふミ分かつたやと也今ハは³²や³³かならず人を³⁴待と
なければとあそはしける³⁵忍恋の³⁶心也」6才

¹詠侘ぬ秋より外の宿もかな野にも山にも月やすむらん(一八)

²世中に移て桜のなかりせは春の心ハのとけからまし³と

⁴業平のよみて咲を待散をおしむ故に⁵春の心も

のとけからすと⁶也賞心のいたり⁷ていへる也されは秋の

⁸月のさやけき感情⁹至極してなかわる¹⁰也¹¹みをくるしむる

ことなれば此月¹²にかくれんとするに世に¹³かくれ¹⁴野

山に¹⁵人か月ハ山野にもすめは哀秋より外の宿¹⁶もかな

月にかくれんと¹⁷也極て¹⁸もてあそひ給ふ¹⁹心なるへし

本哥に²⁰我心なくさめ²¹かねて更科やは捨山に照月をミて

それなから昔にもあらぬ秋風にいと²²ななめをしつのをた巻(一九)

秋風は昔も今もそれなから我身に²³うれのある²⁴間

あらぬやうにおほゆると也月花も²⁵平人ハみるに物う

からす愁人ハみるになけきの色ある²⁶へしいと²⁷ななめ

をと²⁸是もうき時のならひなるへししつのをたまき²⁹6ウ

とおかれたるハ昔を今になすよしもかなといへる³⁰古哥の

心を末にい³¹残して空にみせられたる³²也³³誠たえなる

御事也あなかしことや³⁴申侍らん

一定家卿

明て猶古郷とをく成にけり²心そやかてうら嶋かはこ(二〇)

⁶云へる哥ハ老者のほれたる⁷ま⁸心に思ふ⁹こととて君ハ

千代ませ¹⁰とくり¹¹ことをしたること¹²に恋する人万

事をハきまへす¹³ほれくしくなりたる心の¹⁴色をいハん

とてかやうにハ¹⁵つ¹⁶けられたりなと夕暮とハさらぬたに

嵐の聲も物かなしきに人を待と云ことをな¹⁷にてか

夕暮のならひとさためつらんと云へりた¹⁸ひるま

をハ待へき¹⁹ものにてありけると云へり²⁰是ハほれたる心也

こ²¹ろ²²言の外にかけのうかひ²³そへる哥とハ是等の類にや

²⁴為兼卿新古今のうちの²⁵みな人の哥三首と²⁶期たる

其一首²⁷也²⁸二には慈鎮の²⁹みな人の³⁰しりかほにして

しらぬかなかならずしめるならひありと³¹ハ³²三つには西行³³8才

の³⁴詠とて³⁵ななめとて³⁶花もい³⁷く馴ぬれば³⁸散別こそかなしかりけれ

こぬ人のなさけの³⁹ほととのあらハれてしハしは月に雲をか⁴⁰れる(二三)

²定家の卿其人を思ひ給ひしに³下帯とけさりし⁴

ある時とけて此暮の月⁵いて⁶ハ⁷まいらんと云ける⁸夜

⁷やうく⁸月代出けれハうれしく⁹思ふ所に¹⁰雲の月に¹¹か

かるを見てあのうき雲の月にか¹²るハ¹³三千界を照す

月なれ¹⁴とも¹⁵力およハす¹⁶其こく我思ふ人も¹⁷来たくは

¹⁶おもハんすれ共¹⁷人に¹⁸さへられ¹⁹心ならず²⁰と読み

移りけりよし亦さらは²¹なからへよさのミあたる君か名もおし(二四)

うつりけり²²ハ我に²³等閑なかりし人のよ所へうつると也

扱我を捨てよそへ移り²⁴給ひしこと此比ハ只²⁵我とかと

こそ²⁶人ハいふへきに²⁷御身のとか²⁸ハいはぬに²⁹今の人に

³⁰よしさらは³¹しかと思ひつきて³²かハるなもし³³亦よ所へ移り

³⁴給ハ³⁵已前もうつりしか又うつりたるハ³⁶世間に³⁷あた人³⁸8ウ

³と也⁴浦嶋ハ十六の歳龍宮へ行て乙姫に⁵契しに

⁶三百四十八年を⁷経ても其古の十六の⁸ま也⁹扱うら

嶋¹⁰ふと古郷に¹¹帰りたく思給て¹²すてに¹³帰る時¹⁴乙姫さら

は形見¹⁵を出さんとて¹⁶小箱を¹⁷あたへ¹⁸相構く¹⁹此箱を

²⁰あくるなど云²¹ける彼うら嶋²²あまりに²³みたく思ひ²⁴明

て見ければ²⁵三百四十八年のしハをた²⁶ミ入ければ²⁷俄に

三百四十八歳に²⁸なりて老くとして²⁹そいたりける此時

くやくしく³⁰思ひけれ共かなハす是を引て³¹此哥ハ³²旅宿に³³7才

して³⁴明よかしと思ひつるに³⁵あけにければ³⁶古郷のとをく

なれ³⁷は³⁸浦嶋かはこのことくあけて³⁹くやくしや⁴⁰とよみ侍る也

年も経ぬ祈る¹契ハ初瀬山尾上の鐘のよ所の夕暮(二一)

我思ひハ年もへすしてはてたる²と也³此ぬハ不たるへし

此初瀬山ハ大和国⁴にて非す昔⁵むら上の天皇はつ

せのみそきを大内のつき山に勸請し⁶給へる也⁷扱

⁷此つき山と初瀬山⁸と初瀬山とそ云⁹けるさて¹⁰式子内親

王定家と¹¹蜜通のとき¹²親王¹³はつせ詣と¹⁴号してハ

わにくちを¹⁵ならしければ定家いてあひ給へは¹⁶定家の

ためにハ¹⁷朝夕暮也さて¹⁸桐のはの哥より¹⁹後式子内

親王と²⁰定家かれく成²¹給ひて此²²わにくちなりける

²³時ハ昔ハ此²⁴わにくちを我夕暮に²⁵き²⁶し今ハ余所

の夕暮に²⁷きくことよと読侍りけると也

あちきな¹つらき嵐の聲もうしなと夕暮に待習けん(二二)7ウ

契夕戀あちきなくつらき嵐の聲もうし²みな同

³こと葉をつ⁴ける⁵しんひやうのことによたとへは⁶哥

老ぬれハ同じことこそいハれけれ君ハ千代ませくと

と人のいハん御身の名もおしと¹⁸読り

憑夜の木間の月も移ひぬ¹心の色の秋をうらミて(二五)

²変思恋とあり憑夜とハタさき³こんと⁴いふ夜た

のもしく思ひて待所に⁵我にあきたる⁶心の色あらハれ

てとひも⁷こすされは今までハ⁸木の間月⁹きよかりしか

¹⁰俄に¹¹なみたにうつるひければ¹²かく読り

されはこそ¹人帰りけれ²浅茅原³ねたしやこよひ露も⁴こほれす(二六)

草ハ女木ハ夫也⁵浅茅原⁶とハ草の惣名也ある⁷人女我

ならすかよひける⁸人ありと聞けれとも我⁹帰るさに¹⁰名残

をおしミ涙の露をなかしければ¹¹さらく¹²誠とも¹³おもハ

りつるかある夜¹⁴なみたもこハれさりければ¹⁵されはこ

そ此比も我¹⁶ならぬ人行帰ると¹⁷いふかあらねたしや¹⁸とよ¹⁹り

¹消侘ぬうつるふ人の秋の色に身を木からし森の下露(二七)

人の心の²秋の色をうらみて我³思ひふかくなること紅葉⁴9才

の⁵移ふる下露の⁶ことしと也身をこからしとハ名所の

⁶森の名によそへて身を⁷こかすといへりかくてあらん

かなたし⁸とや⁹筆に真草行のあるか¹⁰ことし和哥

にも其すかた¹¹侍へし是や真の哥とも申侍らん作

者ハ来ぬ人を¹²まつをの類こそよのつねのよき

哥¹⁴也身をこからし詠なとハ格の外なることに

しめされけると¹⁵也

帰るさの物とや人のなかわらん待よなからの有明の月(二八)

恨変恋とあり¹人をかなた²こなたへかよへは帰るさの

もの³とのミや詠らん我かたハ空たのめにていつも待

よなからこそ有明の月をはみれ此哀をはそなた
にハしらんと也

かはれた、¹別の道の野への露命にむかふ、²物ハおもハし(二九)「⁹ウ

野へをいハんとて道をいふ露を、³いハんとて野へをいふ露

の命に⁴我かハるへきに露ハ消残りて⁵あれ共我ハ⁶恋

しな⁷たとへ⁸しぬとも⁹我ゆへともよもおもハしせめて

露か残りて¹⁰乱たらハもし¹¹我ゆへなみたとも人¹²思ふ

へきさらはしめる¹³とても物ハおもハしと也命にむかふ¹⁴ハ¹⁵さハる也

花咲はつけんといひし宿なからこてふに¹似たる²春風ぞ咲(三〇)

³花咲ハはなさへにこよとつけんといひし宿に⁴花ハ咲

なからつけも⁵こぬと春風の⁶吹来れは此春風こよ

と云つかひに⁷にたると讀り⁸こてふハこよ也

¹思ふ毎水のかしはにこととへはしつめはうかふ²泪とぞ成(三一)

抑³水のかしハとハ植物にあらず⁴津の國⁵難波うらにて

⁶手ころの石に名を⁷書てなくなるに⁸會ハんするにハ

⁹うかふしつめはあハぬ也扱¹⁰石しつめぬれはあふ

ましきとて我ハ¹¹なミたのうかふ也¹²10才

袖にふけそな旅ねの夢も見し思ふかたより通ふ¹聞かせ(三二)

¹旅宿恋の心をとあり古郷の妻子とも²我をさそ

な人ともぬるらんめ³とおもふ⁴め⁵我ハ人となて⁶夢にも

みしと思ふに此心中をうら風⁷吹かへさは⁸妻子ともか

袖に吹てつけよと也

出る共入とも月をおもハねは心にかゝる¹山のはもなし(三三)

²會恋人にあはさりし時八月の山のはに³人ハ⁴山のはの

とかのやうにおもひしに人とねて⁵思ふことなくて⁶ぬれ

は出るとも入ともなくてすくると也

我恋ハまたすゑをらぬはし鷹の夜さへやすくえやハねらるゝ(三四)

またすへをらぬ¹とハ²またすへ入ぬ³鷹のこと也鷹に

もまれて⁴鷹匠のよるさへ⁵うちとけてねかたきことく

に此人ハ⁶いまた我にもしたかひ給ハねは夜さへ⁷打

とけてねられぬと讀り⁸10ウ

思ひかねその里人に¹圍とへはおなし岡邊の²松ハミゆやと(三五)

初求縁恋の心³ハしめは我思ふことを人にもいハし⁴又

思ふ人にもしらせしと思ひしに今はつゝミかねて

はや縁をもとめて⁵我思ふ人の同し里にすむ人に

⁶あの岡邊の松ハ⁷うつくしき松かな⁸あの奈のあたりに

ハ⁹たかすみ給ふなと云て若¹⁰とハす語りをもしせは

それを¹²えんとして¹³我思ふ人のことをもいは¹⁴や¹⁵と讀り

業平

おきもせずねもせて²夜を明してハ春の物とてなかくらしつ(三六)

³伊勢物語にハ雨そほふる⁴にとあり⁵二条の後⁶にしのたひ

に⁷をハしけるとき業平⁸行給ふに⁹二条の后花を¹⁰折

て¹¹おハしますよき折ふしかなをひつきまいらせんと

し給へハ¹²花を¹³すてゝにけ給ひけり業平¹⁴后の御手¹⁵11才

のあたりたる花なりとて¹⁴とりて帰り¹⁵香らん¹⁶に¹⁷さし

て置¹⁷后の¹⁸御事を思ひおきもせずねもせてなかくめ

²⁰らるゝに人來て業平ハ物を思ひ²¹給ふかたとへは²²さらに

さることなし²³唯花の²⁴面白²⁵こそと²⁶の給ふ扱²⁷弥生

晦日なりけふハ花を²⁸なかくめ暮しつあすよりハ²⁹なに

を³⁰よせてか后の³¹御事をも思ふへきとて³²かくよミ侍りける

信濃なる浅間のたけに立煙遠近人のミヤハ¹とかめん(三七)

²をちこちハ³遠近也抑此⁴信濃の浅間の⁵たけの煙

ハ嶺にのほれは谷にたち谷にくたれハ嶺に⁶たち

かくれみる人もとかむるなり五文字に信濃ハ浅間の

⁷縁にして又⁸みなく⁹をもふくむ¹⁰業平都に思ふ人七

八人をきてあつまへ下り¹⁰たり独りならす¹¹しな¹²くの

思ひなり¹²けるをみやハ¹³とかめすもしとかめは¹⁴たれを

思ふともいひてなくさむへき¹⁵ものをと也¹²才

武蔵野ハ¹けふハなやきそ若草の妻も籠れり我も²籠れり(三八)

³古今にハ春日野とあり抑此哥⁴まで⁵いせ物語に⁶くたり

なん⁷くたらず本⁸二つあり⁹くたり本ハいつハりなりとしるへし

くたり本¹⁰にハ業平をんなを¹¹ぬすみ武蔵野に¹²逃か

くれ給ふを武士とも¹³しけく¹⁴をつかくる彼野ハ¹⁵廣して

尋かねけれハ四方より火を¹⁶つくる其時若草も心

あらは我も妻も此野に¹⁷籠るになやけそとよみ給

ひし時¹⁸火きえて夫娘¹⁹安穩なりと²⁰よめり抑業平

都より女をぬすミて武蔵野まで²¹迹ありきぬへきか

²²又武士も板東迄²³をつかくへきや²⁴是は大内に

²⁵百廿五坪の御座敷²⁶侍る²⁷此御座敷²⁸ひろければ武蔵

野と²⁹なつてぬ此³⁰座敷にをんなと我とかくれ³¹居給ふ

所に百官³²をのく³³火を³⁴とほしみあらハ³⁵さんとしける³⁶を

此哥を³⁶よまれける³⁷されは³⁸おのく³⁹帰る⁴⁰けるけふハなや¹³才

けそ⁴⁰ハ五音相通にて⁴¹けふハなあけそと也

思ひあらは¹律か宿にねもしなんひしき物にハ袖をしつゝも(三九)

昔ひしきを枕に²するものあれば³かくよまれける⁴大

は出るとも入ともなくてすくると也

我恋ハまたすゑをらぬはし鷹の夜さへやすくえやハねらるゝ(三四)

またすへをらぬ¹とハ²またすへ入ぬ³鷹のこと也鷹に

もまれて⁴鷹匠のよるさへ⁵うちとけてねかたきことく

に此人ハ⁶いまた我にもしたかひ給ハねは夜さへ⁷打

とけてねられぬと讀り⁸10ウ

思ひかねその里人に¹圍とへはおなし岡邊の²松ハミゆやと(三五)

初求縁恋の心³ハしめは我思ふことを人にもいハし⁴又

思ふ人にもしらせしと思ひしに今はつゝミかねて

はや縁をもとめて⁵我思ふ人の同し里にすむ人に

⁶あの岡邊の松ハ⁷うつくしき松かな⁸あの奈のあたりに

ハ⁹たかすみ給ふなと云て若¹⁰とハす語りをもしせは

それを¹²えんとして¹³我思ふ人のことをもいは¹⁴や¹⁵と讀り

業平

おきもせずねもせて²夜を明してハ春の物とてなかくらしつ(三六)

³伊勢物語にハ雨そほふる⁴にとあり⁵二条の後⁶にしのたひ

に⁷をハしけるとき業平⁸行給ふに⁹二条の后花を¹⁰折

て¹¹おハしますよき折ふしかなをひつきまいらせんと

し給へハ¹²花を¹³すてゝにけ給ひけり業平¹⁴后の御手¹⁵11才

のあたりたる花なりとて¹⁴とりて帰り¹⁵香らん¹⁶に¹⁷さし

て置¹⁷后の¹⁸御事を思ひおきもせずねもせてなかくめ

²⁰らるゝに人來て業平ハ物を思ひ²¹給ふかたとへは²²さらに

さることなし²³唯花の²⁴面白²⁵こそと²⁶の給ふ扱²⁷弥生

晦日なりけふハ花を²⁸なかくめ暮しつあすよりハ²⁹なに

を³⁰よせてか后の³¹御事をも思ふへきとて³²かくよミ侍りける

唐に⁵西氏といふ女あり彼⁶西氏を御門⁷をほしける時

⁸余のものを⁹思ふに¹⁰よりて¹¹野草にすて¹²らるゝ¹³かく

ありても¹⁴たゝ夫のことを思ひ¹⁵君を¹⁶うらみて涙をなかく

¹⁷扱君彼涙をなかくすも¹⁸夫のため¹⁹にそあるらん²⁰と御と

かめありければ²¹後には海のひしきといふものを枕に²²し

てねて人なみたかとかむれはかい草を枕に²³して

伏故に²⁴しめれりと²⁵答ぬる²⁶此ことをひきて²⁷とても²⁸ね

もしなはひしきを枕にして²⁹なにかハせん我ハ思ひ

あらは律か宿にたゝねもしなん袖³⁰を枕にしてと

よめりむくらか宿³¹ハ恋する宿の惣名也

武蔵鑑さすかにかけて¹思ふにハとはぬもつらしとふもうるさし(四〇)「¹³ウ

²返しあるをんな業平³のかたへ⁴かくよみ⁵つかハしける

年を経て¹すみこし里を出て²ゆかいとゝ³深草野とや成なん(四一)

あるをんな⁴のかたへ⁵かくよみて⁷つかハしける

(一行分空白)

面影ハをしゑし宿にさき立てこたへぬ風の松に吹聲(四二)

尋縁恋人に道にて會て宿ハいつくそと一問ければ

²やうもあれと³答是をしるへに尋行ければ恋しく

思ふ心ゆへにをしへし人のおもかけ立添てきたち

行やうに⁴おほゆる也扱⁵行みれはおしへし人ハなくて

たゝむなく松風はかり⁶はうくとして侍ると也

うち渡すをちかた人ハ答ねとにほひそなのる¹袖の梅か香(四三)

後鳥羽院²彼卿へ源氏夕かほの花ハなにそと³御

たつねありければ此哥を⁴連る⁵しかれば⁶夕かほのはなハ¹⁴才

7 梅花也うち渡す⁸ハ⁹うちとをる也

高砂の尾上の鹿のなかぬ日も¹積りはてぬる松の白雪(四四)

高砂の²鹿にかきりて九月晦日の³夜半迄鳴也此後

4 鹿ハ鳴やめとも鹿の面白かりし⁵ことを心にハ忘すして

光陰の移るをも⁶しらす過しつる⁷にはや⁸月日移

りて尾上の松に⁹白雪のつもれば此雪の¹⁰おもしろき

に鹿のねの¹¹おもしろき事を¹²忘けり¹³忘て思へは¹⁴扱ハ

秋より此雪の松に積る¹⁵までハ鹿のねにはうして

¹⁶月日の積をもしらさりしことよと¹⁷也

晝ハくる遠山鳥の別さへ鏡を¹みてハ音をのミそ鳴(四五)

²不會恋 玄宗皇帝の御時³けいたん国より山鳥を

つかハす⁴此山鳥ハ鳴聲面白鳥也⁵扱此山鳥さうして

鳴ことなかりけり⁶玄宗此⁷山鳥の花清宮の都⁸にきて

鳴さる⁹こと遺恨に¹⁰思召千人の后のかた¹¹御使をたて¹²14ウ

られにけり此山鳥を¹³なにともし¹⁴なかせたらん¹⁵后

をほんのきさきに¹⁶立給ハんと也¹⁷扱老人の后¹⁸佛神

¹⁹ふかく²⁰折誓せられければ俄に智慧²¹出来して此

²²山鳥ハ晝ハそひて²³よるわかる²⁴物²⁵なればよる²⁶しるミの

鏡を²⁷みせられければ²⁸我すかたの²⁹移るを³⁰めとりと思ひ

て鳴ければ此山鳥の³¹ことを引て此³²鳥ハ³³ひるハ³⁴そひて

³⁵よるそハぬさへ鏡を³⁶見てハ音を鳴に³⁷我ハ³⁸さうして

そハぬ思ひ³⁹ハ⁴⁰如何なるらんと⁴¹読る也

1 後京極摂政太政大臣

古ハしちのはしき百夜とも頼むれハこそそれにつけても(四六)

恨恋 昔大国に七八と云商人²ありしに³漢陽宮

(五四)

に4ましましける李夫人を恋ければ李夫人⁵

らは⁶我を真実におもハ⁷百夜我車のしちを⁸15才

6 枕にしてねよ其後⁷あハんと契⁸給ふ⁹それハ一旦ハ¹⁰つ

れなきに似たれとも百夜¹¹とも¹²かきりのあはれは¹³頼の¹⁴囿

そかし我思ふ¹⁵毎ハ¹⁶いつをかきり共なし¹⁷と也

おもへともおもハぬとこそ思ふらめさりとてハ又有明の月(四七)

よひのほとハとくかへらんと云し人の¹帰るさを忘れれば

はや曉に成ぬれば²帰り給へといハんとおもへとももし

おもハていねと³いふかとも思ひ⁴給ひけんするにとて

よひの月に帰り給へと⁵云こそすてに曉の月と⁶読り

波そよるさても¹みるめハなき物をうらみ馴たる志賀の里人(四八)

²波そよるとハ浦のえんにてあはれは也志賀のうら³にハ

4 湖のことなれハみるめなし⁵みるめハなければとも此里人ハ

うらミ⁶馴たる也我もみるめハ⁷なくて唯うらむるは

かり⁸也⁹とよめり

花守のきひしかりける¹ほとみえて手折め²おほき山桜哉(四九) 15ウ

³或説に里のはなにハ花守きひしければ山桜を⁴折

ほとに⁵といへりしかるへからす⁶花守きひしければあ

7 花の⁸えたかな此枝かなとみるほとに⁹手折め¹⁰多きと読り

1 こすの間にひとりや月の更ぬらん日比の袖の涙もとめて(五〇)

會恋 あはさりし²時ハ我となミたと月と夜を明しつ

るか³こよひハ我ハふたり⁴ぬれハ⁵月ハ⁶きのふよまでの

7 心してなみたもとめて⁸ひとりや更ぬらんと⁹よめり

いかさまにしろの下葉は秋なから色カハラハと¹露もうらミン(五一)

²奇木恋 椎の下は白し露もしろし同じ色也

春日山都の南しかそ思ふ北の藤なミ¹春にあへとハ(五五)

春祝 藤氏に南家北家あり²閑院臣の御時

³南圓堂を建立し祈給ふにふたらくの⁴南の岸に堂

を立⁵とそさかへん北の藤なみと⁶神記のありしより⁷殊

北家さかへたり此ことを⁸よみ給へるなるへししかそ思ふ

ハ⁹さそかくそなと云同心也春日山ハ¹⁰都の南に

あたり北の藤波とハ對したる詞也¹¹本哥に

我庵ハ都のたつミ¹²しかそすむ世を宇治山と人ハいふ也¹³17才

されは北の藤波春にあへとハ¹⁴北の藤氏¹⁵近衛殿

九條殿 二條殿 一條殿¹⁶春とハ¹⁷栄花にあへ¹⁸と

¹⁹春日明神²⁰しかとおほしめすらんと也

1 小町

みる度に鏡のかかけのつらきかな¹らさりせは²か³らましや⁴□(五六)

昔大国にこきといふ⁵王まします⁶后⁷千人あり有

とき異國のあひす⁸かの后を害人所望⁹申ければ

御門¹⁰勅ありければ¹¹千人の后を¹²繪にうつして¹³わろ

きを¹⁴あひすに¹⁵あたへ給ハんと也さるほとに¹⁶后¹⁷みな

¹⁸繪師にひきてものをいたす¹⁹その中に王昭君ハを

のつから²⁰みめのよきこと²¹なれば²²繪師に引出ものを²³も

せず²⁴してよも²⁵あしくは²⁶か²⁷しと²⁸おもハれける所に

繪師²⁹腹をたてあるか中にもわろくかきける扱³⁰17ウ

³¹倫言³²あせのことくなれば此后をあひす³³にいたされ

ける³⁴朝暮³⁵花西宮都³⁶のことを恋しく思ひて鏡を

³⁷見てハ此³⁸みめの³⁹よきことをうらみ⁴⁰か⁴¹らさりせは⁴²かく

⁴³うき目にはあはし物をと也我もみめよきにより⁴⁴36て

(五五)

なしと¹²読り¹³ 16才

やすらひに出にし人の通ひちを古き¹野原と²けふハ見る哉(五二)

我中の³移さりし人の帰りしをハやすらひに出にしと⁴いふ

彼⁵人の踏たる跡の草葉までも⁶なつかしく思ひつ

るかはや思ひきりたれば人をしたハさりし⁷古き⁸野原

と⁹ふみハみるかな¹⁰とよめり

そのまゝに¹我打ふすと語れ月送りし人の帰りいらすハ(五三)

²或夜撰政殿³采女のかたへ行給ひて⁴夜ふかきに

かへり⁵給ふときうねめ人をそめて送り⁶参らせしに

撰政殿⁷よふかければ⁸又別の人共めるらんとや⁹おもハめ

送りの¹⁰帰り入ぬ¹¹前に¹²月かくれ¹³た¹⁴我ひとり¹⁵う

ちふすと也

人すまぬ不破の関屋の板ひさし荒にし後ハ只秋の風(五四)

和哥所の哥合に¹関路秋風と云ことをとあり其御

身²撰祿³としてなに事も昔の跡をおこし給ふへ⁴16ウ

きに⁵此関屋荒廢して⁶人すますとハ読たま

ハし⁷人毎に⁸旧跡の⁹跡に心へ侍る¹⁰こと哥の心にやちかひ

侍らん政道た¹¹しく¹²行末すなをなる時ハせきの

戸をもさ¹³されはおのつから守人もきひしからす

板ひさしも荒間おほくいつ吹もた¹⁴秋風の¹⁵気色

にて旅立¹⁶袖にもしみぬると也

や³⁷少将の思ひを³⁸かゝりて³⁹かく物にくるふと也

曇たゝ詠るからにかなしき八月におほゆる人の面影(五七)

人の別て帰¹曉月の²さやかなりければ又³夕の月の

出るを⁴みれば⁵今朝別たる人の面影思ひ出し⁶恋し

きに⁷なかくくにくもれと也

¹たかなミタ竹を夜の間に染つらん²姉と妹とは同じ世中(五八)

³思草とハ⁴紫竹のこと也⁵大唐に⁶娥皇女莫といふ⁷姉

妹あり是は⁸舜のむすめ也かの⁹人く¹⁰湘浦にて

葬せしにめのと行て¹¹別をしたひ紅涙にて夜の

間に¹²竹に¹³染黒成¹⁴と¹⁵業平小町に思草¹⁶ハ¹⁷なに¹⁸オ

そと問給へハ¹⁸此哥にてこたへ給ふと也

壬生忠峯

住吉と²海士ハいふともなか居すな人忘草³をふといふ也(五九)

躬恒かすみよしに居たる⁴所へ⁵よみてつかハしける

海士とは住吉の御こと也神ハ住吉と⁶いへとも⁷人忘草

あるそなかるして⁸人に忘らるゝなとよめり⁹忘草の事

五つあり秘事也¹⁰一ツにハ人を葬したる¹¹穴のはた

に¹²生たる草¹³一ツにハ¹⁴周利盤特といひし¹⁵尺迦の

御弟子¹⁶あり¹⁷名を忘て¹⁸になひありきぬ¹⁹是しらて後

此塚所より生たる²⁰草²¹名荷と云也²²是を忘草と

いふ²³三にハ人の²⁴古き家こほちたる²⁵跡の草を²⁶云

²⁷四には²⁸わんさうを云也²⁹されは³⁰大門の御門³¹ハの

³²御とし³³父と兄に別³⁴給ふとき³⁵深くなけきたまひ³⁶18ウ

て³⁷崩御し³⁸たまハん³⁹とし給ひければ⁴⁰ある醫師

此⁴¹くわん草を御覽せは御忘れ⁴²候ハんと⁴³申是により

五丈三日三夜に³²此大山をうかりて道を平路にし¹⁹ウ

て³³此牛を入ける³⁴されは此牛砂金を³⁵はまされは金の

ふん³⁶を³⁷世さりける其とき³⁸俊會王百万騎を³⁹そ

ろへて⁴⁰彼蜀の国を⁴¹うちとり⁴²蜀の王ハそれより率

人して沓をかきて⁴³給ふ⁴⁴臣下の五杖ハ塩商人

に成て⁴⁵常に⁴⁶塩をうるとき馬の沓⁴⁷をおきのり沓

てを⁴⁸いたされける⁴⁹扱⁵⁰死て後蜀王ハほとゝきすと成

⁵¹給ふ臣下の五丈ハ⁵²鴟⁵³となる⁵⁴是により⁵⁵郭公のなく

ときハ⁵⁶鴟⁵⁷ハ⁵⁸麻⁵⁹の中藪の⁶⁰うちに⁶¹して⁶²ことくしなと

なけとも⁶³た⁶⁴す⁶⁵卯月の比⁶⁶此ことをよめるとなり

さらはなと世のなミならて¹春の花秋の²夕の憂にもれすハ(六二)

秋の³夕のうきには世のなミ⁴にもれすして春の⁵花

面白⁶會など⁷には⁸かならず身ハもるゝことよと⁹よめり

奈良坂やこの手かしはのふた面ともかくにもねちけ人哉(六三)

なら坂ハこのてかしはの在所也このてかしはとハ小兒²⁰オ

の手と¹云たり²女郎花のことなりふたおもてとハ此は

なハひるハうつくしくひらけて人にむかふ³よるハ⁴色

をかへてしほみける⁵物也⁶如此ひるハ⁷うつくしくあひ

しらい⁸てなひかん⁹などゝいひて¹⁰晩景にはや¹¹色を

かへて¹²あらましのミにあひしらへはふたおもてある

¹³人なれはともかくにもねちけ¹⁴人¹⁵とハ¹⁶ねぬるといゝたる¹⁷こと也

人の子ハ¹親に似るなる物をとて恋しき時ハ鏡をそみる(六四)

此²忠峯ハ四歳³にて母にをくれ⁴五歳にて⁵父にも⁶別

侍る⁷父母の恋しき時ハ人の子ハ親に⁸似たるとて

鏡を⁹みてかくとよめる

てのこと⁴²也⁴³五つには住吉の忘草昔住吉の明神

あまのこやねのみこと契をむすひ給ひしに⁴⁴すてに

此みこと天に帰り⁴⁵給ひしとき⁴⁶住吉の明神⁴⁷御なこり

をしたひてんにあかりたまハんとし給ふとき⁴⁸諸神

此⁴⁹神天にあかり給ひてハ⁵⁰此国に⁵¹哥道も⁵²中絶⁵³人の

心もたけからんとて夜の間に松を千本⁵⁴うへらるゝ

此姿の中に⁵⁵あまのこやねに似たる松一本有是

を姫松と云⁵⁶也此姿を⁵⁷ななめ給ひてみことの⁵⁸御こと

を⁵⁹忘給ふと也

有明のつれなくみえし別より曉はかりうきものハなし(六〇)

¹後朝恋皆人の有明の²月の出によりて人も帰れは

³有明を憂ものといへとも有明よりも曉こそうき物¹⁹オ

なれ此曉によりてこそ⁴有明もあれ人も帰れとて

曉⁵はかり⁶うきものハなし⁷とよめり

郭公しての山路をはるく¹と²鴟にくつてをこひにくる哉(六一)

抑³大唐に蜀の国ハ⁴高く⁵峨く⁶とそひえければ⁷鶏

旦国⁸百済高麗大唐よりも此国をとらんやう

なし⁹然所に大唐の御門に¹⁰俊會王と云王まします

¹¹此王智慧¹²深して一のはかりことを¹³し出し給ふ¹⁴彼¹⁵蜀の

王ハ欲深き¹⁶王なれとて¹⁷千足の牛に¹⁸砂金を¹⁹はま

せ給ふ然は毎日金の糞を²⁰しけり²¹其後この牛を

²²蜀山の麓に放²³けり²⁴扱²⁵蜀王²⁶此うしのことをき²⁷給

ひて此牛を²⁸此国へ²⁹ひき入たくそおもハれる愛に

蜀王の³⁰臣下に³¹大力者あり³²名をは五杖と³³云此

³⁴五杖道を³⁵たいらけて此牛を³⁶我国へ入よと³⁷の給へハ

小男鹿のゐる野¹薄はつを花²いつかハいもか手枕にせん(六五)

³ある野⁴ハ⁵居の字なるへし小男鹿の音も⁶面白⁷薄も

面白⁸又はつをはなも⁹をもしろく¹⁰あまたの面白こと

¹¹そろへはとも是を¹²いもか手枕にしてみはよと¹³よめり²⁰ウ

¹とへはいふとはねハうらむ武蔵鎧かゝる折にや人ハしぬらん(六六)

業平²ある女と忍びく³に契給ひしに君いと⁴もの

はけしくせひし⁵給へは⁶彼業平⁷よりとへは自然君

きこしめしてせいしや⁸給なん⁹又とハぬもつらしとよ

めり¹⁰返しの哥にとへはうらむ¹¹とハぬもうらみ¹²給へは¹³いか

にしてか御氣にも入なん人の¹⁴恋死に¹⁵するなと¹⁶云は

かゝる¹⁷折にや¹⁸あるらんと¹⁹讀ける武蔵鎧とハ彼国ハ合戦

しけき所なれは²⁰力皮に鎧を懸²¹さする事もなければ

は²²絶す思ふといハん為に²³武蔵鎧とさすかにかけてと²⁴いへり

野とならば鶉と成て鳴をらんかりにたにやハ君かこさらん(六七)

業平の我¹出て行は²跡ハ野と³やなりてと⁴よみて遣⁵

ければ女此里野⁶ならは⁷我ハうつらと成て⁸なきを

らはさためて業平うつらかりにそをハしさん其

時御手にもさハリ⁹なんと也²¹オ

思ふこといはてたゝにや¹やミなまし我としき人しなければ(六八)

抑業平²の一期に³おほしめす事ハ残⁴なくいせ物語に

きこえたるに⁵何とて思ふこと⁶いはてたゝにややミぬへき

と⁷そあるにふしん業平⁸死後⁹三十三年弔のために

¹⁰嵯峨のしやか堂¹¹にて¹²作善しけるに¹³三条右大臣の

¹⁴扇に大紋の¹⁵さしぬききたる男あり是を¹⁶業平

か又¹⁷源氏かととふ人く¹⁸あらそひける愛にやすき

こと¹⁹あり其比出羽の国²⁰のものに花鳥風月とて二人のみこあり花鳥ハ姉風月ハ²¹妹也²²是をめしてあつさにかけてとはせられよとあれハ²³則めしてすてに源氏²⁴かたにハ姉の花鳥²⁵又業平方には²⁶妹の風月也あつさにかけて此繪をとひ²⁷けるに繪に²⁸たかハ²⁹業平すてに顯³⁰給ひて抑我ハ³¹いせ内宮外宮として陰陽の神³²なるか衆生に一夜も契を³³むすひてつる²¹ウに六道を³⁴いたさんため我一期に語らんとしける³⁵か我とひとしき³⁶人なければ³⁷もしあさけりにやなりなんと終にかたらず今ハかく³⁸顯れハ語なりとて³⁹かくそいはれぬ⁴⁰業平の一期に契し数⁴¹三千七百三拾三人なり⁴²扱業平を昔をとこと云事⁴³生るゝ日も廿一日元服も廿一日⁴⁴なれば也

つるに行道とハかねてきゝしかときのふけふとハ¹思ハさりしに(六九)

²是ハ³業平のしせひと也業平⁴死しかねて二日

まて⁵ある⁶此哥に假名字を一字口傳⁷する也此書⁸ハ伊勢一人か⁹耳にいはいはれる¹⁰きのふハけふとおもハさりしにとよめり

1 西行法師

心なき身にもあは¹は²しられけりしきたつ沢の秋の夕暮(七〇) 22オ

或²一説にあの鳴³か⁴いよくハたつましきかなしければ⁵そたちぬるハ心なき身にも哀ハ⁶しられぬと云一

説也抑⁷是ならは⁸西行なにとて新古今に此哥⁹を入ぬとて腹立¹⁰すへきしきたつ沢とハそとは¹¹のこと也何とてしき¹²とハいふそといへは¹³死したる人のしるしの

のは雪をふくミたる⁶なり西行⁷發心の後庭の木に雪の積る⁸を見て都にてハ花木の雪をかきてあそひし⁹そ今ハ此身にてハ雪なと¹¹をも¹²かきりければ木に雪の積るを見て¹³ハ¹⁴いとゝうければうき木をつミをきてと¹⁵いへり見し¹⁶世にも似すありさま哉と¹⁷よめり

1月みはと²契て置し古郷³の人もや今夜⁴袖ぬらすらん(七五)古郷の妻子⁵に契しハ此名月をみは⁶思ひよと⁷いゝつるに⁸あくる年⁹高野の山にのほり名月にむかひて去年の事を¹⁰思ひ出古郷の人もや今夜袖ぬらすらんと¹¹読り人もやにて¹²我袖ぬるゝハきこへけり

風になひく富士の煙の空に消て¹行ゑもしらぬ²我思哉(七六)恨恋此五文字を初ハするかなると³をきける⁴摂政殿²³ウ⁵富士か⁶余の国にもあらはやたゝ風になひくしかるへからん⁷との事にてそれより風になひくになされけり扱富士の煙の空にきゆる⁸も⁹行末は¹⁰しれはしらるゝ物也昔¹¹駿河に竹の翁と申もの有數

に鶯のかいこ三つあり¹²取て半日はかり¹³おけは一つ¹⁴の卵¹⁵うつくしき女と¹⁶なりかくや姫と¹⁷号すみめ¹⁸形よければ勅使にて此女をめされける扱此女¹⁹廿五にてむなし²⁰なる此姫²¹の形見に鏡をまいらせ²²けり此鏡を²³御むねのうへにをき給へは思ひの煙に²⁴鏡に²⁵火つきすてに御殿も²⁶焼なんとしけれは富士²⁷ハ²⁸のほせられける²⁹それより煙³⁰たつといへは此煙³¹には³²由来あるか我³³思ひには³⁴行ゑもなしと³⁵よめり

時しもあれ¹たのもの鴈の別さへ花散比のみ吉野ゝ里(七七)

木なれば死木と¹⁴云也されはそとはたつ沢¹⁵といはんとてしきたつ沢¹⁶と云也七月十四日之夜西行人の¹⁷墓所を見給へはきのふ¹⁸まで¹⁹みな人²⁰無心にして²¹慳貪放逸を專にする人もこよひハ此そとはの本により²²水なとたむければ扱ハ今夜ハ心なき身にも哀ハしられけりとてかく²³よめりそとは²⁴かならず沢な²⁵とのほとりに立ものなり

津の国のなにはの春ハ夢なれや蘆の枯葉に風渡る也(七一) 懷旧¹津の国²の難波³ハ⁴蘆いはんため也春ハ蘆⁵のはも²²ウ⁶にきハひてける⁷やうに此⁸国本ハ人の心もすくにして国もにきわひけるか今ハ昔になり⁹てとよめり¹⁰上句に難波の春¹¹ハ夢なれやとハ此国¹²ハ¹³蘆原國なれば也¹⁴枯葉に風渡る¹⁵と也此国¹⁶とハ¹⁷人の心もみたりかはしく¹⁸なりて国もかれたると¹⁹よめり

哀いかに草葉の露のこほらん秋風立ぬ宮城野ゝ原(七二) 1 板東の宮城野ハ面白所なれとも秋風立ときハ²物かなしき也そのことく³哀や都⁴の妻子⁵とも⁶なみたをこほすらん⁷我秋風のことく⁸跡もなければ⁹読り

詠む¹とて花にもいたく馴ぬれば散別こそ悲しかりけれ(七三) 此哥ハ三月晦日²に女院はなくなり給ふ西行しのひく³に⁴まいりてあらはに⁵女院⁶別であるなど、申せはいかゝとて⁷けふ春にも⁸別女院に⁹別る

とてかく¹⁰よみ¹¹聞る²³オ

1 〇〇〇〇庭にうき木をつミ置てみし世にもにぬ年の暮哉(七四) 年の暮²にハ雪³のあるへきなればつミ⁴置てもいふ⁵こと

帰鴈²時しもあれ日こそあれ³なとゝ云⁴哥也⁵田面の²⁴オ 鴈に⁶別も春⁷なるに又花散⁸名残を⁹思ふも春なにとて時しもこそあれ春にハかくうきこと¹⁰はつとひたるそやとて¹¹読り

今ハまたちらてもまかふ時雨哉ひとりふり行¹庭の松風(七八)

2 歳暮松風³初冬の比⁴ハ⁵木のはも時雨も松風も⁶とてまかふ⁷ものありつる也⁸歳暮には木の葉も⁹時雨もなくなつた¹⁰松風はかりさつくと¹¹して¹²たゝひとり¹³時雨と¹⁴読り

1 木枯にいか待¹ミん三輪の山つれなき枚の雪をれの聲(七九) 恨恋三輪の山をとり出す事²枚の有所也恨³恋の題なれば枚ハ木枯にハ⁴つれなければとも雪にハ⁵をるゝ也そのことく⁶に我にハ⁷つれなければ共終には⁸かきりのあらん⁹其時¹⁰なくさまんとよめり²⁴ウ

1 雅経卿

思ひ入深き心のたより²まで見しハそれともなき山路哉(八〇)

3 寄深山恋

4 周防内侍哥に

つくは山は山しけ山しけゝれと⁵思ひ入にハさハらさり⁶けり此哥の心にて可知⁷此比ハ奥山⁸をは⁹深きと思ひつるに我¹⁰思ふ人あの山の¹¹あなたにあれば思人¹²を見るやうにて此山をよるゝ¹³ミれはさてハ我深き思ひ¹⁴までハ山もふかく¹⁵ハなし¹⁶色にみゆればと也

1 家隆卿

清見かた²雲もうかはぬ波の上に月のくまなる³村千鳥哉(八一) 幽玄⁴ 清見かたは面白⁵有所也⁶ことに月のあれ

はよにまきれす⁷面白景也⁸此月に雲もうか⁹は²⁵才

すあれは月の¹⁰くもりなしかゝる所にむら千鳥の
ちりく¹¹と立をみれば月をすこし忘れは¹²是そ
月のくまなると也

天河秋の一夜の契たに片野¹³鹿の音をや鳴らん¹⁴(八二)

天の川の契八年に一度あふ¹⁵その契たにかなし

きに片野¹⁶鹿ハさうしてあふ事¹⁷なし¹⁸とてなくらん¹⁹と⁴也

風吹遠山もとの村かしはたか軒は²⁰より雪²¹拂らん²²(八三)

遠村雪²³北国にむらかしハ²⁴と云物にて雪を拂

さて²⁵ひきあわせて植物にして²⁶よめる抑風の²⁷吹

²⁸むらかしハしろき下葉を²⁹吹かへせは人の軒より³⁰北

国にて雪はらふに似たりければたかのさはより³¹雪は

らふ³²とてかく読り

「有家卿」25ウ

花をのミをし³³馴³⁴なるみよし野³⁵梢に落る有明の月³⁶(八四)

深山³⁷曉月³⁸みよし野³⁹花の在所なれば花をこそ

⁴⁰をしミなれつる⁴¹に月の梢に落るをみれば又をし

き⁴²也⁴³月と花と同⁴⁴賞心也

大淀の月にうらミて帰る波奈⁴⁵つらくも風吹なり⁴⁶(八五)

大淀ハ⁴⁷波と松と⁴⁸おもしろければ月⁴⁹をこそとりわけ

⁵⁰賞翫すれ⁵¹さて波ハ⁵²うらみて帰る松ハつらく⁵³思ひて

嵐⁵⁴をふかする也と⁵⁵よめり

来ぬ秋のいつ⁵⁶暮初てうす氷結ふはかりの山の井の水⁵⁷(八六)

水邊冷⁵⁸月秋いまた来ぬ秋の水邊にはいつ⁵⁹暮

はて涼しきことうすこほりのむすふはとなる⁶⁰とと読り

「宮内卿」

戸枝⁶¹さす⁶²けふのうら⁶³はつ秋になるもならずも風そ身にしむ
(八七) 26才

新古今⁶⁴にハ晩夏の部に⁶⁵入たる作者思返し恋の部

に⁶⁶入られける⁶⁷彼うらハ波⁶⁸風荒けれハ片枝ハ⁶⁹波にあら

されて⁷⁰ならず也⁷¹扱⁷²なりもならずも⁷³いハんために⁷⁴をふ

の浦梨をとり出す也人を恋しく⁷⁵思ひし時ハ初秋

はかり風の⁷⁶身にしむか⁷⁷今又人を恋しく思ふにハ初秋

になりもならずも風そ身にしむと⁷⁸よめり

月を猶待らんものか村雨のはれ行雲の末の里人⁷⁹(八八)

雨後月⁸⁰此哥かくれたる所⁸¹なかるへしたけ⁸²たかく

⁸³景気たとへかたし定家卿拔群⁸⁴入られたり是ハ

爰にハ月も白く⁸⁵とはれたるか⁸⁶末の里人ハいまた村

雨ふれハ月をそ待らんと也⁸⁷拔群⁸⁸ハ⁸⁹たとへは

森などの中に一木すくれて⁹⁰高きかことくなりとそ

「山邊赤人」26ウ

⁹¹和哥の浦や塩みちくればかたは波声邊をさしてたつ鳴渡る⁹²(八九)

人のわかき⁹³かたを⁹⁴此⁹⁵和哥の波によせて⁹⁶よむ也和哥の浦⁹⁷に

⁹⁸かたを波のうつこと⁹⁹此浦の神ハ玉津嶋にてまします

此玉つしまハ¹⁰⁰そとをり姫也¹⁰¹此姫ハ¹⁰²神武天皇の御

なさけ深¹⁰³かりける¹⁰⁴扱神武崩御ならせ給ひて此

¹⁰⁵そとをり姫の¹⁰⁶まします浦にかたを波となりてうち

¹⁰⁷給ふ也¹⁰⁸扱此赤人ハ¹⁰⁹心に無常を親し¹¹⁰給ふ人也¹¹¹或時

赤人此和哥の浦をみ給へハ¹¹²鶴とも¹¹³餘た塩干に居

て¹¹⁴多とも¹¹⁵あまたとりをきていつも¹¹⁶あらんやうに思ふ

処に¹¹⁷塩みちきてければうちすて¹¹⁸本の¹¹⁹蘆邊を指

て鳴帰るその¹²⁰ことく人間¹²¹にいつれも若くて¹²²居ぬる

やうに思ふ処に無常の¹²³風にさそハれ人間の¹²⁴栄花

を¹²⁵うちすて¹²⁶冥途をさして鳴行¹²⁷殊もかくや

¹²⁸あらましと読り¹²⁹ 27才

「慈鎮和尚」

我恋ハ松を¹³⁰時雨の染かねて真葛か原に風さハくなり¹³¹(九〇)

時雨の雲のいきをひには如何なる物も¹³²染んするやう

なれとも松ハつれなく¹³³て染兼て¹³⁴風さハく也まぐす

ハうつくしき葛の事也くすハ¹³⁵うらミいはん¹³⁶ため也

我¹³⁷も¹³⁸はしめハ時雨¹³⁹の雲のことく¹⁴⁰いきをふやうにあり

つるに人つれなけれハ人の心¹⁴¹を染かねて¹⁴²うらみて

¹⁴³思風¹⁴⁴さハくと¹⁴⁵よめり

いつまでか涙くもらて月ハみし秋待えても秋そ恋しき¹⁴⁶(九一)

此哥¹⁴⁷にハ過去現在未来¹⁴⁸三世ある也いつまでかな

ミた¹⁴⁹くもりて月ハみしハ¹⁵⁰過去秋待¹⁵¹えても現在¹⁵²也

秋¹⁵³そ恋しきハ¹⁵⁴未来いつまでか過去にて迷の涙く

もらて月ハみし秋待えてもとハ現在¹⁵⁵にて¹⁵⁶自の¹⁵⁷心の¹⁵⁸ 27ウ

月も¹⁵⁹きよからねは¹⁶⁰宿業¹⁶¹恨たる也秋そ恋しき¹⁶²とハ

今此世にて修行すれば未来にて¹⁶³ハ¹⁶⁴自心の月や¹⁶⁵顯

んとて秋そ恋しき¹⁶⁶と也

我恋ハ庭のむら萩うら枯て人をも身をも秋の夕暮¹⁶⁷(九二)

此哥の¹⁶⁸下の句に人をも¹⁶⁹身をも秋の夕暮とよミ¹⁷⁰給

へること¹⁷¹恋の本意にはたかひたる¹⁷²かと¹⁷³いへは此¹⁷⁴慈鎮

九月一日より六日迄¹⁷⁵大内へまいられて護¹⁷⁶焼¹⁷⁷給ふ

「能因法師」

六日の夜四位の弁と¹⁷⁸云女¹⁷⁹御庭の萩に立よるを¹⁸⁰ミ
給ひて心をかけ給ひけるに¹⁸¹十月十日に四位の弁む
なしくなるとき¹⁸²扱も四位弁¹⁸³もむなく¹⁸⁴なりそ
の形見の萩もうら¹⁸⁵枯て¹⁸⁶人にあきつ又残りて物¹⁸⁷思ふ
¹⁸⁸我にも秋はてぬれハかく¹⁸⁹よめり

影清き月より落る袖の雨に軒は山のは雲ハ秋の夜¹⁹⁰(九三)

寄月恨恋¹⁹¹よのつねの夜¹⁹²にとハぬさへかなしかりつるに¹⁹³ 28才

¹⁹⁴影きよき月をも我独り見て¹⁹⁵扱もこよひの¹⁹⁶4月に
さへとはぬ¹⁹⁷かとして涙¹⁹⁸をほろく¹⁹⁹と²⁰⁰なかしければ月は
清けれ共涙故に²⁰¹軒は山のはとなりて月をかくし清
き²⁰²秋の夜ハ曇て月²⁰³をかくすとてかく²⁰⁴読侍りける

「俊成卿」

昔思ふ草の庵の夜の雨に涙なそへそ山郭公²⁰⁵(九四)

七十五歳之時²⁰⁶読ル²⁰⁷蘭省花²⁰⁸時錦帳下²⁰⁹蘆山

雨夜草庵中²¹⁰此詩を余習²¹¹ありとて今の哥を

も昔を恋たる心也²¹²好士²¹³申されしと²¹⁴此卿のことハ

²¹⁵當道の堪能として上下の規範なり身におき

て²¹⁶なにの²¹⁷述懐侍らんされははハかやうの²¹⁸發心ハ當来

のつとめをこたらす草の庵²¹⁹の夜の雨²²⁰もりくる雲

ひまもなく苔の袖うちぬれて心をすましつ²²¹ 28ウ

有しほと²²²蜀魄不如帰となくとき昔をもふ

²²³郭公涙にて我後生²²⁴を思ふ袖なけかしそといへる²²⁵哥也

蜀の亡帝の都に帰度²²⁶おもハれし念に郭公と

なられしと也

山寺の春の²夕暮来てみれハ入相の鐘に³花ぞ散ける(九五)

⁴此哥の下句入相の鐘にとある肝也此⁵能因法師ハ
津国こそめと云⁶在所に⁷草庵むすひて⁸居けるか
休息のために金立寺へ行て花を見て⁹つほむか
¹⁰ひらくそとはかり心に¹¹人見しに入相の鐘を¹²きゝてふ
と無常¹³の心¹⁴出来して今まで¹⁵の¹⁶心の花も散けるそと也

「菅丞相」29才

彦星の行²あふをまつその道を我も³からなん鵲の橋(九六)
ひこほしとハ⁴七夕也鵲とハからす⁵也⁶大國の⁷たひし
たん⁸御門よりめしとられけりたひしたん古郷の⁹父
母ことを思ひて御暇を¹⁰申ければ¹¹からすの¹²頭
白く成たらん時を¹³待へしとの給ひ¹⁴ければ¹⁵仏神のめく
ミにや¹⁶俄からすの頭白¹⁷なり¹⁸庭前に来るそれより
からすを¹⁹笠さきと申²⁰渡る橋とハ昔²¹大國に幽子
伯陽とて夫妻有ゆうしハ十五ハくようハ十四²²より
契を²³むすふつねにからすを²⁴かいあそひしに此もの
ともむなし²⁵成て男七夕²⁶女七夕²⁷となりけんきう
²⁸そくちよと云也天河のはたにあり此川をこして
あひたく思へとも此川²⁹にはたひしやくのをハして³⁰不浄
を³¹いミ給へは³²おそれてこへす七月七日³³に³⁴帝釋³⁵善
法堂にをハします³⁶時七夕³⁷力を³⁸えて此川を渡る²⁹ウ
とき³⁹昔かいたりしからす来り⁴⁰てはねをひろけて
此人⁴¹を⁴²とをす是によりて渡せる橋⁴³と云也此
⁴⁴菅相丞⁴⁵つくし安楽寺⁴⁶に⁴⁷ましましけるか⁴⁸都へ帰
り⁴⁹たくおほしめされて七夕のことく⁵⁰かさゝきの橋からはや⁵¹と也

「貫之」

袖ひちて結し水の氷れるを春立けふの風やとくらん(九七)
此²哥四季を讀とあれとも結ひし水ハ夏³こほれるハ
冬春たつ⁴けふハ春也⁵扱秋ハ見えす⁶是口傳也⁷む
すひしのしの字過去のしなれは秋也⁸扱袖ひちて
とハ⁹袖ひたとむすふと也人の五たひ¹⁰ハ地水火風空
¹¹ひたと¹²よりあひて人と¹³なる¹⁴扱ハ¹⁵草木色付ハ人間
の姿と顯たるをいふこほれる¹⁶水ハ冬¹⁷なれは死の位也
春たつけふの風やとくらん¹⁸とハ一命の¹⁹終るを風ハ風²⁰30才
²¹地ハ地ことく²²かへしたる軀を²³いむ²⁴か²⁵の貫之初口實定
成しか此哥によりかふりをおとして貫之□なると也

「人丸」

ほのくくと明石の浦の朝霧に嶋かくれ行舟をしそ思ふ(九八)
此哥²に口傳二つ有先新古今³に⁴離別部に入たり
天智天皇の⁵時大内⁶の御庭⁷にして⁸柿の本に⁹廿四五
はかりのさしぬき¹⁰きたる人有君多ひらん有て汝は
¹¹なにものと¹²とひ給ふかのものを¹³めして¹⁴二人の皇子にそへ
¹⁵給ふ¹⁶一人をハしやうとのミヤ一人をはふたひの宮とそ
申ける¹⁷扱此二人にそへ¹⁸給ひければ天下無双のことを
¹⁹そ申ける扱君にははしめハ御²⁰いみなかり²¹22けるた²³丸
とはかり名のり²⁴給へり此字を²⁵給りて人丸とそ名乗
²⁶ける扱²⁷此二人²⁸の王子はとなくはかなく成給へハ明石²⁹30ウ
の浦にくたりてかの皇子の³¹御事を思ひ出し³²奉り君
をハ舟に³³たとへ³⁴朝霧にしまかくれ行舟のことく思ひ
³⁵奉ると讀³⁶又一説に³⁷わかくと³⁸かけり人腹内³⁹に⁴⁰有てハ

よるのことく腹外に出てハ³⁹をのく⁴⁰也明石の浦とは
⁴¹あきらかにものゝ善惡をも分別する⁴²位也⁴³扱⁴⁴朝
霧にとハ⁴⁵運命つきての時を⁴⁶よむしまかくれ行
とハ⁴⁷四魔也⁴⁸此四魔に⁴⁹よりて井⁵⁰にハ⁵¹至らす也⁵²扱
⁵³一命をハりて⁵⁴御法を舟に⁵⁵をつつかはやと⁵⁶思ふ心にて
かくよミ⁵⁷侍り⁵⁸此ほのく⁵⁹の哥の奥ハかきりなき事
なるへしとかや
(二行分空白)

さの村

大永寺竜暫

(黒印、※印文未勘) 31才

【校異一覽】

- 【序文】
1 此集ハ一列百首奥書云 此集ハ(松)
2 二条之太閤と二條(天)
3 メ(シテ)一ナシ(井松神仁東宮天久尾)
4 撰出之撰之(井)一撰ひ出し給ふ(久)一撰し出し給ひ(天)
5 家之之家々(井)一家之(松仁天)一家々の(東宮久尾)
6 口傳秘之々々一口傳集也云云(井仁久)一口傳集也云々(松東宮尾)一口傳の集也(天)
【一】うら山し
1 何とて一ナシ(宮久尾)
2 をは一を(神)一とハ(仁東宮)一と(天久尾)
3 といへは一や(天)
4 とハ一は(松)
5 天照大神一天照太神(井松天)
6 日に一此神君にミツきのために日に(神仁東宮天久尾)一此神君にミツきのために日に(井)一此君の御調のため日に(松)
7 七十五度一七十五との(宮)
8 給ふ一給ふなり(井松神)
9 夫神一夫神也(松)
10 外宮一外宮(井)
11 夫士一夫士(松神仁)一夫出と(井)一男出と(天)一男のつらと(東宮久尾)
12 書て一かきてハ(井)
13 にハ一に(東宮天久尾)
14 すらん一すらめ(井松神仁東宮天久尾)
15 うらやまし一うらやましと(井)一うらやましや(東天)一浦やし(神)
16 ミヤこ一みこ(宮久尾)

- 17 恋しく一ナシ(久)
18 間もなき一まもなし(井松神仁東宮天)一まなし(久尾)
19 と也一とてかくあそはしける(神東尾宮)一とてかくあそはしける(松久天)一とてかくあそはしけるなり(井)一とあそはしける(仁)
【二】里人の
1 只我爲と一たゝわかためは(久)
2 此哥一此哥ハ(井松神仁東宮天久尾)
3 の給ふハ一あそはしたれハ(井松神仁東宮天久尾)
4 た一爲に(井)
5 こころへぬへし一心得し(天)
6 不可然ハ正月六日に嶋にてなみたをなかし一ナシ(神)
7 嶋にて一彼嶋にて(松)一配所の嶋にて(東宮天久尾)一ナシ(神)
8 にてハ一にて(東宮天久尾)
9 にてはなくて一にてハなつて(東)一にハなつて(宮尾)一にてなくて(天)一に口口なつて(久)
10 里人一里人の(松仁)
11 雪を一雪まを(井松神仁東宮天久尾)
12 か一と(井)
13 をは一を(井神)一ナシ(宮天久尾)
14 あはれ一おわれ(松)
15 にと一とて(宮久)一にと(尾)
16 あそハしける也一あそはしける(松仁)一こそあそはしける(神東宮尾)一こそ遊ハしけれ(久)一もあそはしける(天)
【三】けふとてや
1 大宮人ハ一大宮人の(井松神仁東宮天久尾)
2 そと一と(井)
3 とひ給へは一とひ給ふ(東)一おもひ給ふ(宮久尾)
4 とこたふ一とこそ答(井)一とこたへし(宮)
5 人ハ一ナシ(神)一人々ハ(井東)一此人ハ(宮久尾)
6 にてハ一にて(宮久)

- 7 あそふらめ一こそあそふらめ(松神仁東宮天)一こそ遊ぶらめと(久尾)
8 我ハ一我が(東)一われハまた(宮久尾)
9 春のまの衣一春の衣(宮久)一春のころ(尾)
10 昔かたりの衣にて一ナシ(天)
11 ありけるよ一有事ハ(井松神仁東宮天久尾)一有也(天)
12 と一とてかく(東宮天久)一とかく(尾)
13 大宮人一扱大宮人(東宮久尾)
14 大内の事也一大裏人の事也(松神)一内裏の人の事也(東天)一内裏人也(宮久尾)
【四】遠山路
1 間もなければ一とふとなけれハ(井)
2 おちかた人のこと一をちかた人ならひ(東宮天久)一をちかた人のならひ(尾)
3 けるへき也一しるへし(宮)一しるへき事なり(松)
4 なま心一なま心(宮久尾)
5 をちかた人一おとちかた人(神)
6 なと一なと(東宮天久尾)
7 心ハ一心得るは(神東宮天久尾)
8 也一成けり(東)
9 抑一様く(井)
10 遠人一とを人(東)
11 遠山路一遠山人(松)一遠山(東宮天久尾)
12 云て一いふと(東)
13 打問人一打問人(井松神仁東宮天久尾)一打問ふ人(天)
14 かきたり一書たる(仁)
15 此哥嶋一此哥此嶋(井)一此うたに此嶋(松神仁東宮天久尾)
16 打問人も一さらすとてうちむかふ人も(井松神仁東宮天久尾)一さらすとて打問人も(天)
17 こすかすまは一來ぬかすまは(井)一來ぬにかすまは(松神仁東天)一こねは(宮久尾)
18 かくそ一かく(井神東宮久尾)一ナシ(天)
19 ける一けると也(井)

【五】我こそハ

- 1 新嶋守一新嶋守と(仁天)
2 我こそは一われこそハ也(松)
3 かんように一かに(井松神仁)
4 嶋へ一入く嶋へ(井松神仁東宮天久尾)
5 て一給ひて(井松神仁東宮天久尾)
6 時一時に(神)一をりに(宮)一折(久尾)
7 はたまて一はたに(仁)
8 たては一立ぬれば(神)
9 我こそハ一我杜(コソ)(天)
10 新嶋守一にぬ嶋守に(井松神)一新嶋守にと(仁)
11 よな一なりぬれ(井松神仁)一なれハ此嶋にとゝむるとも(東宮天)一なれハ此嶋にとゝむとも(久尾)
12 を一をハ(井松神東宮天久尾)
13 俄一俄に(井松神仁東宮天久尾)一に(宮)
14 波風一波風も(東宮天尾)
15 静にて一静りて(井神仁東宮天久尾)一しつまつて(松)
16 都へ一入々都に(井)一入々都へ(松神東宮天久尾)一ミヤこ人ハ(仁)
17 帰りけり一かへりける(松神)一帰りけるとなむ(東宮天久尾)
【六】とにかくに
1 肝に一肝要に(東宮天久尾)
2 きくへき也一聞へきなり定家隆も此うきのしにをよはすして不審をたて給ひしと也(東宮天久尾)
3 を見てこそ一を見てこそハ(井)一とこそ(東)
4 人の心もしるに一人の心をもしるに(井松)一人の心をしるに(神仁)一人の心をしるると云に(東)一人の心をしるるといふに(宮天久尾)
5 我ハ一我はいかにかくに(東)一われはとにかくに(宮久尾)一我ハとにかくに(天)
6 いなかの人の心一いなかの人(宮久尾)一人の心(天)
7 にす一不似と(井)一ナシ(久尾)
8 とにかくに心も一とにかくにくるも(松)一ナシ(東宮天久尾)

- 天久尾
9 みえす一見えはてす(井松神仁)一見もはてす(東宮天久尾)
10 して一得ころえすして(東)一心えすして(宮久尾)
11 心得して(天)
12 憂時いよく一うき時はいよく(井)一うきを野守のかゝみにして(東宮久尾)一うきを野守ノ鏡にて(天)
13 都人一都人の(井松神)
14 ことかゝミのことくしらるゝと一をもしれす(東)一をもしれと(宮天久尾)
15 也一あそはしけり(井)一あそはしける(松神)一あそはしける野守の鏡のこと口傳(東宮天久尾)
【七】かそふれハ
1 今年の暮ハ一ことしの暮も(天)
2 花の雪一花の木の雪(井松神仁東宮天久尾)
3 花の木一花木(仁)
4 日数一一日数ハ(東宮天久尾)
5 歳暮一年の暮(井神東宮天久尾)
6 しらるれと一しるれと(天)
7 なきことよなし(宮久尾)一なき事を(天)
8 也一あそはしけり(井)一あそはしける(松神仁東宮天久尾)
【八】かきりあれば
1 五文字を一ナシ(井松神仁東宮天久尾)
2 家隆卿一家隆(井東宮天久尾)
3 申されけるハ一申さるゝハ(東宮天久尾)
4 さすかに此君ハ哥の達者にてましますか一さすかに此君ハ哥の達者にておハしますか(松)一ナシ(東宮天久尾)
5 うさに一うたに(井松仁)一うたにて(神)一うきに(東尾)
6 くれて一忘却して(井松神仁東宮天久尾)一忘却し給ひ(天)
7 そのいはれは一その心われハ(宮久尾)
8 とハ一と(東天尾)一ナシ(宮久)
9 人によるか一生徳(井松神仁)一ナシ(東宮天久尾)

- 10 此君の一此君(井神)一此君の生得のさまの(東)一今此事の生得のさまの(宮久)一此君の生得の(天)一此事の生得のさまの(尾)
11 を一ナシ(神東宮天久尾)
12 御覽ある一見る(東宮天久尾)
13 ましまさねハ一ましまさハ(井松神仁東天)一ましませは(宮久尾)
14 にやわす一命あれハ可然侍るへきに(井松神東宮天久尾)一しかるへく侍へきに(仁)
15 と一是ハ似あひ候ハぬ由(井松神仁)一是ハ王あわぬよし(東)一是ハ似あひぬよし(東宮天久尾)
16 御落涙一後鳥羽院御らくるい(井松神仁東宮天久尾)
17 にそなをされける一にそなされける(井松仁東)一になされける(神久尾)一になされ(宮)一にそ成ける(天)
18 抑一けに(宮久尾)
19 王位として一王いとしくも(井)一王位としても(松神仁東宮天久尾)
20 事に一事ハ(井松神仁)一事と(天)
21 罪の罪(井神)
22 とはや一ナシ(井松宮尾)一はや(神仁東天久)
23 つくしつ一つくし(宮尾)
24 是のちにハ一是より後ハ(井松神仁東宮天久尾)
25 しらぬハ一しらぬ(東宮天久尾)
26 にも一にもや(井松神仁東宮久尾)
27 祝言一祝言(神)一ことふき(宮尾)一ことほき(久)
28 ふくミ一ふくミ(東宮天久尾)
29 かくそ一かくそあそはしける(井松仁天)一かくあそはしける(神東宮久尾)
【九】とはるゝを
(歌・歌注)一ナシ(東宮天久尾)
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
1 とはるゝを一とはるゝも(松神仁)
2 海一かミ(井)
3 するへし一しるへきなり(井松神仁)

- 4 唯義理—たゝかきり (井) —きり (神)
5 なさけのなさけの—なきを—情なきを (井) —なさけのなきを (松神仁)
6 都の—都 (松)
7 申されたりけれは—申けれハ (井松神仁)
8 文—文斗 (井松神仁)
9 なさけ—なさけの (松神仁)
10 と—こそと (井松神仁)
11 也—あそはしける (井松神仁)
【二〇】 桜咲
(歌注) —1 自讃哥註のことし、さくらのかへ九2とを山は3十の字ふくめる4なりし (東宮天久尾) (1 自讃 (宮) 自賛のうたの注 (天) 2とを山のとハ (宮) 3十の字を (天) 4也 (宮天久尾)
※以下、(東宮天久尾) の異同は略す
1 とき—ナシ (松)
2 繪—陰 (井松神仁)
3 あそはしたる—あそはされける (井松神仁)
4 いふ—云々 (井松神仁)
5 人丸の—人丸 (松)
6 したりをのなか—し夜をひとりかもねん—したりおの— (井) —したりをのなか—し夜を独かもねん (神)
7 を—心を (仁)
8 たり—たる (神)
9 遠山—遠山とり (井)
10 たる—たる (井松神仁)
11 あたり—わたり (神仁) —涙か (松)
12 かすめたる—かすめる (井松神仁)
13 遠望—えんち (井) —遠野 (松) —遠里 (神) —遠より (仁)
14 そ—てそ (井松) —ナシ (神)
15 給ふ—給へる (井松神仁) —給つる (仁)
16 近き—ちる木 (井)
17 より—よりも (井松仁)
18 を—そ (井松神仁)
19 余所の—こそか (井松神仁)
20 侍とも—侍れハ (仁)
21 遠近—遠き (松)
22 に—ハ (井松神仁)
23 は—ナシ (神)
24 賞する—生る (井)
25 にや—也 (井) —ハなるらし (仁)
26 なか—く—しナシ (仁)
27 にと—と (井) —もと (松神)
28 あひりよ—穀恵 (松)
29 杖—杖を (井)
30 くださる—也—くたるなり (仁)
31 は—ハナシ (井) —是は千秋万歳 (神)
32 哥をとる—とらる— (井) —かたをとらる— (松) —哥をとらる (神) —哥をとらる (仁)
33 を—をハ (井)
34 恋にとり—恋の哥を季に取 (松)
35 を—をハ (井)
36 季にとりて也本哥とるへし恋の哥をとりて—きにとる恋の哥を執て (井松神仁) —取て (松)
37 恋を—こひと (仁)
38 おもハ—思さぬ (仁)
39 如此こそとるへけれ—かくのことく執へし (井松神仁)
40 扱—ナシ (井)
41 霞を—霞と (松)
42 霞のこる—霞を残る (井松神仁) —霞を残せる (松)
43 うち—うち (井仁)
44 霞ハ—わたすミハ (井) —ナシ (松)
45 此—又此 (井松神仁)
46 多いりよ—穀恵 (松)
47 なれ—なるれ (松)
48 也—となり (井松神仁)
49 也—ナシ (井松仁) —と (神)
50 賞する—生る (井)
51 多いりよ—多いりよ (井) —穀恵に (松)
52 ちかつく—ちかつきし (井松) —近づし (神)
53 女房—女房たち (井)
54 とき—たき (井)
55 ハ—ナシ (神)
56 近きを—是をちかきを (井松) —是はちかき (神)
57 又—又は (井)
58 咲の—さくのか (井松仁) —咲の (神)
59 は—ナシ (仁)
60 ふくむと—ふくむ (松)
【二一】 露ハ袖に
1 比ハ—時ハ (仁)
2 ならひならね—ならならねと (仁)
(歌注) —1 自讃歌の2註のことし (東) (1 自賛 (天) 2 ナシ (宮天久尾))
3 御製—御別 (神)
4 に—には (神)
5 袖の—袖のぬれ (井松神仁)
6 心あるさるへし—浅かるへし (井松神仁)
7 袖には—袖にハいつも (井松神仁) —袖にいつも (仁)
8 にや—とにや (井松神仁)
9 殊に—こゝに (井松)
10 物のあ—れ—ものあはれ (仁)
11 至極せり—至極してこそ覚侍れ (井松神仁)
【二二】 みるまに
1 しくるめり—しくれる (仁)
2 此哥—此哥は (東宮天)
3 熊野—熊野に (東宮天久尾)
4 に云—といふ (井松仁東宮天) —ととま (神) —と (仁) —の (尾)
5 覽—説 (松神仁東宮天久) —せつと (尾)
6 不自然—不自然候 (井松神仁)
7 自讃—自讃哥 (宮天久尾)

- 8 御代のふくら也—御代ふくらか也 (井神) —御代さかりなり (東宮天久尾)
9 此—ナシ (松)
10 も—にも (尾)
11 豊饒—豊饒に (井松神仁東宮天久尾)
12 なれ—なれかし— (井松神仁) —なれはかし (東)
13 次第—く—に—下したに (井神)
14 吹ハ—ふかは (井)
15 花や—花も (井)
16 紅葉も—紅葉を (宮天久尾)
17 武士とも—武士 (松) —武士も (宮)
18 人—こゑ (井) —上 (松神仁東宮天久尾)
19 世をも—ナシ (井) —世を (神)
20 なやます—なやませは (東宮天久尾)
21 めり—める (神)
22 昔—むかし (松神仁東天)
23 ハ—ナシ (宮天久尾)
24 五節—五日 (宮天久尾)
25 今—いまハ風も (井松神東宮天久尾) —今 (仁)
26 君すむ—きみのすみたまふ (神)
27 也—あそはしけるなり (井) —あそはしける (松神仁東宮天久尾) —遊ハしけり (仁)
【二三】 人心
1 道にたとへて—あとにたとへて (天)
2 とハ—といふ (宮)
3 日本の義に—日本記に (井松神東宮) —日本の儀にも (天)
4 又唐土にもあらす—ナシ (井仁) —又大唐にもあらす (天)
5 唐土にもあらす (仁)
6 大廣路—大行路 (仁)
7 道ノあり—道あり (井松神仁東宮天久尾) —道也 (仁)
8 上より—ナシ (井)
9 くだけは—くたく (東宮天久尾) —摧く故 (天)
10 更に—更 (松)
11 車の一車 (井松神仁東宮天久尾)
12 此こと—此車 (天)
13 出して—出て (神仁天) —て (宮天久尾)
14 車をたにくたく道のあれは人の心のなさけなくて—車をたにくたく道のあれハ人の心情なくて (井松神仁) —ナシ (東宮天久尾)
15 我を—ナシ (東) —わか (東宮天久尾) —我 (天)
16 此嶋になかす事さのミにうらミしとてかくなんと也—ナシ (天)
17 さのミに—さのミ (東宮天久尾) —ナシ (天)
18 うらミしとて—うらみして (井) —うらめしとて (神尾)
19 かくなんと也—かくそあそはしける (井松神仁) —かくそあそはしける (仁宮天久尾) —かくそ遊しけり (東)
【二四】 なき人の
1 しくるらん—しほらん (東宮天久尾)
2 大國—大國の (東宮天久尾)
3 巫山の—ふさん (神) —巫山の (東) —巫山に (天)
4 神女—神女有 (天)
5 楚王の御狩の時あふて我を恋しとおほしめさは—ある男に (東宮天久尾) —ある男にハ (宮) —男に (天)
6 時—時に (神)
7 こと—ナシ (東宮天久尾)
8 給ハ—給ひなん (東)
9 給ひける—給ひし (東)
10 を—をハ (久尾)
11 後にも—後に (井)
12 おほしめし出されは—思召出され (松) —思出されハ (天)
13 雲となり雨となりて—雲となり雨成て (東) —雲と成て (天)
14 みえん—まみへん (神)
15 給ふ—給て (松)
16 雲雨—雨雲 (井神)
17 とも—ハ (仁)
18 しくれて—しられて (宮)
19 いづれか—何れ (井松神仁東宮天久尾)
20 しかと—日下とハ (井松神東宮天) —しるとハ (松) —しと (仁)
21 と—に (仁)
22 かく也—かくそあそはしける (井松神仁宮天久尾) —かくそあそはしける (井松神仁) —あそはしはへるにや (東)
—あそはしける (宮天久尾) —あそはしけるにや (天)
【二五】 詠つる
1 式子内親王—ナシ (東久尾)
2 けふハ昔に—けふは空しく (天)
3 梅ハ—梅よ (井神東宮天久尾) —梅に (松)
4 心をとあり—心を有り (井神) —心をとあり (松仁宮天久尾) —こゝろとあり (東) —心と (天)
5 此内親王—此親王 (松)
6 紅梅—紅葉 (東)
7 もてあそはれける—もて遊ひける (宮天久尾)
8 有時の—ある時 (東宮天久尾) —所時 (久)
9 タに俄—タに俄に (井宮天久尾) —タへにハかに (松神東天) —タにいかに (仁)
10 今朝までハ散シ—今朝までハちるらん (松) —今朝迄ちらん (東宮天久尾)
11 な—なき (宮天久尾)
12 忘れ—忘れ (神) —わすられめ (久尾)
13 軒は—軒の (神)
14 身つから—ミつからか (井松神仁東天)
15 にも—とも (東宮天久尾)
16 かく也—あそはしける (井) —かくあそはしける (松神仁東宮天久尾)
【二六】 忘てハ
(歌注) —1 自讃哥の註のことし (東) —自讃哥のことし (東宮天久尾) —自讃のことし (天)
※以下、(東宮天久尾) の異同は略す
1 心あらて—心ささて (井松神仁)

2 夕暮ハ夕暮の景色ハ(井松神仁)
3 打忘テ一打忘(井松神仁)
4 かくそおほゆる一かくこそおほえけれ(井神)一かくこ
そおほゆる(松仁)
【二七】桐の葉も
1 待となけれと一待となけれハ(井神宮)
2 別て一別して(井松東宮久尾)一ナシ(天)
3 と一とハ(井松神仁東宮天久尾)
4 いふに一いふハ(井)
5 内親王一此内親王(天)
6 定家卿一定家と(井松神仁東宮天久尾)
7 契り給ひし一契り給(井)一契ひし(久)
8 の給ふ一申されしハ(東宮天久尾)
9 やう一ナシ(井松神仁東宮天久尾)
10 大唐にハかならず一大唐にハ(井神)一大唐にかならず
(東宮天久尾)
11 なせり一なせは(井松神仁東宮天久尾)
12 みつからか一みつからハ(井)
13 いくほとなくて一いつほとなくて(東宮天久尾)一いつと
なく(天)
14 きこしめし一聞食て(井)
15 かうふり一かふり(松)
16 式子内親王にハ一式子内親王ハ(井松神仁)一内親王を(東)
一内親王ハ(宮天久尾)
17 齋院と申所に一齋院(東)一さいみんに(宮天久尾)
18 籠居し定家と一籠居し定家も(井神)一籠居し定家も(松
東宮天久尾)一籠居し定家と一(仁)ちう居していかにも
(宮)
19 かれく一にちりく(井松神仁東宮天久尾)
20 彼内親王一彼親王の(井仁)一彼内親王の(松神東宮天
久尾)
21 をハします一ナシ(井)一おハしける(松神仁東宮天
久尾)
22 御庭に一御庭にもの、(井松神仁)一庭に(東宮天久尾)

23 物の一ナシ(井松神仁東宮天久尾)
24 すき一すきま(東宮天久尾)
25 桐を一此桐を(井松神仁東宮天久尾)
26 君より一我君より(松)
27 待一まつか(松仁東宮天久尾)
28 かさねて一ナシ(東宮天久尾)
29 勸諭もや一勸諭を(井松神仁東宮天久尾)
30 かうふりをやせん一蒙りやせむ(井神仁天)一かふりや
せん(松)一かふりけん(東宮天久尾)
31 ふみ分一ふみ(宮天久尾)
32 かならず一かならず(松)
33 待と一待とハ(井松神仁)
34 なけれと一なけれとものと(井)一なけれと(松神仁)
一なけれと(宮)
35 忍恋一忍の恋(宮天久尾)
36 心也一心(松仁)一ころとあり(東)一心と也(宮天
久尾)
【二八】詠佐ぬ
1 詠佐ぬ一詠わひ(神久尾)
(歌注)一自讃の如し(東)一自讃の如し(宮天久尾)一
二首自讃のこと(天)
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
2 世中に移て一世中にたえて(井松神仁)
3 と一ナシ(井)
4 業平の一業平(井)
5 春の心ものときからすと也賞心のいたり一はるのころ
いたり(仁)
6 也一有も(井松神仁)
7 ていへる也一にて出る也(井)一いへるなり(松)
8 月の一(松)
9 至極して一きハ待て(井)一極て(松神仁)
10 也一ナシ(井松神仁)
11 みをくるしむる一身をくるしむる(井松仁)一ナシ
(神)

12 に一ハ(井)
13 かくれ一かくるれハ(井松神仁)
14 野山一山野(井松神仁)
15 入か一入る(松仁)
16 もかな一かな(松仁)一もかなと(神)
17 也一ナシ(仁)
18 もてあそび一あそび(神)
19 心一御心(井松神仁)
20 かねて一かねつ(井松神仁)
【二九】それなから
(歌・歌注)一ナシ(東宮天久尾)
(歌注)一ナシ(天)
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
1 うれへの一うれひ(井)一うれへの(仁)
2 間一故(井)一ゆへに(松神仁)
3 平人ハみるに物うからず愁人ハみるに一平人は見るに
(神)
4 へし一しと(井神)
5 なかめをと一詠とハ(井)一なかめをは(神)
6 古哥の心一古哥心(井)
7 也一ナシ(井)
8 誠一誠に(井神仁)
9 申侍らん一申侍らん哥にいハくいにしへの賤のをたまき
くりかへしむかしをいまになすよしもかな(井神仁)一
申侍らん哥云々古のしつのおたまきくり返しむかしをい
まになすよしもかな(松)
【三〇】明て猶
1 定家卿一定家(井)一ナシ(東宮天久尾)
2 心そ一ころを(東宮天久尾)
3 也一ナシ(井松神仁東宮天久尾)
4 浦嶋ハ一浦嶋か(仁東宮尾)一浦嶋口(久)
5 契しに一契り(井)
6 三百四十八年一七百歳(東宮天久尾)一七百歳(宮天久尾)
7 経ても其古の一ふれとも(井松神仁東宮天久尾)

8 さま一ま(井松神仁)一ことく(東宮天久尾)
9 扱一ある時(東宮天久尾)
10 ふと一ナシ(宮天久尾)
11 帰りたく思給て一たき心出きたりしなり(井)一帰り度
心出来しま(松)一帰度心出来たりし(神)一帰度心
出来して(仁)一帰たきころ出きて(東宮天久尾)
12 すでに一さて(井)
13 帰る時一帰る時に(井)一ナシ(東)
14 乙姫一かの乙姫(東宮天)一かのをとめ(久尾)
15 を出さん一ナシ(東宮天久尾)
16 小箱一箱(井)一少しきはこ(天)
17 あたへ一あたへて(井松神仁東宮天久尾)
18 相構く一あいかまへて(宮天久尾)
19 箱を一箱(井松神仁東宮天久尾)
20 あくるな一あく(井)
21 ける一けり(井松)
22 あまりに一あまり(松仁宮)一まつ(神)一あやまり(久
尾)
23 みたく思ひ一見たく思ひて(井)一見たさに(松神仁東
宮天久尾)一見たくて(天)
24 明て見ければ一あけてみれハ(井神)一あけられハ(東
宮天久尾)
25 三百四十八年一七百歳(東宮天久尾)一七百歳(宮天久尾)
26 俄に三百四十八歳一十六のよわい俄に三百四十八才(井
一十六の忘俄に三百四十八歳(松)一十六のもの俄に三
百四十八歳(神仁)一俄に十六のものなりしか七百よさ
ひ(東宮天久尾)一俄に十六の姿七百餘歳(天)
27 なりて一なり(井松東宮天久尾)
28 そいたりける一いたりける(井東天久尾)
29 思ひけれ共かなハす一思へともかなハす(井松仁東宮天
久尾)一おもへとも(神)
30 此哥ハ一此うたに(井松仁東宮天久尾)一此哥(神)
31 旅宿にして一りよしゆくに(井松仁)一旅の宿の(神)
一旅のやとに(東宮天久尾)一旅の宿(天)

32 明よかし一あけよかし(井神仁)一明よく(松)
33 あけにければ一明ければ(井東宮天久尾)
34 古郷の一故郷(井神仁)
35 は一ナシ(尾)
36 浦嶋かは一このことく一浦嶋か箱のことくに(神)一此こ
とく(宮天久尾)
37 くやしや一くやし也(井)一くやしき(松神天久尾)一
くやし(仁)一くやしや(天)
38 とよみ侍る也一とよみ侍りけり(井)一とよみ侍りける
(松神)一とよみ侍ける(仁)一とてかくそよみ侍り(東)
一とてかくそよめりと也(宮)一とてかくよめりと也(久
尾)
【三一】年も経ぬ
(作者)一定家卿(天)
1 契ハ一契りも(神)
2 と也一なり(神)一となん(宮天久尾)
3 此ぬハ不たるへし一此ぬの字ハ不なるへし(井神仁)一
此ぬ字ハ不なるへし(松)一此ぬの字ハ不なるへし(東
宮天久尾)一此ぬ字ハ不なるへし(天)
4 にて一にては(松神東宮天久尾)
5 むら上の天皇一村上天王(井神)一村上天皇(仁東宮天
久尾)
6 給へる也一給ふ也(井松神仁東宮天久尾)
7 此つき山と一此筑山を(井松神仁)一この山を(東宮天
久尾)
8 と初瀬山一ナシ(井松神仁東宮天久尾)
9 ける一けり(天)
10 式子内親王定家と一式子内親王と定家と(松仁東宮天久
尾)
11 蜜通一みつとら(井)一みつとら(神)
12 親王一内親王(井松神東宮天久尾)
13 はつせ一初瀬山(天)
14 号してハ一号して(井松神仁)一名つけて(東宮)一名
つけ(天久尾)

15 ならしければ一ならされけれハ(井松神仁東宮天久尾)
16 定家のためにハ一ナシ(松)
17 朝一待(井松神仁東宮天久尾)
18 桐のはの哥一桐の葉(神)一桐葉の歌(仁)一此桐の葉
のうた(天)
19 後一後に(井神)
20 定家一定家と(井松仁東宮天久尾)一定家とは(神)
21 給ひて一給へハ(井松神仁)一給る(東)一給ふ(宮天
久尾)
22 わにくち一わに口の(井松神仁東宮天久尾)
23 時ハ一時(井松神仁東宮天久尾)
24 わにくちを一わに口をき(井)
25 きし一ナシ(井)一聞し(松神仁)一きしに(東宮
天久尾)
26 きくことよと説侍りけると也一聞事よと詠し侍りけり
(井)一きく事よと説侍ける(松仁)一聞とてかくそ讀
み侍りける(東)一きくこととてかくよめり(宮天久尾)一聞
とてかくそよみける(天)
【三二】あちきな
(歌注)一契タ一恋といふ心をよめり2自讃の如し(東)
(一といふ(宮)恋の(天)2自讃(天久尾))
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
1 みな一ナシ(神)
2 こと葉一言(井)一ことのは(松)
3 ける一(井松仁)
4 しんひやうのことにや一ナシ(井)一深妙の事にや(松
仁)一神妙の事にや(神)
5 哥一ナシ(井松神仁)
6 云へる一詠(井)
7 ま一ナシ(井)一まに(神)
8 こと一斗(井)
9 と一といへり(井)
10 こと一ナシ(松)
11 に一ナシ(井松)

12 ほれくしくほれくしくと(井)
13 色一有(井松)
14 つづけられたりつづけたたり(井)
15 とてかーとて(井松神)
16 ひるまーひる(神)
17 ものーナシ(神)
18 はー是(井松神)
19 言一言葉(神)
20 せへるーへたる(井松)
21 為兼卿ーためかねのきやう(神)
22 うちのみな人の哥ーうち(井)ーうちの哥(松神)
23 期たるーかへたる(井)ー数たる(松仁)ーかかんかへたる(神)
24 也ー是なり(井)
25 二には慈鎮のー二ハ(井)ー二にはしてん(神)
26 しりかほにーしれるかほ(神)
27 ハー候(松仁)
28 三つにはー三ハ(井)
29 詠とてーナシ(井松神仁)
30 なかめーなかわ(井松神仁)
31 花もー花にも(井松神仁)
32 散ーてる(松)
33 けれーけり(井)
【二三】こぬ人の
1 ほとー人(井東)
2 定家の卿其人をー定家卿さる人を(井松神仁宮天久尾)
ー定家さる人を(東)
3 下帯ー下ひれ(井神)ー下ひも(松宮久尾)ー下ひほ(仁)
4 いてー出(井松神仁東天)
5 まいらんー参(松仁)ーまいらせん(神)
6 夜ーに(神)
7 やうくーナシ(井)ー漸の(天)
8 思ふーおもひける(神)
9 雲ー空(井仁)

10 かかるーかかりける(宮)
11 三千界ー三千里(松仁)ー三世界(宮久)ー三千世界(尾)
12 ともーは(尾)
13 力ーちかく(井)
14 其ことくーそのことく(東宮天久尾)
15 来たくはーくるたひハ(東宮久尾)
16 おもはんすれ共ーおもわれんすとも(宮)ー思へれんすれとも(久尾)
17 人ー人目
18 さへられーさはられ(宮)
19 心ならずにー心ならずにそ来さるらん(井松神仁)ーてそこさるらん(東)ーてえこさるん(宮)ーてそこさるん(天久)ーて帰こさるん(尾)
20 と読りーと也(井)ーさのミに恨とハ思ふまじとてかくそあそハしける(東)ーさのミに恨そとハおもふまじとてかくあそはしける(宮尾)ーいにしへのミ恨みとハ思ふまじとてかくよみ侍る(天)ーさのミに恨をとハ思ふまじとてかくあそハしける(久)
【二四】移りけり
1 ながらへよさのミあたるなからへよたのミあたる(井松仁)ーなからへてさのミあたる(東)
2 ハーとハ(松東宮)
3 等閑なかりしー等閑なき(東宮久尾)ーあかなき(天)
4 給ひしことー給ひし事ハ(井松神仁)ー給ひし事(東天)ーたまふ事(天久尾)
5 我とかー我とハ(松仁)ー我とも(宮久尾)
6 人ハいふへきにー人ハいへ(井神仁)ー人ハいへは(松)ーナシ(東宮久尾)ー人もいへ(天)
7 御身ー身(松)
8 とハーは(神)
9 今の人にーと人に(天)ー今その人に(久尾)
10 よしさらばーナシ(東宮天久尾)
11 しかとー日下(井天)
12 かへるなもしーかわるなもうし(井神)ーかくるなもし

(松)ー替るな(天)ーかはるなとし(久)
13 亦ー君また(東天)
14 給ハハー給ハ(井松神仁東久)ーたまハし(尾)
15 已前もーいせんもかくのことく(東)ーいせんのことく(宮久尾)ー以前もかくの如くに(天)
16 世間にーせうと人に(井)ー生得に(松仁)ーせうとく(神東宮久尾)ー生徳の(天)
17 あた人と人のいハハーあた人なりと人のいハハ(井松神仁)ーあた人といハハ(東天)ーあた人いわん(宮)ーあた人といハハ(久尾)
18 読りーよむ也(井)ーよむ(神)ーよめる(尾)
【二五】憑夜の
1 心の色の秋ー心の秋の色(宮久尾)
2 変思恋ー変戀(井)
3 いふーいぬ(神)ー云事(東)
4 我にーナシ(井神)
5 心の色ー心色(井)ー心の色の(宮)ー秋色の(尾)
6 こそされはー来されは(井松神東宮天久尾)ーこぬされハ(仁)
7 木の間ー木の間の(井松神仁宮天)ー木の事の(東)ー此間の(久尾)
8 きよかりしかー澄めりしか(神)ーよかりしか(東久)ーきよかりしに(宮)
9 俄にー俄(松)
10 なみたにーなみた(井)ーナシ(東宮天久尾)
11 かく読りーかくよめる(仁)ーかくそよみ侍る(東)ーとよめり(宮)ーかく侍り(天)ーとよめる(久尾)
【二六】されはこそ
1 人帰りけれー人かへりけれ(久)ー人かへりけれ(尾)
2 浅茅原ー小笹原(宮久尾)
3 ねたしやーねたくや(井松神天)
4 こほれすーこほれつ(井)
5 浅茅原ーあさちか原(天)
6 とハーハ(東宮天久尾)

7 人ーナシ(井松神仁東宮天久尾)
8 人ありと聞けれー人あると聞えけれ(尾)
9 帰るさーかゑさ(井神)
10 名残をおしー名残おしミ(宮久)
11 さらくーさらは(宮久尾)
12 おもハりつるかーおもハさりしか(井)
13 なみたもこへれさりけれはー涙こほれさりけれは(井神)ーなみたもこほれさりけれは(松仁宮天久尾)ー涙もこほれけれは(東)
14 されはこそーこそ(宮久尾)
15 ならぬーならす(東宮天久尾)
16 いふかあらねたしやーいふかねたや(井)ーいふかあらねたや(松神仁東宮天久尾)
17 とよめりーとよみ侍る也(井)ーと読侍りけり(松仁)ーやとよみ侍る(神)ーとてかくよみ侍りけり(東)ーとてよみ侍る(宮久尾)ーとてかくよみ侍り(天)
【二七】消侘ぬ
1 消侘ぬー消あへぬ(宮久尾)
(歌注)ー自讃のことしこからしの森駿河又山城(東天)ー自讃哥のことし木からしの森駿河又山城(宮久尾)
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
2 秋の色ー秋の心(井)
3 思ひー思ひの(井松神仁)
4 移ふるーうつろへる(井)ーうつろふか(仁)
5 ことしーことくに(井)ーことく(松仁)
6 森の名ーなに(松神)
7 こかすーこかる(井)
8 と思へともーとなりおもへとも(井)
9 とやーとにや(松神仁)
10 筆にー筆にも(神)
11 ことしーことくに(井)ーことく(松神仁)
12 侍へしー侍し(井松)
13 まつをの類ーまつの浦にたくい(井)ーまつの浦のうらのたくひ(松)ーまつの浦のたくい(仁神)

14 也ーなれ(井松仁)ーなれは(神)
15 也ーなむ(井松神仁)
【二八】囀るさの
(歌注)ー恨変戀とあり自讃のことし(東)ー恨て変する恋とあり自讃のことし(宮久尾)ー恨恋と有自讃のことし(天)
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
1 人をー人ハ(井松神仁)
2 ことなへーかたへ(神)
3 とーとや(井)
4 にハーに(松)
【二九】かはれた
1 別の道のーわかるミちの(井松神仁東宮天久尾)
2 物ハおもハしー物ハありやと(宮久尾)
3 いハんとてーいはむとて(東宮天久尾)
4 我ーわかれ(尾)
5 あれ共ーあれとて(井神仁)ーあれといへとも(松)
6 恋しなんー恋死になん(東久尾)ー恋死しなん(天)
7 恋路にしなん(宮尾)
7 たとへーたとひ(松仁東天久)ーたとひたとへ(宮尾)
8 しぬともーとも(井松神仁東久尾)ーしぬるととも(宮)ーしぬる共(天)
9 我ゆへともよもおもハしー我故ともおもハし(井松神)ーわれ故共よし思ハし(仁)ーわれ故ともおもハし(宮久尾)
10 乱たハハーみたれは(宮久尾)
11 我ゆへー我思ふ(井松神東天)ー我ゆへ思(仁)ーおもふ(宮久尾)
12 思ふへきーおもふ(天)
13 とてともーとも(井松神仁東宮天久尾)
14 ハーナシ(井神)
15 さへる也ーさわる心也(井松仁東宮天久尾)ーさへる心有(神)
【三〇】花咲は

1 似たるー似たり(井)ー似る(神)
2 春風そ吹くー春風そふく(井松神仁東宮天久尾)
3 はなさへにこよとー花見に越と(井)ー花見にこよと(松神)ーはな見よと(仁)ー見にこひと(東)ーみにこひと(宮)ー花見に来と(天)ー見にこよと(久)ー見にといひ(尾)
4 花ハーはなさけハ(天)
5 こぬとー来たらぬに(井松神)ーこぬ(宮久尾)ーこぬに(天)
6 吹来れはー吹きたれは(神)ー吹くれは(宮久尾)
7 にたると讀りー似たりとよめる(井)ーにたりと読り(松神東天)
8 こてふハこよ也ー来よと云心なり(井)ーこてふハこよと書事也(松)ー小蝶はこよといふ事なり(神仁)ー小蝶とハこよと云事也(東宮天久尾)
【三一】思ふ毎
1 思ふ毎ー思ふ事(井松神仁東宮天久尾)
2 とそ成ーとそいふ(井松神東宮天久尾)
3 水のかしハー水かしハ(東宮久尾)
4 津の國ー振津国(東)
5 難波うらー難波の海(井)ーなにハのうら(松神仁東宮天久尾)
6 手ころー手たつ(天)
7 書てー書付て(松)
8 會ハんするーあはんとする(宮天久尾)
9 うかふーうかむ(宮)
10 石しつめー石しつミ(井松神仁宮天久尾)ー此石しつミ(東)
11 なみたのうかふ也ー涙うかふなり(神)ー涙にうかふ也是を水のかしはといふ也(東宮久尾)ー涙に浮ふ也是を水のかしハとハミん(天)
【三二】袖にふけ
1 旅宿恋の心をとありー旅宿の恋との心となり(宮)ー旅ね宿恋の心をと有(天)ー旅宿の口の心をと也(久)

2 我をさそな人もぬるらんめー我をさそな人もぬるらんめー(井松神天) ーわれハさそな人もぬるらんめー(仁)
ー我を人ともさそなぬるとらめ(天) ー我を人ともぬるらんめ(久尾)
3 ともふらめーとておもふらめ(松) ーともおもふらめ(神) ーともおもふらめ(仁) ーともおもふらめ(東) ーともおもふらめ(天) ーともおもふらめ(久尾)
4 我ハ人とも人と(井) ーわれハ人々(仁) ー我ハ人とも(宮尾) ー我ハひとり(久)
5 夢にもみし思ふにー夢も見しおもふに(井松神仁) ー夢も見ぬと(東宮久尾) ー夢もみぬとおもふに(天)
6 吹かへさはーふさかへせは(井松神仁) ー吹かへらは(宮天久尾)
7 妻子ともか袖に吹てー妻子共に吹て(天)
【三三】出る共
1 山のはもなしーやまのはのもし(神)
2 會恋人にあはさりし時ハー遠き恋の心人にあはさりし時は(東) ー遠き恋の心あはさりし時ハ(宮久尾) ー遠き恋の心人にあはさりし時ハ(天)
3 入はー入るハ(天)
4 山のはのー山のは(東久)
5 思ふーあふ(神)
6 ぬれはー居れば(仁)
7 なくてすくると也ー月をおもハぬと也(井松宮) ー月をおもハぬと也(神) ー月を思ハぬなり(仁久尾) ー月をおもハぬと也(東天)
【三四】我恋ハ
1 とハハハ(東宮天久尾)
2 またー来(神)
3 鷹のこと也ー事也(井松神仁) ーと云事なり鷹と云ものハまたす(入る)さき手にもしたかハねハ(東天) ーといふ事也たかといふものハまたす(いれぬ)さきハ手にもしたかハねハ(宮久) ーといふことなり鷹といふ物はまたす(いれぬ)さきハ手にもしたかハねハ(尾)
4 鷹匠ー鷹師(井) ーたしやう(神)
5 うちとけてねかたきことくにー打とけてねかたきこときに(井) ーうちとけたかきことくに(東宮久尾) ーとけかたき如くに(天)
6 いまた我にもしたかハ給ハねハー未収にもしたかハ給ハ(天) ーいまた我にもしたかハ給ハ(久)
7 打とけてねられぬー打とけねられぬ(井松神宮天久尾) ー打とけられぬ(東)
【三五】思ひかね
1 庵とへはーことハハ(井松神仁東宮天久尾)
2 松ハミゆやとー松は見ると(東宮天久尾)
3 ハしめはーはしめてハ(天)
4 又思ふ人にもしらせしー又とふ人にもしらせん(東) ーおもふ人にもしらせん(宮久尾)
5 我思ふ人のー我人の(宮) ー人の(久)
6 あの岡邊の松ハうつくしき松かなあの姿のあたりにハーナシ(松)
7 うつくしき松かなーいつくしき松かな(東宮天尾) ーいつくしき哉(久) ーナシ(松)
8 あの姿のあたりー松のあたり(井) ーあのあたり(東)
9 たかすミ給ふなどいひてー誰かすミ給ふなど云て(東宮天久尾)
10 とハす語りーとハすやかたり(宮) ーとハす(久)
11 せはーせん(井)
12 さんとしてー縁とせん(天)
13 我思ふ人のことをいはいハやーわかおもふ事をいはいハや(井松) ー我思ふ事もいはいハや(神) ーとハす語をもいはいしや(東) ー問すかたりをもいはいしや(宮) ーとハす語をもいはいしや(天) ー問すかたりをもいはいしや(宮) ーはしや(久尾)
14 と読りーとよめる(神) ーと也(天)
【三六】おきもせず
1 葉平ーナシ(井神宮久尾)
2 夜をー夜ハを(井松仁東宮天久尾)

2 籠れりーこもり(松)
3 古今にハ春日野ー古今に春野(松)
4 までーにてハ(井) ーにて(松神仁東宮天久尾)
5 いせ物語にー伊勢物語(東) ーナシ(宮久尾)
6 にくたりなんー下り本(井松神仁宮天久尾) ー本(東)
7 くらす本ーくらす(東)
8 二つー二本(井) ー二(松仁東宮久尾) ー二ほん(神) ー二品(天)
9 くらす本ハーくらす本(松) ー此本は(東)
10 くらす本ハ(宮)
11 ぬすみーぬすみて(井神)
12 逃かくれ給ふをーにけられは(井) ー逃かくれ給ひ(松) ー逃かくれ給(神仁) ー逃かくれ給へは(東宮天久尾)
13 しけくしけなく(井松仁東宮天久尾)
14 をつかくるー追かける(井) ーをつかくる(松神仁) ーをひかくる(東宮天久尾)
15 廣してーひろくしけなくをひかくるかの野はひろくして(東)
16 つくるー付(井) ーつく(松神仁) ーつけ(東宮天久尾)
17 籠るにーこもれる(井)
18 火ーナシ(神)
19 安穩なりーあんをんになり(宮)
20 よめりー説給へり(神) ーなかり(宮)
21 逃ありきぬへきーにけへき(井松神仁東宮天久尾)
22 又武士もー武士とも(井) ー武士共(松) ー又武士とも(神仁東宮天久尾)
23 をつかくへきやー追かけへき(井) ーをろかくへき(松) ーおつかくへき(神仁) ーおひかくへき(東宮天久尾)
24 是はー是(神) ーナシ(宮久尾)
25 百廿五坪ー普廿五壺(宮久尾)
26 侍るーあり(井松仁東宮天久尾) ーに有(神)
27 此御座敷ー此心座敷(松) ー此座敷(仁天) ーナシ(東宮久尾)

3 伊勢物語ー葉平伊勢物語(井)
4 ーナシ(井神)
5 二条の后にしのたひにをハしけるととき葉平行給ふにーナシ(神)
6 しのたひーナシ(神) ー西の京(東宮尾)
7 をハしけるーナシ(神) ーおはしましける(宮久尾)
8 行給ふにーゆかれける(井松仁東宮天久尾) ーナシ(神)
9 二条の后ー二条の后ハ(井松神仁東宮天久尾)
10 折てー折(東宮天久尾)
11 おハしますーおハしまし(井)
12 花をすてーにけ給ひけりーナシ(仁)
13 すてーにけ給ひけりーすてーにけけり(井) ー捨て遊給(神) ーナシ(仁) ー捨にけ給ひけり(東宮天久尾)
14 とりてーナシ(宮久尾)
15 香らんーかうらん(井松神仁宮久尾) ー高欄(東天)
16 ざして置ーざしをき(井松神仁) ーさすされは(東宮天久尾)
17 后のーなをも是を見るたひに後の(東宮天久尾)
18 御事ー事(松神仁東天)
19 せてーせず(天)
20 らるーらる(井)
21 給ふかととへはー給ふかと思ふは(井) ー給ふこととへは(お)
22 さらにー更(松)
23 唯ーナシ(井)
24 面白ーおもしろき(井神) ー面白さ(松仁東宮天久尾)
25 こそとーこそおきもせずねもせてなかわれと(東宮天久尾)
26 給ふーこたへ(井東宮天久尾) ーこよとふ(松神仁)
27 弥生晦日ー弥生の晦日(松宮尾)
28 なかめー詠て(井松神仁東宮天久尾)
29 なにをー何に(井松神仁東宮天久尾)
30 せよてかーよせて(井神久尾)
40 御事をー事を(井神東宮天久尾) ー事をも(松仁)

41 かくよミ侍りけるーかくそ言侍り(井) ーかくそ説侍りける(松仁) ーかくそよミ侍る(神) ーかくよめり(東天) ーかくよめりと也(宮) ーよめりと也(久尾)
【三七】信濃なる
1 とかめんーとかめぬ(井松神仁宮天) ーとかめそ(東久)
2 をちこちハーをちこち人は(東天) ー遠近人とハ(宮久尾)
3 遠近也ーとをくちかきと書也(宮久尾)
4 信濃のー信濃の国(松)
5 たけのーナシ(東宮天久尾)
6 たちかくれーたつかくしなくに立ハ(井松仁東宮天久尾) ー立てかくしなくに(神)
7 縁にしてー縁にて(井) ーえにして(久)
8 みなくをふくむーしなくをふくむ也(井) ーしなくをふくむ(松神仁) ー品くをふくめて(東) ーしなくをふくめは也(宮尾) ー品々をふくめハ(天) ーしなくをふくめる也(久)
9 葉平都に思ふ人七八人ー宮古におもひ人七人(宮久尾)
10 たりーナシ(井松神仁東宮天久尾)
11 しくの思ひなりーしく思也(松) ーしくなくを思ふ也(東)
12 けるをーさて浅間の嶽の煙をハミる人とかむるか我おもひのしくなるをハなとか(井松仁) ー扱あさまの嶽の煙をハ見る人とかむるか我か思ひの品々をハなとか(神) ー扱浅間のたけの煙を見の人とかむるか我思ひのしくなるをハ何と(東天) ー扱浅間のたけの煙を見の人とかむるか我おもひのしくなるをハ何と(宮久尾)
13 とかめすーとかめぬ(井松神仁東宮天久) ーとかめん(尾)
14 たれー是(天)
15 ものをと也ーとなり(井神) ーをとなり(松仁) ーをとりよめり(東天宮尾) ーとよめり(久)
【三八】武蔵野ハ
1 けふハなやきそーけふハやきそ(久)

28 ひろければー一ひろければ(松仁東宮天久尾)
29 名つけぬー名つく(井松神仁東宮天久尾)
30 座敷ー御さしき(井)
31 居給ふー給ふ(井松神仁) ー居たる(東宮天久尾)
32 をのくー各(神宮天久尾)
33 とほしーともし(井松神仁東宮天久尾)
34 さんーせん(東)
35 をー時(井松神仁東宮天久尾)
36 よまれけるーよミける(井) ーよミければ(松) ーよまれけれハ(神仁東宮天久尾)
37 されハーナシ(井松神仁東宮天久尾)
38 おのくー各(神東天)
39 けるーけり(井松) ーナシ(天)
40 ハーと(東天) ーをハ(宮久尾)
41 なあけそと也ーけふハなやけそ也(神) ーけふなあけそなり(仁) ーけふハなあけそとよめり(東宮天久尾)
【三九】思ひあらは
1 葎かーむくらの(井神仁東宮天久尾)
2 するものーしつるも(井) ーしつる物(松神仁東宮天久尾)
3 かくよまれけるーかくよめり(神) ーかくよまれけれ(仁) ーこそかくはよまれつれ(東天) ーこそかくよまれつれ(宮久尾)
4 大唐ー大國(東宮天久尾)
5 西氏ーせいし(井神宮久尾) ー西施(東天)
6 西氏ーせいし(井神宮久尾) ー西施(東) ー女(天)
7 をほしける時ーおほしける時に(井) ーおほしめしける時(尾)
8 余のものをーあまり物を(井) ー餘に物(神) ーあまりの物(東宮久尾) ー餘の(天)
9 思ふー思ひ(東宮天久尾)
10 よりてーより(井松神仁)
11 野草ー野原(東宮天久尾)
12 らるーらる(神仁久尾)

13 かくありても―あかても(東)
14 たゝまた(仁)
15 君を―君をハ(井松神仁)
16 うらみて―恨にて(神)
17 扱君彼涙をなかつても―さて君の涙をなかつても(井)―さて君彼のなみたをなかつても(松)―とも(神)―君彼涙をなかつても(仁)―扱君涙をなかつても(東宮天久尾)
18 夫の―男の(宮天尾)―それをこの(久)
19 にそにて(宮久尾)
20 と御とかめ―もとかめ(久)
21 後には海のひしき―彼女後にハひしき(井神)
22 してねて人なみたかととかむれはかい草を枕に―してねて人涙とかむれハ海草を枕(井)―ナシ(松)―してねて涙かとかむれは海草を枕に(仁)―してねて人涙かとかむれハ海の草を枕(東)―してねて人なみたかととかむれハ海の草を枕に(宮久尾)―してねて人の涙かとかむれハ海の草を枕に(天)
23 して伏―して有(井)―したる(松神仁東宮天久尾)
24 しめれり―しめりたり(東宮天久尾)
25 答ぬる―答(井松仁)―ことと(神東)―こたふ(宮久尾)―答ふ(天)
26 此ことを―此を(宮)
27 とも―ナシ(井)
28 ねもしなは―ねもとももしなは(井)―ねと死は(東)―ねてしなは(天宮尾)―ねとしなハ(久)
29 なにかハせん―何せん(東)―何かせん(宮天久尾)
30 を―に(東)―ナシ(宮久尾)
31 ハ―とハ(宮天久尾)
【四〇】武蔵鑑
1 思ふ―たのむ(井神)
2 返し―ナシ(井松神仁東宮天久尾)
3 の―ナシ(松仁)
4 かく―ナシ(宮久尾)

5 よみ―よみて(井松神仁東宮天久尾)
6 つかハしける―つかハしける返事(井神)―つかハしける返し(仁)―遣す返し(天)
【四一】年を経て
1 すみこし里を―すみにし里を(井東天)―すみにし里(神)
2 ゆかハ―草深(仁)
3 深草―草深(仁)
4 の―ナシ(神)
5 へ―ナシ(天)
6 かくよみて―よみて(井神宮)―かく読(松仁東)
7 つかハしける―遣す返し(天)
【四二】面影ハ
1 問ければ―尋けれハ(井)
2 やうも―用もなく(井松神)―宿もなくて(東宮久)―宿もなく(天尾)
3 答―こたへ(井)
4 おほゆる也―おほへなり(神)―覚ると也(仁)―おもほゆる也(久尾)
5 行みれは―行てみれハ(井松神仁東宮天久尾)
6 はうくとして侍ると也―はらくとして侍と也(松)―はうくとして侍るなり(神)―荒くとしたるとよめり(東天)―くはうくとしたるとよめり(宮久尾)
【四三】うち渡す
1 袖の梅か香―袖の梅かえ(井松神仁宮天久尾)
2 彼卿へ―かの京へ(井)
3 御たつね―尋(井宮久尾)
4 連る―たてまつる(井松神仁東宮天久尾)
5 しかれは―しからは(井)
6 夕かほのはなハ―夕かほハ(井松神仁東宮天久尾)
7 梅花―梅の花(井神東宮久尾)
8 ハ―ナシ(神)
9 うちとをる也―こそ越ると也(井)―うちとをると也(宮久尾)―打通す也(天)
【四四】高砂の

1 積り―つまり(宮)
2 鹿―鯉(井)
3 夜半―夜(久)
4 鹿ハ―ナシ(宮久尾)
5 こと―ナシ(東宮天久尾)
6 しらす―しらて(井松神仁東宮天久尾)
7 に―にヤ(井)
8 月―月日の(宮久尾)
9 白雪の―白雪(井松神東宮天久尾)
10 おもしろきに―おもしろきに(東宮天尾)―おもしろきに(久)
11 おもしろき―おもしろかりし(井松神仁東宮天尾)―おもしろかりし(久)
12 忘れり―しけれは(神)
13 忘れ―ナシ(井天)
14 扱ハ―さてハ此比(井松神仁東宮天久尾)―さて此ころハ(天)
15 までハ―迄(東宮天久尾)
16 月―日月(井松仁東)
17 也―よめり(東宮天久尾)
【四五】晝ハくる
1 みてハ―みてヤ(宮久尾)
2 不慮恋―あはさる恋の心(宮)
3 けいたん国―鷄旦国(松仁)―契丹国(東天)
4 此山鳥ハ鳴聲面白鳥也―此山鳥鳴こゑおもしろき鳥也(井)―ナシ(仁)―此山鳥を見るに鳴聲おもしろき鳥也(東天)―此山鳥をみるにいともしろき鳥也(宮久尾)
5 扱此山鳥―扱此鳥(神尾)―此山鳥(仁)―然共此山鳥を見るに(天)
6 玄宗―玄宗皇帝(井松神仁東天)―皇帝(宮久尾)
7 山鳥の―山鳥(仁)
8 にきて―にて(神)
9 こと―事と(東)―事を(宮天久尾)

10 思召―おほしめして(宮)―覚し召(天)
11 御使をたてられにけり―御使たつに(井)―御使立にけり(松神仁東天)―御つかひをたてにけり(宮久尾)
12 なにとも―なと(神)―何卒(天)―何と(久)―いかに(尾)
13 なかせたらん―なかせ給ひたらん(東宮久尾)―啼せ給ひたらんを(天)
14 后をほんのきさき―后(天)
15 立給ハん―たてん(井松神仁東宮天久尾)
16 扱老人の―扱一人(仁)―一人の(天)
17 佛神―仏神に(井松神仁東宮天久尾)
18 ふかく―ナシ(天)
19 折誓―折誓を(東久)
20 出来して―出来り(井神東宮天久尾)―出来したり(松仁)
21 山鳥―鳥(東天宮)
22 よるわかれ―夜ハ列る(松)―夜をは別る(神東宮天久尾)―夜を別る(仁)
23 なれは―なれと(尾)
24 しるミの鏡―顔見の鏡(尾)
25 みせられければ―みせけれハ(井)
26 我すかたの移るをめとりと思ひて鳴ければ―ナシ(神)
27 移る―うつろひたる(東宮天久尾)
28 めとり―女鳥(井東)―とり(仁)―めん鳥(宮天久尾)
29 ことを―事(井)
30 鳥―山鳥(神)
31 ひるハ―ひる(松仁東宮久尾)
32 そひて―そひ(宮久尾)
33 よる―夜をは(神仁)
34 見てハ―見て(東宮天久尾)
35 我ハ―我(井)―わか(神)
36 さうして―惣した(松)
37 ハ―に(井)
38 如何なるらん―いかならん(神東宮天久尾)

39 読る也―よめり(井松神仁東宮天久)―よめる(尾)
【四六】古ハ
1 後京極摂政太政大臣―ナシ(仁天)―後京極摂政太政大臣(東久)
【歌】―ナシ(神)
2 ありしに―有しか(井)―ありし(東宮久尾)―ナシ(天)
3 漢陽宮―感陽宮(天)
4 ましましける―おほしましける(東宮久尾)
5 我を真実におもハ―我を真に思給ハ(井神)―我をまことに思ハ(松仁)―ナシ(東宮久尾)―我を真に思ハ(天)
6 枕にして―枕として(宮)―枕にし(天)
7 あハん―あふ(東)―あふへし(宮久尾)
8 給ふ―給ひけり(井神)
9 それハ―一旦ハ―其ハ我ハ一旦ハ(井)―一旦ハ(東宮久尾)―一旦には(天)
10 つれなき―つらき(東宮天久尾)
11 とも―と(東)
12 かきり―きわまり(東宮天久尾)
13 の―そかし―そ有そかし(井)―あるそかし(神久)―のけるそかし(仁)
14 毎ハ―事ハ(井松神仁東宮天久尾)
15 いづかをかり共なし―いづかをかりともなし(宮久)―ナシ(天)
16 とも―とかくよめり(東宮天久尾)
【四七】おもへとも
1 帰るさを忘れははヤ―かあるさをわすれけれハ月もはや(井神仁)―帰るさをわすれハ月もはや(松)―前後しらす寝入月ハはヤ(東宮久尾)―前後もしらすね入り月ハ(天)
2 帰り給へ―をとろかして帰り給ふ(東)―おとろかしてかへり給へ(宮久尾)―驚かして給へ(天)
3 いふかとヤ―云とかや(井)―云かとかやと(神)
4 給ひけんするにとて―給ハんざりとてハ(井松神東宮天久)

【久尾】―給ハんとするざりとてハ(仁)
5 と云―ともいは(井松神仁東宮天久尾)
6 読り―也(井)
【四八】波そよる
1 みるめ―うきめ(井)
2 波そよるとハ浦のえんにてあれば也―ナシ(東宮久尾)―波そよるとハ海の縁にてあれば也(天)
3 にハ―ハ(東宮天久尾)
4 湖のことなれハみるめなし―湖なれハ(東宮天久尾)
5 みるめハなれとも―見るめもなれハ(東)―みるめもなれとも(宮久尾)―見るめもなれ共(天)
6 馴たる也―なれたるなりけり(井神)―馴る也けり(松)―なる也(東宮天久尾)
7 なくて唯うらむる―なくてうらみる(宮久)―なくてもうらみる(尾)
8 也―ナシ(井神)―成(久)
9 とよめり―とそよみ侍りけり(井)―とそ読侍ける(松神)―と読(仁)―とてかくよみ侍る也(東)―とてかくよみ侍る(天)―とてかくそよみ侍りける(宮久尾)
【四九】花守の
1 ほと―ほと(松)
2 おほき―おしき(天)
3 或説に里のはなにハ花守きひしければ山桜を折ほとにといへりしかるへからす―ナシ(東宮天久尾)
4 折―折ける(井神)―ナシ(東宮天久尾)
5 と―ナシ(井東宮天久尾)
6 花守きひしければ―花守きひければ―花守のきひしくして折事をゆるさねハ(東宮)―はなもりのきひしくしておる事をゆるさねハ(天久尾)
7 花の―ナシ(井松神仁東宮天久尾)
8 えたかな此枝かなとみるほとに―枝おらん此枝おらんとねかふて見れハ(東天)―枝おらん此あたおらんとねらふてみれハ(宮久尾)
9 手折め―たよりめ(東)

10 多きと読り—おほきかと読也 (井)
【五〇】こすの間に
1 こすの間に—こすの間も (井) —こすの戸に (神) —こすの間に (宮久) —こすの外に (尾)
2 時ハ—時 (東宮天久尾)
3 こよひ—宵 (天)
4 ぬれハ—ぬれは (宮久尾)
5 月ハ—ナシ (東宮天久尾)
6 きのふ—昨日の (松仁)
7 心—心地 (宮久) —心得 (尾)
8 ひとりや更ぬらん—独りふけぬらん (井神) —独り月の更ぬらん (宮久尾)
9 よめり—也 (井)
【五一】いかさまに
1 露もうらみん—露もうらみて (東宮久尾) —露をうらみて (天)
2 寄木恋—木によする恋とあり (尾)
3 同心—おなじ心 (井東天)
4 ならてハ—なくてハ (井松神仁東宮天) —なくハ (久尾)
5 下葉を—下は (井) —下を (神)
6 し—して (井神仁東宮天久尾)
7 を—をハ (東宮天久尾)
8 君—此君 (井松神仁東宮天久尾) —此君の (宮)
9 心かハるハ—心かはり (井) —心かハリハ (松神仁東宮天久尾)
10 色ハ秋の色—秋の (東宮久尾) —色ハ秋の (天)
11 うらみて—うらむ (井東) —うらみん (松神仁宮天久尾)
12 読り—也 (井松仁) —いへり (神)
【五二】やすらひに
1 野原と—野へとも (井神) —野はらと (東天) —軒はと (宮久尾)
2 けふハ—今は (神)
3 移さりし—たへさりし (井松神仁東宮天久尾)
4 いふ彼人の踏たる跡の草葉までもなつかしく—ナシ (久)

尾
5 人の一人 (神) —ナシ (久尾)
6 なつかしく—懐友 (仁) —ナシ (久尾)
7 古き—ナシ (天)
8 野原—軒端 (宮久尾)
9 ふみハみるかな—けふハみるかな (井松神仁東天) —けふ見つる哉 (宮久尾)
10 とよめり—とよめりたゆるこひの題なり (東天) —とよめりたゆる恋のこころ也 (宮久尾)
【五三】そのまに
(歌題) —絶戀 (仁)
1 我打ふすと—我うち臥は (神)
2 或夜—絶戀有夜 (井)
3 采女のかたへ—采女方へ (神)
4 夜ふかき—夜更ける (井) —夜深 (松宮久尾) —夜更たる (神) —夜更 (仁)
5 給ふときうねめ人を—給き彼采女を (井) —給時彼うねめ人を (松東宮天久尾) —給時彼采女を (神)
6 参らせしに—まいらせ給ひしに (井)
7 よふかければ—夜ふかに帰れば (東宮天久尾)
8 又—ナシ (天)
9 おもハめ—思ふらめ (井神)
10 帰入ぬ—かへらぬ (井)
11 前に—さきに (井仁東宮天久尾)
12 月かくれ—月かたれ (井松仁東) —月かたれと (神) —かたれ月 (宮久尾)
13 た—ナシ (東天)
14 うちふすと也—うちふすかと也 (井) —うちふしぬるとよめり (東宮天久尾)
【五四】人すまぬ
(歌注) —定家も家隆もたの字に舌をまく1自讃のことし (東) (1自讃哥 (宮尾) と自讃哥 (久))
※以下、(東宮天久尾) の異同は略す
1 閑路秋風—閑路の秋風 (井)

2 撰録—せつろく (井神)
3 として—して (井)
4 此閑屋荒廢して—此閑はひしく (井) —此閑あれ廢して (松) —此閑あれはいらて (神)
5 人すます—人はすまぬ (井) —人すまぬ (松神仁)
6 人毎に—人毎 (仁)
7 旧跡—旧説 (神)
8 舩に—はいに (井)
9 こ—ナシ (神)
10 行末—往来 (井松神) —行来 (仁)
11 秋風—秋の風 (井)
12 気色—景風 (井) —景気 (神)
13 袖にも—袖も (神)
【五五】春日山
1 春に—よそに (久)
(歌注) —1藤原氏に2あり南家北家なんけは近衛殿ほつけハ2二條殿しかそ3ハしかとなり一説4にハ5北家近衛殿6九條南二條南一條殿なり7如自讃 (東) (1藤氏 (久尾) 2二條殿也 (天) 3とハ (天尾) 4に (宮久尾) 5北家ハ (宮天) 北家を (久尾) 6九條殿 (宮久尾) 二條殿 (天) 7自讃の如し (天) 自讃哥のことし (宮久尾))
※以下、(東宮天久尾) の異同は略す
2 閑院臣—閑院のおとと (井) —閑院の臣 (松) —かんの大臣 (神)
3 南園堂—なんねん堂 (松)
4 南の岸に堂を立—峯に堂たて (井松神仁)
5 とそ—今そ (井松神仁)
6 神託の—神託の (井松仁) —神託 (神)
7 殊北家—殊に北家 (井松仁) —殊に北南 (神)
8 よみ給へる—よみよみ給ふ (井)
9 さそかくそなど云—さそかくそなどいへる (井神) —さそかくそなどいへり (松) —さそかくそなどとか (仁)
10 都の—ナシ (松)
11 本哥に—本哥に云 (松仁)

12 しかそすむ—鹿を思ふ (井)
13 北の藤氏—北殿こそ (井) —北のふし氏とは (松) —北の藤うち (神) —と藤氏 (仁)
14 近衛殿九條殿二條殿一條殿—近衛九條二條一條 (松) —この衛殿九條殿 (神)
15 春とハ—さてまた春とハ (松)
16 栄花—えいけい (神)
17 と—とハ (井松神仁)
18 春日明神—春日の明神 (井神)
19 しかと—しかそ (井松神)
【五六】みる度に
1 小町—ナシ (松仁宮久尾)
2 王—わうハ (神)
3 后—きさきの (神)
4 千人あり有とき—千人有時 (宮久尾)
5 かの后を—彼きさき (神) —かの御門の后を (東宮天久尾)
6 申ければ—申さるれば (東宮天久尾)
7 勅ありければ—勅ありけり (井) —勅ありけるは (松神仁天) —ナシ (東宮久尾)
8 千人の—ナシ (東宮久尾)
9 繪にうつして—繪写し (神)
10 わろき—みめわろき (井松神仁東天尾) —みめのわろき (宮久)
11 るひす—かのるひす (松)
12 あたへ給はん—あたゑん (井神仁東宮天久尾) —あたつて (松)
13 后—后たち (天)
14 みな—皆々 (井松神東宮天久尾)
15 繪師にひきてものをいたす—ナシ (宮久尾)
16 その中に王照君ハをのつから—王照君ハをのつから (井松神仁東天) —ナシ (宮久尾)
17 みめの—みめ (井松神仁東宮天久尾)
18 ならは—一なれば (松仁東宮天久尾) —第一なれば (天)

19 繪師に—ナシ (井松神仁東宮天久尾)
20 も—ナシ (尾)
21 して—ナシ (井松神仁東天)
22 あしくは—わろくハ (井松仁) —わろきやには (神)
23 おもハれる所に—おもひける所に (井) —思ひしに (神) —思はれるハ (東) —おもはれければ (宮天尾) —おもハれハ (久)
24 腹をたてあるか中にもわろくかきける—ふくりうして一番のミめわろき女にそかきける (井神東) —腹立し一番のミめわろき女にそ書ける (松) —腹立し一番のミめわろき女にそ書ける (仁) —腹立して—はんにみめわろき女にそ書ける (宮) —腹立して一番のミめわろき女にそ書けり (天) —立腹して—はんにミめわろき女にそ書ける (久尾)
25 倫言—りんげん (井神仁東宮天久尾) —倫言 (松東天)
26 あせのこと—ナシ (天)
27 朝暮—朝夕 (東宮天久尾)
28 花西宮—くわせいぎうの (井神東宮天久尾)
29 のこと—ナシ (東宮天久尾)
30 見てハ—ミテ (井松神仁東宮天久尾)
31 みめの—みめ (天)
32 よきことをうらみ—よきこそうらめしけれ (東宮天久尾)
33 か—らさきせは—か—らさきしぜは (井)
34 うき目にはあはし物をと也—うき目にハ達しとなけきしことく (井東天久尾) —うきめにハ會ましとなけきしことく (松) —浮目をあはしと歎し事く (神) —うきめをミるへきこと歎しことく (仁) —うきめにハあはしと也歎しことく (宮)
35 てや—ナシ (井松神仁天) —てこそ (宮久尾)
36 少将の—生々の (井) —少将 (松) —王照の (宮尾)
37 か—りて—か—り (井松東宮天) —かか (神仁久尾)
38 かく物にくるふと也—物にも狂人とかく (井) —物にもくるへきかくよめり (松) —物にもくるへきかくよめり

(神) —物にくるへとて読 (仁) —物にもくるへとてかくよめり (東宮久尾) —物にもくるへとよめり (天)
【五七】曇た
1 暁月の—暁の月 (東宮天) —暁の月の (久尾)
2 さやかなりければ—さやかなれば (東) —さやかに成りければ (宮尾)
3 夕の月—夕影の月 (東)
4 みれば—見てハ (宮) —ミハ (久尾)
5 今朝別たる人—けさめれたる人 (天)
6 恋しきに—恋しき (井)
7 なかく—にくもれと也—中く曇れと也 (井松神) —月くもれとてかくよめり (東) —月くもれとてよめる (宮久尾) —月くもれとてかくよめり (天)
【五八】たかなミタ
1 たかなミタ—たな涙 (井東宮)
2 姉と妹とは—姉妹は (天)
3 思草—思ひ (久)
4 紫竹—紫艸 (東)
5 大唐—もろこし (東天) —唐土 (宮久尾)
6 娥皇女英—といふ—かくうちよといふ (井松神仁) —娥皇女英といふ (東) —かくうちよといふ (宮久)
7 姉妹あり—あねいともあり (井久宮) —あねいともと有 (尾)
8 舞—しゆん王 (神) —莞 (久尾)
9 人—人々の (井松神仁東宮天久尾)
10 湘浦—せうほの海 (井) —湘浦のうらにて (松仁東宮天久尾) —しやうほの海にて
11 別をしたひ紅涙にて—別をしたひける涙紅にて (井松神仁東宮天久) —我をしたひける涙紅にて (尾)
12 竹に—竹 (井)
13 染黒成—そまりまたらなり (井神) —染黒紋有 (松仁東) —そめくろきもん有 (宮) —そめくろき紋有 (天久尾)
14 と云云—と云 (東)

15 業平小町に―業平の小野に (東宮天久尾)
16 ハーハ (井松神仁東宮天久尾)
17 なにそと何と (井) 何そ (松仁宮天久尾) 何とそ (東)
18 此哥にてこたへ給ふと也―此哥にてこたへける (井松神仁) 此歌にてこたへける (仁東宮尾) 此哥也と答える (天) 此哥にてこたへけると云々 (久)
【五九】 住吉と
1 壬生忠峯―壬生只峯 (井松) ナシ (神) 一みふの忠峯 (宮) 一みふの忠峯 (久尾)
2 海士ハいふとも―あまハつくと (仁) 一人ハいふとも (天)
3 をふ―おもふ (宮)
4 所へ―所に (天)
5 よみてつかハしける―よみてける (東) 一よみてやる (宮久尾) 一よみてつかえる (天)
6 いへとも―云共 (井松神仁東宮天久尾)
7 人忘草―人忘草 (井松仁東宮久尾) 一忘草 (天)
8 人に忘らるゝ―忘るゝ (井) 一人に忘らるゝ (天) 一人にわすらるゝ (尾)
9 忘草の事五つあり秘事也―忘草の事五つの口傳あり (井松神仁) 一忘草に五の口傳有 (東宮天久尾)
10 一ツにハ―一にハ (井松神仁東宮天久尾) 一ハ (宮)
11 穴―塚 (神)
12 生たる草―生たる草也 (井) 一生るすり草 (松)
13 ツツ― (井松神仁東宮天久尾)
14 周利盤特―はんとく (井)
15 尺迦の―釋迦 (仁)
16 あり―也 (東天)
17 名―我名 (神)
18 になひありきぬ―になひありきけり (井) 一になひあるきけり (松神仁) 一荷てあるきけり (東宮天久尾)
19 是しらて後此塚所―其むしよ (井) 一其墓所より (松神仁天) 其はか所 (東宮久尾)

20 草―草なれハ (井松仁東宮天久尾) 一草を (神)
21 荷と云也―茗荷と云也 (井松神東) 一ミやうかを云也 (宮久尾) 一名を荷といふ也 (天)
22 是を忘草といふ―是忘草 (井) ナシ (東宮天久尾)
23 三三ツ (東)
24 古き家―ふるき家の (井) 一古き家を (東)
25 跡―趾 (井松神仁東天) 一あと (宮久尾)
26 云―云也 (神東久)
27 四には〔わんさうを云也〕四にハくハんさうをいふ (井ナシ) (神) 一四ツにハくハん草を云也 (東)
28 されハ―ナシ (井松神仁東宮天久尾)
29 大門の御門―大唐の御門 (井) 一大唐の御門 (松神仁) 唐土の御門 (東宮久尾) 一唐の帝 (天)
30 ハ―ハツ (松宮久尾) 一ハ々 (東)
31 御とし―とし (宮天久尾)
32 父と兄に―ちとあふとも (井) 一父と兄とに (松神仁天) 一父と兄と二人に (東宮久尾)
33 給ふ―給ひし (井松神仁東宮天久尾)
34 深くなけたまひて―ふかく歎 (井松仁東宮天久尾) 一歎深して (神)
35 崩御―すてにほうきよ (井松神仁東宮天久尾)
36 たまハん―給へ (天)
37 とし給ひけれハ―とありけれハ (井) 一とし絶とき (神) 一と給る時 (仁)
38 ある醫師―醫師 (仁) 一あるくすし (宮久尾) 一ある醫師 (天)
39 くれハん草―甘草 (東) 一草 (宮天久尾)
40 候ハん―可有 (仁)
41 申―申給 (尾)
42 也―ナシ (井)
43 五つには住吉の忘草昔―五にハ (井神) 一五ハ住よしのわすれ草むかし (松仁) 一五ツには住吉の忘れ草ハ昔 (東) 一五には住吉の忘草ハむかし (宮天久尾)
44 すてに此ふこと―すてに此御ミこと (松) 一ナシ (東宮)

久尾) 一既に此ふこと (天)
45 給ひし―給ふ (井)
46 住吉の明神―住吉 (井松仁東宮久) 一ナシ (神天) 一住吉の (尾)
47 御なこりをしたひてんにあかりたまハんとし給ふとき―御名残したひて天にあかり給はんと時 (宮) 一ナシ (天) 一御名残をしたひて天にあかり給ハんとせし時 (久) 一御名残をしたひて天にあかり給ハんとし給ひし時 (尾)
48 諸神―しよてん (宮久尾)
49 神天にあかり―神天に登り (東天) 一此神にのほり (宮久尾)
50 此国に―此國 (井東天尾) 一此國の (神宮久)
51 哥道も―たうも (宮) 一歌道 (天)
52 中絶―絶 (仁)
53 人の心―人心 (松仁)
54 うへらるゝ―樹られける (神)
55 あまのこやねに―あまのこやねの姿に (神) 一あまの小屋根の見ごとに (東) 一小やねのみことに (天)
56 也―ナシ (宮久尾)
57 なかめ―よみ (天)
58 御こと―事 (井松神仁天)
59 忘給ふと也―忘れ給ハわすれ草と云也 (井) 一御忘れはわすれ草と云なり (松神仁) 一わすれ給へハ松を忘草と云也 (東宮天久尾)
【六〇】 有明の
1 後朝恋―後会朝戀 (井)
2 月の一ナシ (東天)
3 有明を憂ものといへとも有明よりも曉こそうき物なれ―有明をうき物と云然とも有明よりも曉ヨリうき物なれ (神) 一有明よりも曉こそうきものなれ (仁) 一有明をうき物なれ (東) 一有明を物うきといへとも有明よりも曉こそうき物なれ (宮久) 一うき物といへとも有明よりも曉こそうき物なれ (天) 一有明をうきといへとも有明よりも曉こそうき物なれ (尾)
【六〇】 有明の
1 後朝恋―後会朝戀 (井)
2 月の一ナシ (東天)
3 有明を憂ものといへとも有明よりも曉こそうき物なれ―有明をうき物と云然とも有明よりも曉ヨリうき物なれ (神) 一有明よりも曉こそうきものなれ (仁) 一有明をうき物なれ (東) 一有明を物うきといへとも有明よりも曉こそうき物なれ (宮久) 一うき物といへとも有明よりも曉こそうき物なれ (天) 一有明をうきといへとも有明よりも曉こそうき物なれ (尾)

4 有明もあれ―有明あれ (宮久尾)
5 はかり―ナシ (宮)
6 うきものハなし―うき物はハなし (東)
7 とよめり―と読りハかりハほと云事也 (井松神仁東宮天久尾)
【六一】 郭公
1 賜にくつてを―賜にくつはを (井) 一もすにくつを (松仁) 一もすにくつて (尾)
2 大唐に―大唐の (井松神仁) 一唐土 (東宮) 一唐 (天) 一唐土の (久尾)
3 高く―高き (神) 一たかふして (東宮久尾) 一高て (天)
4 峨々とそひえけれハ―かとそひへハしけれハ (井松東宮久尾) 一國をとそ見えてハしき國なれハ (神) 一峨々とそひえてハしけれハ (神天)
5 百済高麗大唐よりも―大唐百済高麗何方よりも (東宮天久尾)
6 然所に大唐の御門に―然る處に唐土の御門に (東天) 一然る所に唐土の帝 (宮尾) 一然に帝 (久)
7 俊會王―俊會 (東宮天久尾)
8 此―ナシ (東)
9 深して―ふかふして (宮久尾)
10 し出し給ふ―し出したり (井松仁宮天久尾) 一仕立したり (東)
11 蜀の王ハ―蜀の王 (松) 一蜀の国の王は (東宮久尾) 一蜀王は (天)
12 王なれ―王なれハ (井松神仁東宮久尾) 一ふかき生れなれハ (天)
13 千足の―千足 (松) 一ナシ (東宮天久尾)
14 砂金を―砂金 (松) 一金を (東)
15 はませ給ふ―はませられけり (井神東天) 一はませられけり (松) 一はませられたり (仁) 一はませられける (宮久尾)
16 しけり―し出しけり (東天) 一そしたりける (宮尾) 一したりける (久)

17 其後この牛を―此牛を (井) 一此後牛を (神)
18 蜀山―しよくの山 (宮)
19 けり―ける (尾)
20 蜀王―しよくの王 (宮尾)
21 此うしのことを―此事を (井) 一此牛を (仁) 一此牛の事 (天)
22 給ひて―給ひともよりちうよくふかき王なれハ何ともして (井) 一給本より重欲なれは何共して (松神仁) 一給ふてもとより重欲なれハ何とやらんして (東) 一たまひてもとよりちうよくゆなれは何ととして (宮尾) 一及て元ヨリ重欲なれハ何として (天) 一もとよりちうよくなれハ何率して (久)
23 此国へ―我國へ (宮久尾) 一我國に (天)
24 ひき入たくそおもハれける―引入んとおもひけれハ (井) 一引入とおもハれける (松仁) 一ひき入むと思われけるに (神) 一引入はやと思召ける (東天) 一引入れはやおほしめしけり (宮尾) 一引入はやおもひて (久)
25 臣下に大力者あり―しんかに大力の者あり (井松神仁) 一臣下に大力あり (仁宮尾) 一臣下の大力あり (東) 一臣に大力有り (天) 一臣下の大力者あり
26 名をは―一名を (井松神仁東宮天久尾)
27 云―いふ也 (東宮尾)
28 五杖―五丈に (東宮天久尾)
29 たいらけて―平させて (東)
30 我國へ―此國へ (井松神仁東宮久尾) 一此國に (天)
31 の給へハ―の給ふ (東宮尾) 一宣ふ (天) 一いふ (久)
32 此大山をうかりて道を平路にして―山をうかち道をたいらけて (井松神仁東宮天久尾)
33 此牛を入ける―此千足の牛を入られける (井松神仁) 一此千足の牛をそ入れける (東天) 一此千足の牛を入れけり (宮久尾)
34 されハ―さて (井松神仁東宮天久尾)
35 はまされハ―はませさりけれハ (東) 一はませされハ (宮天久尾)

36 を〔さ〕りける―をもせさりけり (井松神仁東宮天久尾)
37 俊會王―しゆんくわい (松神仁東宮天久尾)
38 そろへて―そろへ (宮天久尾)
39 彼―ナシ (仁)
40 うちとり―うちとる (井) 一とり (東天) 一うちとりて (宮久尾)
41 蜀の王ハ―それより率人して―蜀王率人して (井) 一蜀の王率人して (松神仁) 一蜀王の浪人したまひて (東) 一蜀の王の率人したまひて (宮) 一蜀王浪人し給て (天) 一蜀の王率人したまひて (久尾) 一すくる也 (神) 一そ過給ふ (東宮天久尾)
42 臣下―内 (井松神仁東宮天久尾)
43 常に―常々 (井)
44 塩をうる―しほ買 (井)
45 いたされける―出ささりけり (井宮尾) 一出さりける (松仁) 一いださざる也 (神) 一いたさるりける (東天久) 一死て後―しして (井) 一死語 (松) 一しして後 (神) 一死て後 (東天) 一しして後 (宮久) 一しして後 (尾)
49 給ふ臣下の―ナシ (井松神仁東宮天久尾) 一又 (松仁)
50 となる―となりてけり (井) 一に成 (松) 一と也てけり (神) 一になり (仁)
51 是により―是より (仁) 一是によりて (東宮天久尾)
52 郭公―杜鵑 (久) 一杜鵑 (尾)
53 ハ―ナシ (東) 一にて (天)
54 麻―あま (井東久尾) 一あき (神松仁)
55 中―中や (天)
56 うちに―中に (井松神仁東宮久尾) 一中て (天)
57 して―いて (井松神仁東宮天久尾)
58 ことくしなと―ことくしなと (井神仁天) 一事くしなとハ (松) 一ことくしなとハ (東) 一ことくしなとハ (宮) 一ことくしなとハ (久尾) 一音をは立す (松神仁東天)
59 た―すねをたてす (井) 一音をは立す (松神仁東天)

—音はたてず(宮久尾)
60卯月の四月の(井松神) —四月(仁)
61此ことをよめるなり —此哥をよみ給けり(井 —此哥を讀給ふ(松神仁) —此事をよめり(東宮天久尾)
【六二】さらばなと
1春の花 —春の花の(井松)
2夕の夕に(井)
3夕の夕に(井神) —夕の(松仁) —夕暮の(東宮天久尾)
4に —ナシ(井) —にも(東宮天久尾)
5花 —花の(井松神仁東宮天久尾) —ナシ(天)
6會 —くハ(宮久尾) —哀(天)
7には —ハに(松)
8かならず —数ならぬ(井松神仁東宮天久尾)
9よめり —よめる(久)
【六三】奈良坂や
1云たり —かけり(井神) —書たり(松仁東宮天久尾)
2女郎花 —女郎花(松)
3よるハ —よるを(神)
4色をかへてしほみける物也如此ひるへうつくしくあひしらいてなひかんなどといひて晩景にはや —ナシ(宮久尾)
5物 —ナシ(神宮久尾)
6如此 —此こと(井) —ナシ(宮久尾)
7うつくしく —いづく(東天) —ナシ(宮久尾)
8て —ナシ(井松神仁東宮天久尾) —なんと(東天)
9など —ナシ(天) —ナシ(宮久尾)
10晩景にはや —ハや晩景にハ(井) —ハや晩景に(松仁) —ハや暮景に(神) —ハや晩陰よりハ(東) —ハや晩景ヨリハ(天) —ナシ(宮久尾)
11色を —色(東)
12あらましのミにあひしらへは —あらましのミあひしらへは(松) —ナシ(仁) —有ましのミにあひしらへハ(天)
13人なれば —にもかくにもねちけ —ナシ(宮久尾) —人なれば —にもかくにもねちき(天)
14人と —人(松天)

15ねぬ —ねい人(井) —ねぬ(松神東宮天久尾)
16こと —ナシ(松神仁天)
【六四】人の子ハ
1親に似るなる物をとて —おやに似るものなれハとて
2忠峯 —たゝみね(井) —只峯(松) —忠峯(宮)
3にて —にて(仁)
4五歳にて —五ツのとし(天)
5父にも —親に(井) —父に(松神仁東宮天久尾)
6別侍 —わかれ侍ハ(井松神仁東天) —おくれ侍は(宮久尾)
7父母の —親母の(井) —父母(東宮久尾)
8似たる —似る(井松神仁東)
9みてかくとよめる —ミてとなり(井) —見てかく読り(松仁) —見てよめる(神) —見てよめり(東宮久尾) —みるよしよめる(天)
【六五】小男鹿の
1いつかハ —いつしか(神東宮天久尾)
2ある野 —ハ入野 —いるハ(井松神仁東天) —井る野のハ(宮尾) —井るのハ(久)
3居の字 —るも(神)
4面白 —おもしろく(井神) —おもしろし(松宮久尾)
5薄面白 —又つをはなをもしるく —ナシ(神)
6又 —ナシ(井松神仁東宮天久尾)
7おもしろく —おもしろし(井宮尾) —ナシ(神)
8あまたの —かく(井) —かくあまた(松神仁東宮久尾) —あまた(天)
9そろ —はとて(そろハ逆も(井) —たゝつたなくも(東) —こつたなくも(宮久尾) —共ハとて(天)
10いも —妹と(井松神仁東宮天久尾)
11よめり —也(井天)
【六六】とへはいふ
1とへはいふ —とへはいふ(松)
2ある女と —有と(神) —ある女に(東) —女に(天)
3もの —ナシ(井)

4給へは —給ふ(松)
5彼 —ナシ(神)
6より —ナシ(井)
7給なん —給ハむ(井松神仁) —し給ハん(東宮久尾) —しなへと(天)
8又 —ナシ(井)
9返し —返事の哥に(井仁) —返し —返しの哥にハ(東天) —返哥には(宮久尾)
10とハぬも —問ねは(宮) —とハねハ(久) —と問ねは(尾)
11給へは —たまへ(久)
12いかにしてか御氣にも —いかにしてかハきにも(井) —いかにしてか御機にも(東)
13恋死に —恋しに(松仁) —こひしに(東)
14するなど —するなど(井松神仁天) —するなどと(東宮久尾)
15おり —ナシ(天)
16あるらん —とあるらん(松) —あらん(天)
17讀ける —よみけり(井松仁東宮天久尾) —よめる(神)
18力皮 —力技(松仁)
19さする —さす(井松神仁東宮天久尾)
20絶す —たらす(東)
21武蔵鎧と —むさし鎧(井松神仁東宮久尾) —ナシ(天)
22いへり —よめり(東宮天久尾)
【六七】野とならば
1出て —かく(神)
2跡 —趾(井松神東宮天) —あと(久尾)
3やなりて —とやなりなむと(井松神仁東宮天久) —やなりなん(尾)
4よみて —読(松仁東宮天久尾)
5我ハ —ナシ(宮久尾)
6なきをらば —をらば(井) —なきをらん(宮久尾)
7さハりなんと —とさハらむとなりかりハ狩也(井松仁) —さハらんとや(神) —さハらんとて此哥をよみ侍り

けるかりにハ狩なり(東) —さはらんとて此哥をよみ侍りけるかりはかり也(宮久尾) —さはらんとて此哥をよみ侍りけるかりハ狩也(天)
【六八】園ふこと
1やみなまし —やみぬへき(井松仁東宮天久尾) —やみぬへし(松)
2の —ナシ(東)
3おほしめす —思食ける(井松仁東宮天久尾)
4なく —なし(東久)
5何とて —ナシ(東宮久尾)
6いはて —いはてそ(宮久尾)
7にや —に(宮久尾)
8とそあるにふしん —とハ有そと人々ふしんの有に(井松神仁) —とハあるそと人々不審をかるに(東) —とハ有そと人々不審有に(天) —とはあるそと人々ふしんをあるに(宮久尾)
9死語 —死去して後(井神) —死期(東) —死後に(宮久尾)
10三十三年 —三十三年の(井松神東宮天久尾)
11嵯峨 —しやか(神)
12にて —にや(神)
13作善 —させん(井神) —供養(松) —座禪(宮久尾)
14三条右大臣の —三条の右大臣の(井神宮久尾) —三條の右大臣(東)
15扇に —扇の繪(東) —扇の繪を(宮久尾) —扇子の繪に(天)
16さしぬきたる —さしぬきたる(松東久) —さしぬき穿たる(天)
17業平か又 —業平(井東) —なりひらか(松神仁東宮天久尾)
18源氏かと —と人 —源氏かなと(井神) —源氏かなと(人々(松仁東宮天久尾)
19あり —也(東久尾)
20のもの —ナシ(井松神仁東宮天久尾)
21妹也 —妹と也(神)

22是をめしてあつさにかけてとはせられよとあれハ —是をめしよせとハせられよと人々申ける(井) —是をめしよせとハせられよと人々申ける(松仁) —是をめしよせとハせられよと人々申ける(神) —是を召のほせてとはれよと人々申ける(東宮天久尾)
23則めして —さるほとに(井松神仁東宮天久尾)
24かた —かた(宮)
25又 —なり(井宮天久尾) —ナシ(松神仁東)
26妹の —ナシ(天)
27けるに —けられ(東宮天久尾)
28たかハす —たかハぬ(井松神仁天) —ちかわぬ(東宮久尾)
29業平 —業(神)
30給ひて —給ふて(東)
31いせ —伊勢の(仁宮尾)
32なるか —ナシ(井) —成候か(宮) —也(天)
33むすひて —結び(井松神仁東宮天久尾) —むつひ(宮)
34いたさんため —出為也と(井) —出さんため也(松仁東宮天久尾) —出むため也と(神)
35か —に(東宮天久尾)
36人なれば —人しなれば(宮天久尾)
37もし —あさけりにや —あけにや(井)
38願ハ —語なり —あらハるハかたるなる(井) —あらハるはかたるなり(神) —あらハれかたるや(東天)
39かくそいはれぬ —か様にてあそはしける(井) —かやうにそあそはしける(松神) —かやうにあそはしけり(仁) —かやうにもあそはしける(東宮天久尾)
40業平の —業平(神)
41三千七百三拾三人なり —三千七百三人也(神)
42扱 —ナシ(神)
43生る —日 —生る(井松仁東) —むまる(神宮久尾) —生日(天)
44なれば —也 —れハかくなり(井) —なれ也(松) —なればむかしをとこといふ也(宮久尾)

【六九】つゐに行
1思ハ —さりしに —思ハさりしを(井松仁東宮天久尾)
2是ハ —是を(井松仁東宮天久尾)
3業平のしせひと —也 —業平しせいの哥といへり(井) —なりひらのしせいの哥といへり(松神仁) —業平自辞の哥と云へり(東) —業平の死期の哥といへり(宮久尾) —業平自辞のうたといへり(天)
4死しかねて —しにかねて(井松神仁東宮久尾) —死かねて(天)
5ある —ありと聞へたりされは(井) —有にきこえたりされは(松仁) —有と聞へたりされは(神宮久尾) —あるときこへたれされハ(東) —あるにきえたり扱(天)
6此哥に假名字を —此哥にかなの字を(井神) —此哥も假字を(松) —此哥に假名を(東天) —此哥はかり猶(宮久尾)
7する —ナシ(宮久尾)
8ハ —を(井)
9耳に —み —にそ(井松仁東宮久尾) —哥にそ(松) —耳にそと(天)
10きのふ —昨日(井宮久尾) —も(松)
【七〇】心なき
1西行法師 —西行(天)
2一説 —説(松仁東宮天久尾)
3か —の許に(神)
4いよくハたつましきかなしければ —いよくハたちさハくましかたつハ(井) —いよくハ立ハさハくましか立ハ(松仁東宮天久尾) —いよくいたちさハくましかたつは(神)
5 —そたちぬるハ —こそと(井松神仁天) —こと(東久尾) —こそ(宮尾)
6しらねと云一説也 —しらねけりといふ(井松神仁東宮天久尾)
7是ならは —それならは(神) —思召ならは(仁) —ナシ(宮久尾)

8 西行―西行法師(宮久尾)
9を―の(松神仁東天久尾)―ナシ(宮久尾)
10すへき―ハすへきや(井松神東宮天久尾)―すへきや(仁)
11のこと―なり(井松神仁東宮尾)―たつと也(天)―と
り(久)
12とハいふそ―云そ(松)―とはいひける(東)―ハいひ
けるそ(宮天久尾)
13死し―死(仁)―死に(宮久尾)
14云也―いへり(井松神仁東宮天久尾)
15と―とハ(久尾)
16と云也―とハ云也(井神宮久尾)―とハ云也けり(松仁)
17墓所―むしよ(井神)―はか所(東宮久尾)
18まで―までハ(井神東宮天久尾)
19みな人―皆人の(仁)―みな心(東久)
20無心―無慮(井)
21慳食放逸―けんどんはういち(宮)
22水なとたむけければ―氷をたむければ(神)
23よめり―よみ給ひける(井松神仁東宮久尾)―よみける
(天)
24かならず沢などの―かならず野や澤などに(井東)―か
ならず野や澤などの(松仁天)―野や澤の(神)―必野
や沢の(宮天尾)―必野或ハ沢の(久)
25ほとりに立ものなり―ほとりにたつものなれば也(井)
―邊にたつと也(松)―ほとりに立也(神仁宮尾)―た
つ也(東)―邊に立る也(天久)
【七一】津の國の
1懐旧―懐旧の(宮)
2の―ナシ(井神久)
3ハ―の(井神天)―ナシ(久)
4蘆―蘆と(東宮久尾)
5の―ナシ(天)
6にきハひて―にきハひ(井松神仁東宮天久尾)
7やうに―に(井)
8国本ハ人の心もすくにして―ナシ(東宮久尾)

9なりて―なりたるよ(井松神仁東)―なりたる(宮久尾)
―成たるよ(天)
10上句に―ナシ(井)
11ハ―ナシ(井)
12蘆原國なれば也―芦原國なり(井)―芦原なればなり(宮
久尾)
13枯葉に―下の句に枯葉に(井松東宮天久尾)―下の句に
(神)
14と也―なりとハ(井松神仁東宮天久尾)
15とハ―いまハ(井松神仁東宮天久尾)
16人の心も―人の心もすくにして今ハ昔になるよとなり上
の句に難波の春ハ夢なれやとハ此國芦原國なれば也下の
句に風わたるなりとハ此國いまハ人の心も(井)
17なりて―なり(井)
18よめり―也(井)
【七二】哀かに
1板東の宮城野ハ面白所なれとも秋風立ときハ―関東ミヤ
き野は面白き所なれとも秋風立時は(神天)―ナシ(久
尾)
2物かなしき也―物悲しく有と也(宮久尾)
3哀や―哀(井東天)
4の―ナシ(仁)
5とも―なども(天)
6なみたを―涙の露(井松神仁東宮天久尾)
7我―我は(神)
8跡も―あと(宮久尾)―趾も(天)
9読り―となり(井)―とよめり草は女なり(東宮天久尾)
【七三】詠むとて
1とて―とも(宮久尾)
2に―ナシ(天)
3まいりて―まいり(仁)
4女院別てあるなど―申せばいかゝとてけふ春にも別―ナ
シ(天)
5別て―にわかれて(井松神東宮久尾)―別か(仁)―ナ

シ(天)
6けふ―今ハ(東宮久尾)―ナシ(天)
7別―わかれ又(井松神東宮久尾)―ナシ(天)
8別る―わかるゝ(井東天)
9かくよみ―見る―かくよみ侍り(井)―かくよめり(東久)
―かくよみ侍りける(宮尾)―よみける(天)
【七四】□□□(昔おも)ふ
1□□□ふ―昔おもふ(井松神仁東宮天久尾)
2にハ―に(神)―ハ(天)
3の―ナシ(宮久尾)
4置ても―をきてと(井松神東宮天久尾)
5ことのは―言葉に(井天)―ことのはに(松神仁)―こ
と葉に(東宮天久尾)
6なり―や(東)
7發心の後庭の木に―發心のうちにハ軒に(井)
8を―ナシ(宮久)
9そ―に(井松神仁東宮天久尾)
10今ハ―今(松神仁東天)
11をも―も(天)
12かきりければ―かゝりけれハ(井松神仁東宮天久尾)
13ハ―ナシ(神久尾)
14いと―いかに(井)
15と―とハ(井)
16世にも似す―世にもにぬ(井松神仁)―見し世に似ぬ(東
宮天久尾)
17よめり―なり(神)―よみけり(天)
【七五】月みはと
1月みはと―月みハと
2契て置し―契りをきてし(井松神仁東宮久尾)―契りて
出し(天)
3の―に(井)
4袖―袖を(神)
5に―とも(井神)
6思ひよ―思ひ出よ(井松神仁東宮天久尾)

7いゝつるに―いふに(井神)
8あくる年―あくるとしハ(井)
9高野の山―高野山(井松神仁東宮天久尾)
10出―出て(井神)
11読り―ナシ(天)
12我袖ぬるゝハきこへけり―我袖のぬるゝ事ハ聞へけり(井
神仁)―我袖の事ハ聞けり(松)―我袖のぬるゝ事ハ
きこへたり(東天)―わか事もなり(宮久尾)
【七六】風になひく
1行ゑ―行末(松仁)
2我思哉―我心かな(天)
3をさける―をけり(井神東宮)―置けり(松仁天久尾)
4摂政殿―摂政殿の(宮久尾)
5富士か―ふしハ(東)
6余の國にも―余國に(松仁)―余國にも(仁東宮天久尾)
7との事にて―との給へは(井神仁)―とて(松宮)―と給
ふ(東天久尾)
8も―ハ(松)
9行末は―行ゑハ(井松神東宮久尾)―行ゑを(天)
10しれは―ナシ(宮久尾)
11駿河に竹の翁と申もの有―駿河にて竹取の翁といふ者あ
り(宮久)―駿河にて竹取の翁といふ物有(尾)
12取て―とて(井)
13おけは―をさければ(宮久尾)
14卵―かい子(井松神東宮天久尾)―神(仁)
15うつくしき―うつくしく(東)
16なり―なる(井松仁東天久尾)―成候(宮)
17号す―号する(神)―申(東宮久尾)
18形―すかたの(東)―かたちの(宮久尾)
19廿五―廿五才(天)
20なる―成候(宮)
21の―ナシ(宮尾)
22けり―ける(井松神仁東宮天久尾)
23御むねのうへに―むねの上に(井)―御胸に(仁)

24鏡に―ナシ(天)
25火つき―火付きて(神)
26焼なんとしければ―やけんとしければ(松)―焼なんと
すそれより(仁)―なんとすれハ(天)
27へ―ナシ(天)
28のほせられける―のほられける(井神)―のほせておか
れる(東宮天久尾)
29それより―其後(仁)―ナシ(東宮久尾)
30たつ―ナシ(井神)
31には―に(東宮久尾)
32由来―故(井神)―由(松)―ゆゑの(東)
33思ひには―おもひは(東)―おもふ(宮久尾)
34行ゑもなし―行ゑなし(井松)―行末もなし(神)―行
末なし(仁)―由来もなく(東)―由らひもなし(宮天
久尾)
35よめり―也(井)―よみはへりけり(松)―よみ侍る(神)
―読(仁)―よみ侍り也(東)―よみ侍り(天)
【七七】時しもあれ
(作者)―源具親(松神宮)
1たのも―たのむ(井宮久尾)
2時しもあれ―ときしもあれハ時しもこそあれ(井松東宮
久尾)―時しもあれとも時しもこそあれ(神)―しもあ
れハ時しもこそあれ(仁)―あれハ時しもあれ(天)
3なと―なと(神)
4哥也―こと葉なり(井松神仁東宮天久尾)
5田面―たのむ(宮久尾)
6別―わかるへし(井)―別るゝ(東宮天久尾)
7なるに―也(東宮久尾)
8名残―余波(仁)
9思ふも―おもひ(東)
10は―ナシ(松)
11読り―かくなん(井)―かく読り(松)―かく也(神)
―かく読侍る(仁)―かくよみけり(東)―かくよみ侍
りける(宮)―かくよみける(天)―かくよめり(久)

―かくよみ侍り(尾)
【七八】今ハまた
1庭の―庭ハ(宮久尾)
2歳暮―歳暮の(井)―年の暮の(宮久尾)
3初冬―冬(尾)
4木のはも時雨も松風も―木のはに時雨よ松風よ(井天)
―木葉よ時雨よ松風よ(松神東)―木のはもしくれよ松
風よ(宮久尾)
5とて―なとて(東宮天久尾)
6ものありつる也―ものなり(東神)―物有つるに(天)
7歳暮―年の暮(久尾)
8時雨もなく―時雨なく(井)―なく(井宮天)―ナシ(久
尾)
9して―しけれハ(井松神仁東宮天久尾)
10たゝひとり―たゝ(松)―ひとり(東宮天久尾)
11時雨―時雨し(井)―時雨る(神尾)
12読り―よみ侍り(天)
【七九】木枯に
1木枯に―こからしよ(井松神東宮天久尾)―木枯と(仁)
2秋の有所―杉の在初(尾)
3恋の題―恋たひ(東)
4つれなけれ―つれけれ(仁)―つれなけれけれ(宮)
5をるゝ也―おる也(仁東天)
6に―ナシ(井神宮久尾)
7つれなけれ―つれなし(井松仁)―つれなく(神東宮久
尾)
8かきり―恨(東)
9其―ナシ(東宮天久尾)
10なくさまんとよめり―なくさまんとなり(井天)―なく
さむとよめり(東宮久尾)
【八〇】思ひ入
1雅經卿―まさつねのきやう(宮久尾)
(歌)―ナシ(天)
2まで―ませ(神)

- 3 寄深山窓―寄太山戀(井)―深雪による恋(宮)
4 周防内侍哥に―周防内侍の哥に(井)―周防内侍(天)
5 思ひ入にハ―おもひるにハ(仁)
6 けりける(天)
7 此比ハ―此心は(井宮久)
8 をは―を(神東宮久尾)
9 深きと―ふかきそと(井松神仁東宮天尾)―ふかき所と(久)
10 思ふ人―思ふ人の(神宮久尾)
11 あなた―そなた(宮久尾)
12 せ―ナシ(宮久尾)
13 ミレハ―ミレハ木の色もかすまてたしかにミゆれハ(井)―ミレハ木の色数まてたしかに見ゆれは(松神仁東宮天久尾)
14 までハ―にてハ(井東)―をハ(久)
15 ハ―も(神)
16 色にみゆれはと也―色にミゆれハなり(神)―色く―にミゆれはとなり(仁)―とよめり(東宮天久尾)
【八二】清見かた
1 家隆卿―ナシ(井宮久尾)
2 雲もうかはぬ―雲のうかはぬ(天)―雲もかすまぬ(宮久尾)
3 村千鳥―村折鳥(神)
4 幽玄―迷玄(井)―幽其(東)
5 有所也―なれハ(松)―也(東)―名所也(尾)
6 ことに月のあはれはよにまきれす―殊に月のあはれは世にまきれぬ(井神仁)―余にまきれぬ(松)―ナシ(東)―ことに月のあはれは夜にまきれなく(宮尾)―殊に月の有ハまきれぬ(天)―ことに月のあはれハ夜にまきれなし(久)
7 面白景也―おもしろき景氣也(井)―ナシ(東)―またおもしろき景なれは(宮久尾)
8 此―ナシ(東天)
9 うかはす―うかはぬさま(東宮久尾)
10 くもりなし―雲なし(井松神仁東宮天)―くまなし(久)

- 11 是そ月のくまなると也―是こそ月のくもりなりとて(井松仁)―是こそ月のくもりなれとよめる(神)―是こそ月のくもりなれとてかくよめり(東天尾)―是こそ月のくもりなれはとてかくよめり(宮久)
【八二】天河
1 その―ナシ(宮久尾)
2 なし―なしなし(仁)
3 とて―とてや(井松神仁東宮天久尾)
4 也―読り(井)
【八三】嵐吹
1 より―こそ(井)
2 拂らん―あらふらん(神)
3 と―ナシ(松)
4 ひきあわせて―引合(井)
5 よめる―よめり(井松神仁東宮天久尾)
6 吹―吹時(松仁)―吹とけ(神)―ナシ(東宮久尾)
7 むらかしハ―むら柏の(東宮天久尾)
8 吹か―せは―吹かゝらせは(宮久)
9 北国にて雪はらふに似たりければたかのさはより―北国にて雪を拂に似たりければ誰か軒はより(井東天)―北国にて雪拂に似たりければ誰軒はより(松神宮久尾)―ナシ(仁)
10 雪はらふ―雪ハらふそ(井仁)―雪ハ拂そ(松神東宮天久尾)
11 とてかく読り―とよめり(東宮天)―とてよめり(久尾)
【八四】花をのミ
1 有家卿―ナシ(仁東宮天久尾)
2 馴なる―なれたる(井神仁東宮天久尾)―列たる(松)
3 暁月―暁の月(宮尾)
4 ハ―のにハ(天)
5 花の在所なれハ―花在所なれハ(仁)―花の在所也(天)―花の所なれハ(久)
6 をしミ―ナシ(神)

- 7 に―を(宮久尾)
8 也―なるも(仁)―とよめり(東宮天久尾)
9 月と花と―月花と(東宮天久尾)
10 賞心也―しやうする心なり(井松神仁東宮天久尾)―賞也(天)
【八五】大淀の
1 波と松と―花と松と(宮)―花と松(久)
2 おもしろければ―おもしろき所なれハ此比ハ浪と奈とをしやうするか今宵ハ月おもしろけれハ(井神)―面白在所なり此比ハ浪と松とを賞するか今夜ハ月のおもしろけれハ(松天)―面白在所なれハ此比ハ浪と松とを賞するか今夜ハ月の面白ければ(仁東)―おもしろき在所也ければ此比ハ浪と松とを賞するか今宵ハ月のおもしろければ(宮久尾)
3 を―ナシ(天)
4 賞翫すれ―しやうすれ(井松仁東宮天尾)―賞する(神)―賞すれハ(久)
5 さて―ナシ(井松)
6 うらみて―ナシ(宮久尾)
7 思ひて―ナシ(松)―おもひて(仁)
8 をふかする也―をふかする(松仁)―ふかする也―ふかする(宮久尾)―する也(天)
9 よめり―読侍り(松神仁)
【八六】来ぬ秋の
1 暮初て―暮はて、(井松神仁東宮天久尾)
【歌注】―水邊冷自秋自讀の註の如とし(東)―水邊の秋よりも冷し自讀か註のことし(宮)―水邊冷自秋の自讀哥註(天)―水辺の秋よりも冷し自讀哥註のことし(久)
尾
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
2 月―自(井松神仁)
3 暮はて―くればて、(井松神仁)
4 そと読り―と也(井)
【八七】所校さす

- 1 宮内卿―ナシ(松神仁天)
2 けふ―おほ(井)―おふ(松神仁東天)―あふ(宮久尾)
3 にハ―ナシ(天)
4 入たる作者思返し恋の部に―入るか作者おもひ返して(井)―入るか作者思ひ返し(松神仁)―入るか作者思ひなをし(東宮久尾)―ナシ(天)
5 入られる―入られるか(井)
6 彼うらハ―波(神)
7 波風―風(井)
8 波に―ナシ(井)
9 ならす―ならぬ(井松神仁東宮天久尾)
10 なりも―ナシ(神)
11 ハン―といはん(宮天尾)
12 をふ―おほ(井)―あふ(宮久尾)
13 思ひし―おもハさりし(井松神仁東宮天久尾)
14 身にしむか―身にしみて(井)―身にしミ(天)
15 今又―今ハ(神)
16 よめり―よみけり(神)―よみ侍り(天)
【八八】月を猶
【歌注】―雨後月自讀のことし(東天)―雨のうちの月自讀哥のことし(宮)―雨のうちの月自讀哥のことし(久)
尾
※以下、(東宮天久尾)の異同は略す
1 なる―なし(井)―なるへし(松神仁)
2 かく―たたく(神)
3 景氣たとへかたし―景氣よくたえなるにや(井神)―景開たへなるにや(松)―景曲たとへなるにや(仁)
4 末の里人―あの人(井松神仁)
5 たとへハ―ナシ(仁)
6 高きかことくなりとそ―たかきかことく也(井松神)―たかき事なり(仁)
【八九】和哥の浦や
1 山邊赤人―赤人(天)
2 和哥の浦や―和哥の浦に(井松仁東宮天久尾)

- 3 かた―事(井松仁)―ナシ(天)
4 此―ナシ(宮久尾)
5 和哥の波―和哥のうら(井東尾)
6 よむ也―よめる也(井東宮久尾)―よめり(天)
7 に―まて(神)
8 かたを波のうつこと―かたをなみのうつ事なり(井)―ナシ(東宮天久尾)
9 此浦の神ハ玉津嶋にてまします―此浦の神ハ玉津嶋にまします(神)―此浦の神ハ玉津嶋にてましますと(仁)―おはします(東宮天久尾)
10 そとをり姫也―そと思ひ姫也(神)―そとをり姫(仁)
11 此姫ハ―ナシ(天)
12 神武天皇―仁武天皇(宮)
13 深かりける―深き(神)―ふかりければ(宮久尾)
14 扱神武―神武(天)―扱神武天皇(久)
15 そとをり姫の―そとをりひめ(井)―そと思ひ姫の(神)
16 まします―おはします(東宮天久尾)
17 うち給ふ也―うち給ふと也(井)―うち寄給ふ也(久尾)
18 扱此―此(松東天)―扱(神)―ある時(宮久尾)
19 心に―ナシ(天)
20 給ふ人也―給へなり(松)―ナシ(宮尾)―時(久)
21 或時赤人―ナシ(宮久尾)
22 餘た―ナシ(松)―あまと(仁)
23 多とも―多を(井)―多をも(神)
24 あまた―ナシ(仁)
25 あらんやうに思ふ処に―あらん様に思ふ処(松)―あらんするやうにある處に(東宮久尾)―あらんするやうに有所を(天)
26 塩みちきてければうちすて―しほミちくれハ打捨て(井松仁東宮久尾)―しほ満くれハ捨て(神)―しほミちくれハ(天)
27 蘆邊―声邊(神)
28 ことく―ことくに(井松神仁東天)
29 にいつれも―いつも(井神東)―もいつも(松宮久尾)

- ―にいつも(仁)―何も(天)
30 居る―居へき(井神東天)―有へき(松宮久尾)―あへき(仁)
31 風にさそハれ―風にさそハれて(井尾)―風かきそハれて(神)
32 栄花―榮よう(東宮天久尾)
33 うちすて―打捨て(井東宮天久尾)
34 冥途を―めいと(松)―冥途のたひを(東宮久尾)
35 殊も―ても(井松神仁東宮天久尾)
36 あらましと読り―と也(井松神)―と読也(仁)―とよみ侍り(東天久)―とよみ侍りける(宮尾)
【九〇】我恋ハ
1 慈鎮和尚―ナシ(天)
2 時雨の―時雨て(井)―時雨(神)
3 染んする―染入(東宮久尾)
4 て―ナシ(天)
5 風―(東宮久尾)
6 うらミ―うらミと(宮久尾)
7 ため―ために(久)
8 も―ナシ(神)
9 はしめハ―はしめ思立時は(東宮天久尾)
10 の―ナシ(井)
11 いきをふやうに―いきあふ様に(井)―いきおもふ様に(仁)―勢ひ(東宮天久尾)
12 を―ナシ(仁)
13 うらみて―恨(仁)
14 思風―おもひのかせも(井松神東天)―思のかせ(仁)
15 さハく―さハくなり(井神仁東宮天久尾)
16 よめり―よみけり(東)
【九一】いつまてか
1 にハ―ハ(松)―に(神東宮天久尾)
2 三世ある也―三世あり(井)―有也(宮久尾)
3 くもりて―くもらて(井松神仁東宮天久尾)
4 過去―過去也(尾)

5 えても得てもハ(井松仁東宮久尾) 一えてもとハ(神) 一えてハ(天)
6 也一ナシ(東宮久尾)
7 未來一未來也(井松仁東宮久尾)
8 にて一にてハ(井神) 一にてハ(松仁東宮久尾)
9 自のミツから(東)
10 心の月も心月(宮久尾) 一心の月ハ(天)
11 きよからねはきよからねハとも(仁) 一きよからねハ(久)
12 宿業一宿業を(井松神東宮久尾)
13 恨たる也一恨て詠る也(井)
14 とハ一ハ(仁東宮久尾)
15 自心一自心(神) 一自身(天)
16 願ん一あらハれん(井松仁東宮久尾) 一あらハむ(神)
17 也一と詠り(松神仁) 一よミ侍り(東) 一あそはしける(宮久尾) 一よみ侍りけり(天)
【九二】我恋ハ
1 下の句一旬(東天)
2 身をも一ナシ(東天)
3 給へること一たまハハ(仁) 一給へる事人をも身をもあひたると是ハ(東宮久尾) 一給へる事人をも身をもあひたりと也ハ(天)
4 本意には一本たにハ(仁)
5 か一ナシ(井神) 一也(東) 一や(宮久尾)
6 いハ一いハともさる事有てよミ侍りける(東天) 一いハともさる事有てよミ侍りける(宮久尾) 一いハともさる事有てよミ侍りける(天)
7 慈鎮一慈鎮の(井松神仁)
8 大内へまいられて一内裏に(井東天) 一内裏へ(松神仁宮久尾)
9 給ふ一にまいられける(井松神仁東宮久尾)
10 云一ナシ(仁)

11 御庭一庭(井)
12 ミ給ひて心をミたまて(仁) 一御覽して心(東宮久尾)
13 十月十日に四位の弁むなしくなるときとて扱も一十月十日にしろの弁むなしくなりけれハさても(井) 一四位の弁も十月十日にむなしく成と聞てさても(松) 一七月十日にしろのへんむなしくなりけると聞ても(神) 一十月十日に四位の辨むなしくなると聞へし扱も(東) 一四日のへんむなしく成てと聞てさても(宮) 一十月十日に(天久尾)
14 も一ナシ(井神)
15 なり一なる(東)
16 枯て一かれけれハ(東宮久尾)
17 人に一人にも(井松神東宮久尾) 一人も(仁)
18 思ふ一思ハ(松)
19 我一我身(井松神仁東宮久尾)
20 よめり一そよミ侍る(井) 一そよミ侍ける(神東宮久尾) 一詠侍り(仁) 一そよミ侍りけり(天)
【九三】影清き
1 一ナシ(松仁)
2 影きよき月をも我独り見て一ナシ(松) 一影清き月を我独り見て(神) 一影清き月をも我獨り(東宮久尾)
3 扱もこよひのナシ(松)
4 月にさへとはぬかとて涙をほろくとなかしけれハ一ナシ(久尾)
5 か一ナシ(宮久尾)
6 一ナシ(井松神仁東宮久尾)
7 なかし一かなれ(井松神仁) 一ナシ(久尾)
8 軒は一軒の(松)
9 秋の夜ハ一あきハ(宮久尾)
10 一ナシ(宮久尾)
11 詠侍りける一そよミ侍りけり(松神) 一よミ侍る(東) 一よミ侍りける(宮久尾) 一よみ侍り(天)
【九四】昔思ふ

1 俊成卿一ナシ(東宮久尾) 一俊成(天)
【歌注】一七十五歳の時よめり(東) 一七十五歳の時よめり自讃哥のことし(宮久尾) 一七十五歳にてよめり自讃のことし(天)
※以下、(東宮久尾)の異同は略す
2 詠ル一詠り(井松神仁)
3 時一侍(井)
4 ありとて一有て(井)
5 也一也と(松神)
6 申されし一されし(井)
7 當道の堪能として一たうとうのかんかんのうして(井) 一當道の堪能として(松) 一哥道のかんのうとして(神)
8 なにの一なに(井松仁) 一何か(神)
9 述懐一述懐の(仁)
10 發心ハ當來の一發心者利來の(井) 一發心しや當來(神)
11 の一ナシ(松)
12 もりくる雪ひまもなく一もりくる目下も憚もなく(井) 一もりくるも憚もなく(神)
13 よ一に(井松神仁)
14 蜀魄不如歸となくときく一しよくはくのはふちよきとなくをき(井) 一蜀魄不如と鳴と聞(松仁) 一しよくはくのはふちよきとなくをき(神)
15 郭公一時鳥の(井松神仁)
16 一ナシ(井松神仁)
17 哥也一哥也はじめの五文字を下の句のかしらにおきて見る哥なるへしほときすハ(井) 一うたなり初の五をしを下句かしらに置て見る哥なるへし時鳥ハ(松神仁)
18 おもハれし念に郭公となられしと也一たましいなる故にしよくはくとハなく也(井) 一玉しめ也故に蜀魄と時鳥を云也(松仁) 一たましひ也故にしよくはくと鳴也(神)
【九五】山寺の
1 能因法師一能因(天)
2 夕暮一タハを(井松神東宮久尾)
3 花ぞ散ける一花や散らん(松東天) 一花や散ける(仁)

4 此哥の下句入相の鐘にとある肝也一此哥の下の句に入達の鐘にと有かんなり(井仁) 一此哥下句に入会のかねにとあり肝也(松) 一ナシ(東宮久尾)
5 能因法師ハ津國一能因法師ハ津の國(井松神仁宮久尾) 一能因法師の國(東)
6 在所一所(井神)
7 草庵一草庵を(井松神仁東宮久尾)
8 居けるか一居給けるか(仁)
9 つほむか一つほむよ(井松神仁東宮久尾) 一答に(天)
10 ひらくそ一ひらくよ(井松神仁) 一咲よ(東宮久尾)
11 入見しにおもひしに(井松神仁東宮久尾)
12 きふと一聞て(井神) 一聞ハ不吉(松) 一聞ハふと(仁東宮久尾)
13 の一ナシ(松仁)
14 出来して一出来て(井松神東宮久尾) 一出来にして(仁)
15 の一ナシ(仁)
16 心の花も散けるそと也一こころの花ちりけり(井松神仁) 一心の花散けれはかくよミ侍りけり(東天) 一心の花ちりけれはかくよめり(宮久尾)
【九六】彦星の
1 菅丞相一菅相丞(井神仁東天) 一ナシ(松)
2 行あふを一あひを(井松神仁東宮久尾)
3 からなん一かくなん(東宮久尾)
4 七夕也一たなはたの事也(宮久尾)
5 也一ナシ(松)
6 大國一太國(井) 一大唐(東宮久尾) 一唐(天)
7 たひしたん一たいしたんの(仁)
8 御門よりめしとられけり一御門よりとられけり(松) 一御門より召とられける(東天) 一御門へめしとられけるに(宮久尾)
9 父母ことを思ひて一ちよはく戀しけれハ(井松神仁東天) 一恋しけれハ(宮久尾)
10 申けれは一申けれとも(井) 一乞申けれハ(東宮久尾)
11 からすのからすの一鳥の(井松神仁東宮久尾)

12 頭一首(神) 一あたま(宮)
13 侍へし一侍へし(井) 一まで(東宮久尾) 一待(天)
14 けれは一けんは(松)
15 仏神のめくみにや一仏神に深く折ける愛に(東天) 一佛神にいのりける愛に(宮久尾)
16 俄一俄に(井松神仁東宮久尾) 一なりて(宮)
17 なり一なりたり(井松神仁東天) 一なりて(宮)
18 庭前に来る一ナシ(井松神仁東宮久尾)
19 笠さきと申一かさきとハ申なり(井松神) 一驚と云そめたり(東天) 一さきといひはしめたり(宮久尾) 一さきといひそしめたり(久)
20 渡る一渡せる(神東宮久尾)
21 大國一太國(井宮)
22 より一なり(井)
23 むすふ一結び(井神) 一むすひしに(東宮久尾)
24 かいあそひしに一かいあそふさて(井松神仁) 一かひてあそふさて(東宮久尾)
25 成て一なり(東宮久尾) 一成を(天)
26 女七夕一めたなは(井)
27 となり一となる(松仁東久尾) 一成候(宮) 一とす(天)
28 そくちよと云也一しよくちよ是也(井松神仁東宮久尾)
29 には一ハ(松) 一に(神)
30 不淨一不濟(松仁)
31 いミ給へは一きらわるは(東宮久尾) 一嫌ひける故(天)
32 おそれて一惣て(井) 一然れば(神) 一忘れて(天)
33 一ナシ(松)
34 帝釋一帝釈天(尾)
35 善法堂に一ほうたうに(宮) 一善法他に(天)
36 時一ナシ(宮久尾)
37 力一小力(神)
38 えて一得(井松神仁)
39 昔一昔時(天)
40 て一ナシ(井)
41 とをす一わたす(井) 一通しける(天)

42 と一とハ(井神)
43 菅相丞一かんしやうくハ(井神) 一菅公(天)
44 つくし一九州(東宮久尾)
45 一へなかせ(井)
46 ましましけるか一ましましけるとき(井松神東宮久尾) 一まします時(松) 一ましましける(仁)
47 都一都人(神)
48 たくおほしめされて一給ハん道もなけれハあハれ(井松神仁) 一給ハん道なけれは哀(東天久尾) 一たまはん道をなけれは哀(宮)
49 かさききの橋からはや一かさききのしをはからはや(井松神仁東宮久尾) 一かさききはしをかせはや(東)
50 と也一とあそはしける(東宮久尾)
【九七】袖ひちて
1 貫之一ナシ(東天)
2 哥一哥ハ(松仁)
3 こほれるハ冬一こほるハ冬(松) 一氷ハ(神) 一又こほれるハ冬(宮久尾)
4 けふ一ナシ(井神)
5 扱一ナシ(松) 一扱は(東宮久尾)
6 是一ナシ(東宮久尾)
7 むすひしのしの字一結びしハレハ(宮) 一結びし水の字(天) 一結びしのしハ(久) 一結びしのしのしハ(尾)
8 扱袖ひちてとハ一扱袖ひちてハ(神) 一扱ひちてとハ(宮) 一袖ひちとハ(天)
9 袖ひたとむすふと也一袖ひたとすと結ふなり(井)
10 ハ一ナシ(神久)
11 ひた一にひたし(井久) 一にひた(宮天尾)
12 よりあひて一合て(松) 一より合て結ひて(天)
13 なる一成候(宮)
14 扱ハ一扱(神)
15 草木色一草木の色(井)
16 水ハ一水ハ冬也(井松神仁東宮久尾)
17 とハ一上は(井) 一と(松仁) 一ハ(宮)

18 終るを―おはり(井松神仁宮久尾)―おはりに(東天)
 19 地ハ地―地ハちへ(井神)―地へ(松)―地はちに(東)
 ―地ち(天)
 20 かへしたる―帰したるは(仁)―帰りたる(東宮久尾)
 ―妻々かへりたる(天)
 21 よむ―よめり(井松神仁宮天久尾)―よめるなり(東)
 22 かか貫之初口貫定成しか此哥によりかふりをおとして貫
 之口なると也―貫之ハはしめハ貫定なりしか此哥により
 かふりを落し貫之になると也(井)―彼貫之ハはしめハ
 貫定なりしか此哥によりかふりをおとし貫之に成(松)
 ―彼貫之ハはしめハ貫定なりしか此哥によりかふりをおとし
 貫之になる(神)―彼貫之ハはしめハ貫定なりしか此歌
 によりかふりおとして貫之に成仁―ナシ(東宮天久尾)
 【九八】ほのくと
 1 人丸―ナシ(天)
 2 に―ナシ(神仁宮天久尾)
 3 に―ハ(井松仁)
 4 離別部に―りへつの部に(井松東宮天久尾)―りへつのに
 (神)
 5 時―御時(井松神東宮天久尾)
 6 の―ナシ(天)
 7 にして―の(井神仁東宮天久尾)―ナシ(松)
 8 柿の本―柿の木の本(井)―柿本(東)
 9 廿四五―廿五(松)―四五歳(天)
 10 きたる―さしたる(東宮天久尾)
 11 なにもの―なにものそ(井宮天久)―何者そ(松神仁東)
 ―何物そ(尾)
 12 とひ給ふ―とい給へハ我にハちゝもなく母もなしと申せ
 ハゑいりよをかけ給ひて(井)―とひ給へハ我にハ父も
 なく母もなしと申せハゑいりよをうけ給て(松神仁)―
 の給へり我に父もなく母もなしとて申せはゑいりよをか
 け給ひて(東)―の給へはわれハ父もなく母もなしと申
 ければゑいりよをかけたまひて(宮)―宣へハ我ニハ父
 もなく母もなしと申せハゑいりよかけ給ひて(天)―の

給へハわれに父もなし母もなしと申けれハゑひりよをか
 けたまひて(久尾)
 13 めして―めしよせ(井松神仁東宮天久尾)
 14 二人の皇子―二人の王子(井神)―二人の太子(東宮久
 尾)―太子(天)
 15 給ふ―たまひし(宮久尾)
 16 一人をハしやうとの宮―一人をハしやうとの宮(井)―
 ナシ(宮久尾)―一人せうとの宮(天)
 17 扱此二人にそへ給ひければ天下無双のことをそ申ける―
 ナシ(東宮天久尾)
 18 此―ナシ(松東宮天久尾)
 19 給ひければ―たまへは(井松神仁)―ナシ(東宮天久尾)
 20 こそ―ナシ(神東宮天久尾)
 21 には―ハ(松)
 22 いみなかりける―いみななり(井松宮天久)―諱なか
 りける(神仁東尾)
 23 丸―人丸(神)―麻呂(東)―麿(天)
 24 給へり―給ふ(井松神仁東宮天久尾)
 25 給り―給(松神仁東)
 26 ける―けり(天)
 27 此―ナシ(宮尾)
 28 の―(東)
 29 御事―事(東宮天久尾)
 30 奉り―たてまつりてハ(井)―奉りて(松神仁東宮天久
 尾)
 31 〆とへ―たとへて(天)
 32 朝霧にしまかくれ行舟のことく―たゝ朝霧りに鳴かくれ
 ゆくふねのことくそ(井松神)―朝霧に鳴かくれ行舟の
 ことくそ(仁)―ナシ(東)―朝霧に鳴かくれゆく舟の
 ことく(宮久)―只朝霧に鳴隠れ行舟の如く(天)―朝
 霧にしまかくれ行舟のことく松のことく(尾)
 33 奉ると読―たてまつると読り(井松)―奉りて読む(東
 宮)―奉るとよむ(天久)―奉りよむ(尾)
 34 又一説に―一説にハ(井)―又一説にハ(松神仁東宮天

尾)―又一説ハ(久)
 35 わかく―若子(井松仁)―わかうく(宮尾)―若々
 (天)
 36 かかり―しけり(宮久尾)
 37 に―ナシ(天)
 38 有て―あつて(尾)
 39 をのく―ほのく(井松神仁東宮天久尾)
 40 也―と也(東宮天)
 41 あきらかにものゝ善惡をも―ものゝあきらかに善惡を(宮
 久尾)
 42 位也―ナシ(神)―也(東宮天久尾)
 43 扱朝霧にとハ運命つきての―ナシ(神)
 44 朝霧に―あさきり(井東宮天久尾)―ナシ(神)
 45 運命―運命の(井)―ナシ(神)
 46 よむ―よみ(井)
 47 四魔也―ナシ(天)
 48 此―ナシ(天久尾)
 49 よりて―よりてそ(仁)
 50 にハ―に(神)
 51 至らず―いたらぬ(井松神仁東宮天久尾)
 52 扱―ナシ(松)
 53 一命―一命の(井)
 54 御法を舟に―御法の舟(井)―御法の舟に(松神仁東宮
 天久尾)
 55 をつつかはや―おち付ハや(松仁)―おひつかはや(東
 宮天久尾)
 56 思ふ―思ひぬる(東宮天久尾)
 57 侍り―侍るけり(井)―ける(松)―侍けるとそ(神)
 ―侍ける(仁久尾)―侍りけり(東宮)―侍るとそ(天)
 58 此ほのく(の)の哥の奥ハかきりなき事なるへしとかや―ナ
 シ(井松神仁東宮天久尾)